



活動年鑑 10

2014.6 - 2015.5



青年技術士交流実行委員会

目 次

- ・ 青年委員会 2014 年度活動報告
- ・ ITG 活動報告
- ・ 例会 G 活動報告
- ・ 国際 G 活動報告

[例会活動報告書]

- ・ 2014/5 Your English is Better than you think !
- ・ 2014/6 地域本部交流会議、テクノツーリズム
- ・ 2014/7 平成 26 年度夏休み理科教室
- ・ 2014/8 ビアパーティ
- ・ 2014/9 年間計画大会
- ・ 2014/11 座談会 企業家技術士と働くことについて語ろう
- ・ 2014/12 テクノツーリズムとスポーツ交流
- ・ 2015/1 技術士を目指そう、修習ガイダンス 2015 パネル討論
- ・ 2015/2 未来に繋げるライフワークプランを描こう！
- ・ 2015/3 はじめの一步。技術士を続ける力【技術士エンジン】を探せ！
- ・ 2015/4 特別例会「2015 年 4 月特別例会（青年技術士展 2014 1 次・2 次試験合格者交流会）」

[国際交流活動報告書]

- ・ 2014/9 マレーシア・日本技術士交流会 2014
- ・ 2014/11 CAFEO32（内部開催 YEAFEO Meeting 21）
- ・ 2015/3 マレーシア技術者来日対応報告書

[サッカー&テクノ活動報告書]

- ・ 2014/5 サッカー練習会
- ・ 2014/7 フットサル練習会
- ・ 2014/10 日韓技術士国際会議（日韓親善サッカー大会）
- ・ 2015/3 フットサル練習会

[地域本部活動報告書]

- ・ 北海道本部
- ・ 東北本部
- ・ 中部本部
- ・ 近畿本部
- ・ 中国本部
- ・ 四国本部
- ・ 九州本部、平成 26 年度技術士全国大会 青年技術士交流実行委員会の報告
- ・ 北陸本部、第 42 回技術士全国大会（富山）紹介

[青年委員自己紹介]

青年技術士交流実行委員会統括本部 2014 年度活動報告

委員長 山本憲志

本委員会は、研修委員会の下部組織であり、各部会から推薦された委員・委員補佐により構成されています。また委員には各地域本部より推薦された地域本部委員も含まれます。本会運営への青年層の参画及び国内外を問わず技術者間の“交流”を通しての研鑽を実施しています。

2014 年度の主な活動を下記にまとめます。

1.各種例会の開催

講演会やテクノツーリズム、スポーツ交流を含む交流会を毎月 1 回以上の頻度で開催しました。2014 年度も昨年度に引き続き、一次二次試験合格者が 4 月の特別例会まで継続して参加でき、スムーズに入会に至れる動線の強化を築きました。各活動内容は報告書として青年委員会 HP にて公開を行っています。

2.特別例会

2014 年 4 月 26 日に青年技術士交流実行委員会主催『一次二次試験合格者交流会（特別例会）』を開催しました。参加者の専門性をアピールできる場として近未来映画(バック・トゥ・ザ・フューチャー)を題材とした企画を実施しました。各テーマに分かれて行ったディスカッションの結果および活動報告は青年委員会 HP にて公開を行っています。

3.各地域本部青年技術士組織との交流

各地域本部との交流会議を開催するとともに、2014 年 11 月 9 日～11 月 12 日に福岡市で開催された技術士全国大会において青年技術士交流会議および青年技術士の集い（以下集いと称す）を実施しました。その中で全国各地域本部青年組織の活動内容を共有しました。また集いの成果物として技術士の紹介動画を九州本部主体で作成し現在 youtube で公開中です。本年度開催される全国大会（富山）においても、各組織との交流を継続する予定です。

青年層は企業内技術士も多く出張や異動転勤等に伴う地域間の移動もあることから、全国の地域本部青年組織とのネットワークを活かし、技術士青年層のサポートにも努めて参ります。また技術士会組織との関係を築く取り組みに対して引き続き連携を取って参ります。

4.国際交流活動

2014 年 10 月 19 日～10 月 21 日に松山で開催された日韓技術士会議のサッカー親善試合の開催支援を行いました。

2014 年 11 月 10 日～ 11 月 10 日にミャンマーで開催された ASEAN 技術者協会連合国際会議『CAFE032 YEAFEO21』への参加者派遣の支援をしました。

5.研修委員会所轄委員会行事への協力

2015 年 1 月 31 日開催の「技術士を目指そう、修習ガイダンス 2015」～技術士第一次試験合格者・JABEE 認定課程修了見込者（修了者を含む）～において、パネルディスカッションを企画・運営し受験に向けたモチベーション向上や技術士会への入会促進にも繋げる活動の道筋を築

くことができました。

6.情報配信の試み

青年委員会活動をより深く身近に理解していただくために、2013 年度青年技術士交流実行委員会活動年鑑を制作しました。

また青年委員会のホームページやブログ、フェイスブック等を積極的に更新し、活動紹介、主催行事の事前広報及び事後報告に活用しております。上記の活動を企画・実施するため、毎月の運営委員会を青年層の参加しやすい土曜日を中心に開催しています。

7.IT を活用した会員サービスについての活動内容およびその改善

従来より、インターネット上の独自サーバに議事録・資料などを保存管理する事で、運営の利便性向上、継続性の担保および活性化を図ってきました。

さらに昨年度より広報 ITG 内に Panda プロジェクトを立ち上げ、Web を利用した情報発信やメーリングリストなどの各種システムを整理統合し、より使いやすいものとすべく改善活動中です。具体的な成果として、“peyec.jp” のドメイン名を取得して新たな独自サーバを立ち上げ、メーリングリストシステムの運用、委員向けファイルサーバ機能の提供と旧システムからの移行、Web サイトの構築を行いました。Web サイトは、既存の青年委員会 HP、青年委員会オフィシャル Blog、青年委員会スタッフ Blog を統合し、WordPress を核としたシステムとしました。今後は本システムから一元的に情報発信を行っていきます。

青年委員会 2015 年度 IT 広報グループ活動報告

IT 広報グループリーダー 小野寺 純
Panda-IT プロジェクトリーダー 太田 道宏

1. 目的

青年委員会（以降、委員会）の広報円滑化、および委員間の情報共有を主目的として、IT を主軸に据えた活動を実施した。

2. 今期の活動と成果

1) 日本技術士会の同報メール、ホームページ、および月刊技術士誌への CPD 行事予定の情報発信

日本技術士会の広報媒体である同報メール、ホームページ、月刊誌を使用し、例会開催情報等を発信した（行事内容の詳細は例会グループ報告参照）。日本技術士会リソースによる広範な事前周知、およびウェブの行事参加申込機能の活用により、参加者管理業務の効率化を進めた。

2) 委員会内部用途の、情報共有設備の維持および拡充

昨年度に引き続き既存設備の更新を図るとともに、運用ルールの整備を実施した。作業時期および他の活動への影響を考慮し、既存と新設の二環境を、一部並行稼働させた状態で運営を行った。なお以下に記載する新環境は、昨年度に新ドメイン名として取得した「peyec.jp」を利用して整備した。主として、以下の委員等向けサービスの改善を行った。

- ・ メーリングリスト利用ルール整備：例会参加募集の連絡用として E メールを利用しているが、受付窓口として受信先を委員とするメーリングリストを作成、運用した。行事毎に異なるアカウントを用意するものとし、委員会メンバーの情報共有促進、メール内容の保存、および利便性向上を図った。
- ・ ファイルサーバーの整備および利用ルール整備：新ドメイン名でアクセス可能なサーバーを整備し、委員会メンバー間でファイルなどの情報共有を行う環境を整備した。また、旧環境で蓄積した資料の新環境へ移行も併せて実施した。CMS ベースの旧環境に比べて、ファイル共有に関する利便性は大きく向上した。
- ・ 運営委員会等の出欠予定管理システムの更新：複数の出欠管理システム（外部リソース）から選定を行い、Google Document のスプレッドシートをベースとしたシステムを採用し、維持運用を行っている。

3) 委員会外部に向けた、広報活動への取り組み

日本技術士会サーバー（engineer.or.jp）では、動作しない機能等があるため、ホームページ・ブログについては外部環境（Google サイトおよび Goo ブログ）で運営している。しかしながら、複数リソースの利用により、発信すべき情報が分散している状況でもあった。上述 peyec.jp サーバー上の Word Press 環境により、ホームページおよび 3 種類のブログを 1 つに統合し、行事参加希望者に対して「漏れなく、かつ分かりやすい」情報提供を目指している。その他の活動については、以下の通りである。

- ・ 昨年度に設置を行った Facebook ページを用いて、積極的な情報発信を行った。上述の通りに現状分散してしまっているブログからの発信情報を 1 つに紐づける役割を、現状において果たしていると考えている。
- ・ 委員会活動を紹介したポスター・フライヤーを作成し、例会等で掲示・配布を行った。これらの紙媒体では「交流の楽しさ」を惹起させる青年技術者の写真を用い、行事参加への敷居を下げることを狙った。

3. 今後の活動・展開

既存媒体を活用した広報活動により、着実なベースアップ（知名度向上、新規参加者獲得等）とともに、委員会活動の円滑化に貢献できたと考える。今後は、以下の項目について議論を深め、委員会活動の更なる飛躍に向けたサポートを行う。

- ・ 委員会ホームページおよびブログの peyec.jp 上での統合の完了、日本技術士会ページとの紐付けを実施。
- ・ 例会コンテンツ充実に向けた、若手技術者が求める研鑽課題についてのリサーチ。
- ・ 情報共有用途のファイルサーバーに関しては、現状は委員会メンバーのみの利用となっている。今後は、国際会議参加者などのゲストに対しても、一部サービスを提供可能とするための環境整備。

以 上

例会グループ活動報告(2014年 7月 ～ 2015年 6月)

例会グループリーダー 田中 雅人

1.メンバー

佐藤、中村、細野、吉田、赤木、田中

2.今期の活動方針

平成22年11月に開催された委員会合宿においては、平成23 年8 月の全国大会のテーマ「地球再生へのメッセージ～世界・アジア・日本における技術士の役割～」をコンセプトに則り、例会の基本方針としては原則参加型とすることに決定した。そこから一貫し、平成25年6月までコンセプトに沿った例会を実施してきた。

本年度、平成26年9月には改めて委員会合宿を開催し、青年委員会の活動方針などを委員会全体での共有を図った。具体的にはまず、青年委員会の位置づけや例会方針のシェアを行ったのち、「例会のあるべき姿」についてディスカッションを行った。その結果、春夏の期間に一般会員向けの例会があまり行えていなかったことから、今期は「継続」をキーワードとして一般会員向けの企画をできるだけ毎月行っていこうという方針が決まった。また、例会の目的を改めて議論することができ、「青年層を対象に、一人では養いにくいコミュニケーション能力やチャレンジ精神、リーダーシップといった資質の向上や人脈形成のできる場の提供と、それを通じた青年委員会メンバーの資質の向上」という目的を再認識することができた。

3.成果

例会の内容は今までと同様に原則参加型の例会の企画してきた。また、今年度は「継続」をキーワードとして掲げ、ほぼ毎月例会を行った。参加者にも継続的に参加してもらえるよう、1月の一次合格者ガイダンスから4月の特別例会とその後の5月例会まで連携して企画を行い、その結果、連年よりまして青年委員会への参加を希望する参加者が多くいた。

また、社会貢献活動として、小学生とその保護者を参加者対象とし、夏休み自由研究支援を目的とした理科教室企画も行った。初の外部向け企画の試みであったので、実績のある外部講師の方をお招きし、無事好評のうちに終了することができた。

開催日	テーマ	人数
7/26	夏休み理科教室	38
9/27	例会年間計画大会	-
11/15	座談会 企業家技術士と働くことについて語ろう	12
1/31	平成26年度技術士第一次試験合格者ガイダンス	280
2/28	一次合格者向け企画 未来につなげるワークライフプランを描こう	23
3/28	二次合格者向け企画 はじめの一步、技術士を続ける力「技術士エンジン」を探せ	19

4/26	特別例会 第一次・二次試験合格者交流会2015	一部:71 二部:60
5/24	科学的な問題解決手法	28

4.今後の展開

理科教室などの外部向け企画については、青年委員会の独自の力によって継続的に行っていきけるような仕組み作りにしたい。また、国際Gと連携をとり、国際関連の例会の内容を充実させていきたい。

以上

国際グループ活動報告

国際グループリーダー 安力川幸司

1 国際グループの活動目標

- 1.1 諸国の青年委員会や技術者との相互交流活動を通じて、各国技術者組織との親睦や相互理解を推進する。
- 1.2 国際交流活動を通じ委員および会員に研鑽の機会を創出する。

2 国際交流活動状況

2.1 マレーシア青年委員会訪問

2014年9月に国際グループのメンバーを中心とした10名がマレーシアの技術者団体である IEM-YES*を3日間の日程で訪問した。ミーティングではそれぞれの国の歴史、国内の状況、技術士制度や取得環境などについて意見交換と議論を行い、TechVisit として建設中の地下鉄掘削現場の見学を行った。YES メンバーは全日程同行していただき、每晚懇親会を開催していただいた。観光用の車の手配や観光日程のアレンジをはじめ我々の訪問をフルサポートいただいた。



***Institution Engineers Malaysia-Young Engineers Section**

2.2 日韓交流への参加（サッカー）

2014年10月愛媛県松山市において日韓技術士国際会議が開催された。本会議においては国際グループメンバーが実行委員会へ協力し、会議への参加および親善サッカー大会の開催のサポートをおこなった。

2.3 CAFEO32 への参加

2014年11月に CAFEO32 が Yangon で開催され、青年委員会の会議である YEAFEO Meeting に青年委員を中心とした6名が参加した。参加前に3回のミーティングや ML で議論し準備を



行った。現地では各国青年委員との意見交換を行い、日本においても青年委員会の活動内容の紹介を行った。昨今東アジアで多くの被害を出している自然災害について、タイの発表を機に議論され、Midterm Meetingで継続議論されることが決定した。

2.4 マレーシア IEM-YES の訪日対応

2015 年 3 月末から 4 月の 1 週間ほど、IEM-YES のメンバー（Mr. Puvanesan）が訪日して青年委員会を訪問した。国際 Gr メンバーが中心となりミーティングの開催、観光（東京近辺および京都）、テクニカルツアー、懇親会等をセッティングして対応した。3 月イベント参加者と共に芝公園で花見も開催した。



2.5 YEAFEO Midterm Meeting の開催

CAFEO32 からの継続議論と次回 YEAFEO Meeting の開催準備のため、6 月初旬に Midterm Meeting がマニラで開催された。主に各国委員長が参加し、災害対策の議論は WG 形式で推進していくことが決定された。日本からは防災の取り組み状況を紹介し、災害 WG に加入し議論していくことが決定した。



3 派遣のあり方（CAFEO 公費補助）に関する議論

従前の CAFEO への公費参加は、委員以外の会員に旅費の一部を支給してきた。しかしそのような状況は日本だけである。継続的に委員が議論に参加していないため日本のプレゼンスが下がっていることなど致命的な問題が発生しているため、委員が継続的に参加していく等の派遣制度の見直しを行っている。

4 総括と来年度に向けた活動の取り組み

4.1 2014 年度は国際 Gr として多面的かつ積極的に活動できた。

4.2 次期も継続して国際交流の推進に向けて活動していきたい。

以上

例会活動報告書

行事名	5 月例会: Your English is Better than you think !
日時	2014 年 5 月 24 日 13:30~17:00
場所	荻手第二ビル 5F 会議室 A,B
講師、発表者	講師: Steven Ashton 氏 プレゼン参賀者: 6 名
担当者: (○印: リーダ)	○越智、佐藤、丸山、松田
参加者数	27 名 (+委員 11 名)

1. 背景・目的

グローバル化が進む中、ビジネスを進展させていくためには英語力は必須のスキルとなっている。必要となる 4 つの英語のスキル「Reading」「Writing」「Listening」「Speaking」のうち、「Speaking」は日本人が最も苦手としている部分である。そこで、英語で悩んでいる技術者のために、ネイティブの講師による英語セミナー、および英語でのプレゼンを通じて、自身の英語力向上に役立てることが出来るよう、本企画を実施した。

2. 例会内容

1) English Workshop (13:30-15:00)

各テーブルを 6 人に配置し、グループ協議を通じて英語で会話をし、Speaking を強化させる時間を設けた。

- ・参加者同士で自己紹介を兼ねたアイスブレイク
- ・ポストイットに絵を描いて自分の体に貼り参加者同士でトーク
→ 5W1H の質問を繰り返して本質を引き出す訓練
- ・名詞(noun)を模造紙に書いていき、単語同士を線で繋いで関連付けを行う → 語彙を増やす訓練

2) 英語プレゼン大会 (15:10-16:20)

プレゼンのテーマは、自己紹介、業務に纏わること、趣味などを問わずフリーなものとして、発表を希望する参加者を同報メールにて募集を行った。当初予定していた 5 名を上回る 6 名の参加者から、プレゼン希望の旨の連絡をいただいた。そこで、プレゼン時間の配分を一人 15 分→10 分へ変更し、希望する参加者全て発表してもらうよう対応した。

■プレゼンの概要

No	Name	Title	Summary
1	飯野 秀之 さん Hideyuki Iino	My experiences of work in overseas	My major is rural regional planning of agriculture division, and I engaged in the projects for prevention of desertification in Xinjiang Autonomous Region of western China and reconstruction of rural area after civil war in Bamyan of Afghanistan through 2-3 months business trip. My experiences of work, especially in overseas.
2	今津 英一朗 さん Eiichiro Imazu	The late situation of Energy issue	Recently, Energy Issue become more serious. After Great East Japan Earthquake, we've suffered from Energy resource. This problem should be discussed by all across our nation. I work for Gas supplier, in the life of those company and from the perspective of power company, I'd like to try introduce my comprehension of the situation and my thought of the direction for the future.
3	大治 かな子 さん Kanaoko Ohji	One hundred sacks of rice and NIIGATA plain	Introducing "One hundred sacks of rice"(KOME-HYAPPYO) story with history of "NIIGATA plain".
4	中島 秀人 さん Hideto Nakajima	The Product information of Platform Screen Door	1, The Category of Platform Screen Door 2, Features of Platform Screen Door 3, System Configuration (Partial height Type) 4, System Configuration (Full height Type) 5, Design Concept of Platform Screen Door 6, Installation of Platform Screen Door 7, Delivery Record

5	永谷 すみれ さん Sumire Nagatani	Three points I noticed about famous movies	Watching movies is my favorite thing in my life. I'd like to introduce three points I noticed about famous movies. Hopefully, we can share several emotions after my presentation.
6	長谷山 朗 さん Akira Haseyama	My English Skill	Probably today's every presenter will be very excellent and good speakers. I worked engineering cooperation project in developing country for several years, but my English capacity is still not high and adequate level for my business, maybe just understandable. How to learn English, how to get capacity for writing or speaking perfect or beautiful English is my permanent theme, so I would like to deliver presentation as a bad and not with smooth speech example. Sometime Bad example must be changed to a good educational materials for classroom.

3) 実施しての感想

- ・ネイティブの講師を招いたことで、フランクな空気が流れ、普段の例会とは異なる雰囲気を作ることができた。会話をする、アウトプットする企画は参加者が盛り上がり、一体感が生まれるので、交流会として有益な場が持てたのではないかと感じた。
- ・例会開始の 30 分以上前から参加者が集まり、普段よりも早めに来られた方が多かった。少し手持ち無沙汰感があったので、何か英語の読み物やトピックス等、他に情報提供ができる資料を用意して、おもてなし感を出せば良かったと思う。

3. 成果と所感

- ・今回は英語力を強化させるという主旨のもと、委員長の挨拶、司会も含め、全てを英語によって実施した。参加者も英語に興味を持っているため、例会の進行については抵抗なくスムーズに受け入れられたと思料する。
- ・講師の持つユーモアな表現、丁寧な口調で、はじめの段階から場の雰囲気が作られた。第一部でのアイスブレイクも早々に盛り上がり、Workshop では各グループともに模造紙にたくさんの英単語が並び、大いにアウトプットが図られた。
- ・参加型の企画は参加者の関心が大きく、例会に興味を持ってもらうきっかけとなるため、開催の時期としては今回のように特別例会後の開催が望ましいと感じた。しかしながら、今回は早い段階から申し込みが多かったために、本来の狙いであった特別例会の参加者の枠が確保できなかった。また、当日のキャンセル、不参加も 6 名と多くかったため、幹事としては、例会の告知、募集のタイミング、人数調整を読むスキルが必要だと感じた。
- ・第二部のプレゼンでは、テーマを自由に設定したので、幅広い内容のプレゼンを展開することができ、発表者にとっては自身の腕試しをする場を設ける良い機会となった。ただし、英語のレベルやテーマの内容からは、視聴側にとって全てが有益なものとはならないため、講師によるプレゼンのスキルを習得する方法も良いかと感じた。

4. 今後の展開

- ・例会の募集をはじめから早々に参加者が集まり、プレゼン希望者も予定していた数を上回ったことから、英語企画は、重要もあり、期待値が高いと思われ、今後も継続して実施する企画のひとつだと位置付けられる。今回参加された方の感想からは、プレゼンのノウハウが欲しいという要望があったため、インプットとアウトプットのバランスが取れた内容だと、より満足度が上がる例会になるのではないかとと思われる。今回のアンケート結果を参考にし、次回へのステップアップに繋げていきたい。

文責 松田

■English Workshop



■プレゼン大会

Steven講師



今津さん



大治さん



中島さん



永谷さん



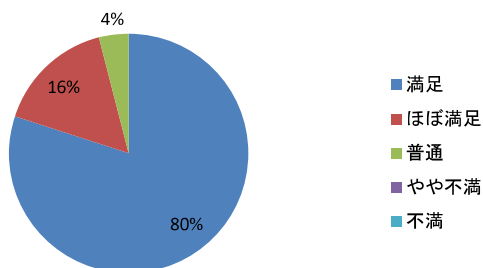
長谷山さん



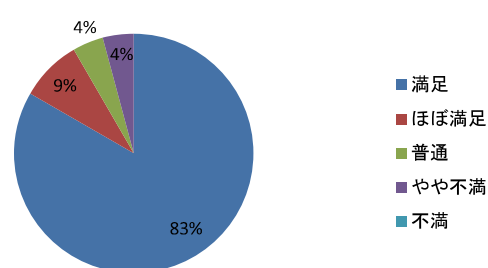
2014年5月例会アンケート集計結果

アンケート回答数 25名

Q1-1 講師の話し方や進め方



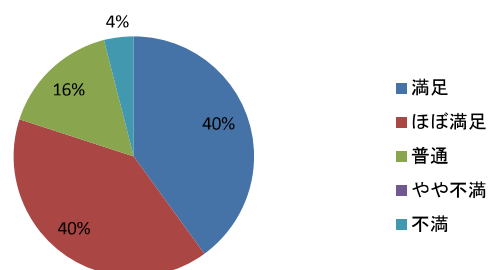
Q1-2 ワークショップの内容



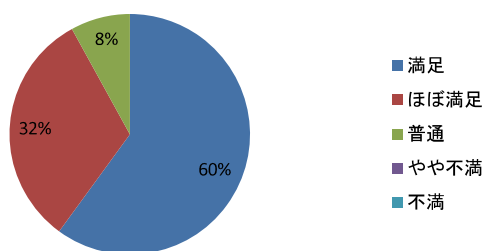
Q1-3 発表者に伝えたいこと(コメント)

- ・ I am feeling same of you. Don't care little errors.
- ・ I enjoyed your lecture!! I'll try to "use" English!!
- ・ It's very good IceBreak and familiar session.
- ・ Thanks for good advice and comments for me. See you next!
- ・ Your work was excellent. I enjoyed very much.
- ・ Thank you for your interesting and exciting lesson!!
- ・ The seminar was very interesting.
- ・ 楽しかったです。ありがとうございました。
- ・ 会話形式のイベントは面白かったと思います。
- ・ ありがとうございました。
- ・ 参加型のセッションで良かった。
- ・ ユーモアをまじえ、楽しかったです。

Q1-4 プレゼン大会の内容



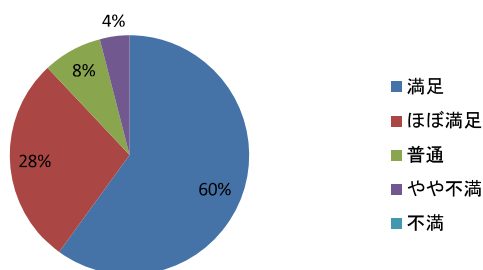
Q2-1 スタッフの対応



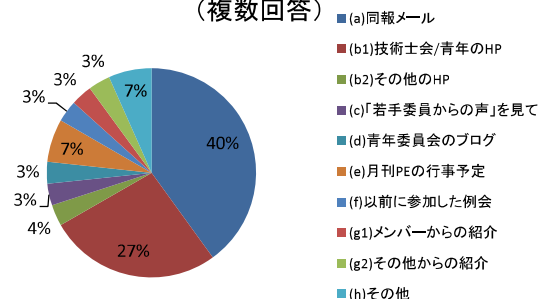
Q2-2 スタッフに伝えたいこと(コメント)

- ・ 素敵な機会を作って頂き、本当にありがとうございました。
- ・ プレゼンの内容及び英語のレベルは良かったです。日本語でやってもだめなレベルではないでしょうか。
- ・ また続編をお願いします。また、海外に行ってしましますが、出れるときは出るようにします。
- ・ Your work was quite friendly.
- ・ 久々に参加させていただき、ありがとうございます。いつもFace book見てます。
- ・ お手本になるプレゼンのビデオなどがあれば見たかった。
- ・ 勉強になりました。
- ・ プレゼンのノウハウを次回お願いします
- ・ お疲れ様です。どうもありがとうございました。

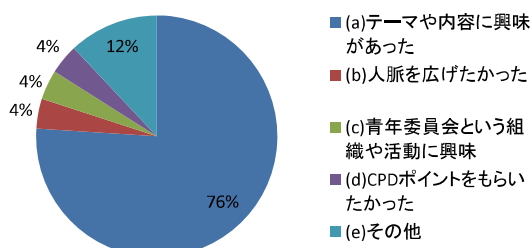
Q3 今回の例会は全体として



Q4 例会をどのように知り、参加したか?
(複数回答)



Q5 参加目的(複数回答)



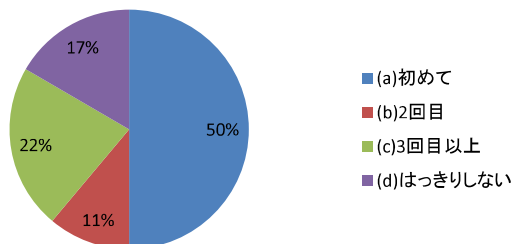
Q4 その他の内容

- ・ 上司の連絡
- ・ フリーレッスンなので

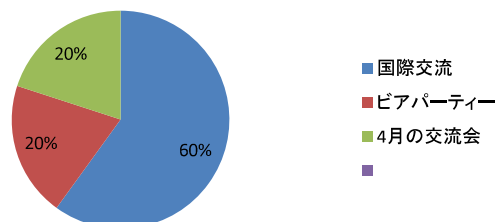
Q5 その他の内容

- ・ 自分のアイデアを共有したかった
- ・ 英語を身につけたいと考えていたため
- ・ 英語プレゼンテーション能力のリフレッシュ

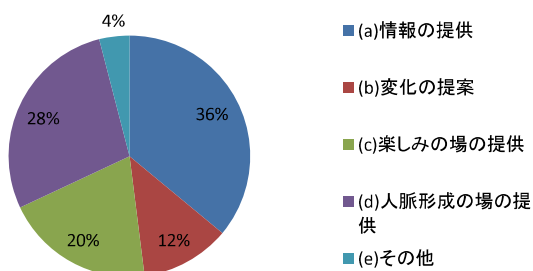
Q6 青年の例会参加回数



Q6-1 過去に参加した例会で、象深かったテーマ
(2回目以上参加者)



Q7-1 今後開催してほしいイベント



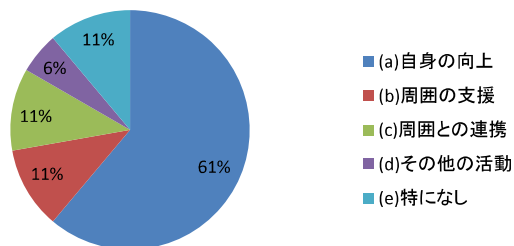
Q7-1 コメント

- (a) 工場の見学会
- (a) 海外活動/事業
- (a) 応用基礎数学
- (c) スポーツ
- (d) 国際交流
- (e) 技術英語の勉強会

Q7-2 内容以外についての希望

- ・ できれば土日に、平日はやはり難しい
- ・ 土日、祝日

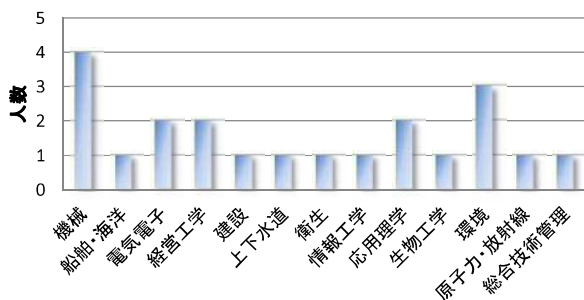
Q8 本業以外の活動について(複数回答)



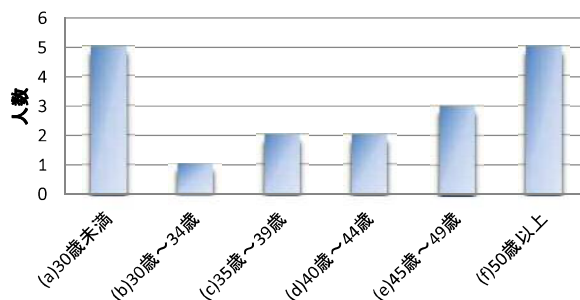
具体例

- (a) 技術士取得
- (a) 放射線関連資格、TOEIC受験
- (a) 資格取得
- (a) 電験二種取得
- (a) 電気主任技術者
- (b) 大学ベンチャー育成のback up
- (c) ヨコスガ清掃応援隊
- (d) 研究会

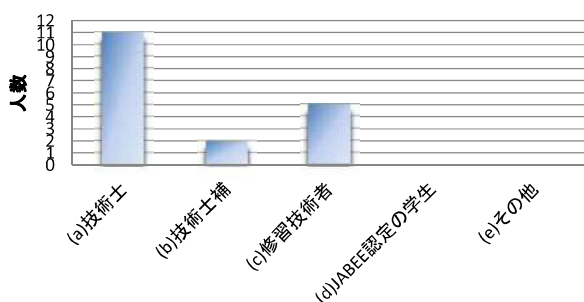
Q9-1 部門



Q9-2 年齢層



Q9-3 会員層



2014年5月例会 内部アンケートまとめ

【良かった点】

発言者	意 見	例会内容	事前準備	講師	当日の委員の対応	その他・全体的に
山本	・参加者が(当初の予想に反して)多かった ・講師の明るいキャラクター ・葺手ABが4時間英語漬けだったこと ・少人数幹事で高くオリティ	●	●	●		●
松田	・例会の注目度(見慣れない人が多かった) ・他部門のお仕事紹介プレゼンを見ることができた事(あまり見たり聞いたりすることがなくて新鮮) ・アウトプット型の企画は盛り上がる事	●	●			●
瀧川	・講習会の構成がよかった(コミュニケーションがとり易い雰囲気づくり→ワークショップ→プレゼン)。 ・幹事と講師との間で十分な打ち合わせがなされていたこと。 ・講師のキャラクターが魅力的。	●	●	●		
丸山	・参加者同士の交流が行われる等参加型の企画になっていたこと。 ・関心が高く、早くから多くの申し込みがあったこと。 ・佐藤さんに紹介いただいたSteven先生は雰囲気を作るのが上手で、参加が積極的に英語で講習できていたとおもいます。	●		●		●
品田	・会議室が急遽変更になったが、幹事の方々が柔軟に対応していただいたこと。 ・幹事、講師の方の絶妙なハンドリング。		●		●	
越智	・多くの方に参加頂いたこと。 ・比較的スムーズに進行できたこと。				●	●
中村	・幹事の綿密な打ち合わせのおかげで、スムーズな運営だったと思います。 ・参加型の例会だったため、全体的に参加者の満足度も高かったように思います。 ・講師の方はこのような形の講義は慣れているのか、すぐに盛り上がった。(アイスブレイクが早かった)	●	●		●	

【悪かった点】

発言者	意 見	例会内容	事前準備	講師	当日の委員の対応	その他・全体的に
佐藤	・参加者集め 特別例会を前にして定員になってしまったこと ・(全ての)参加者の英語レベルに合った内容だったかどうか ・後半のプレゼン企画 ・発表者にとっては非常に良い訓練になったと思います。一方で、オーディエンスにとってはどうだったのか?	●	●	●		●
山本	・プレゼンのレベルが各個だいぶちがう→プレゼンには否定的でないので次年度もやってほしい ・プレゼン時間が若干長め→プレゼン短め&フィードバック入れる で良いかも →プレゼン感想を紙に書いてプレゼンターにあげてもよいかも ・プレゼン資料のクオリティ(pptが文字まみれ(字だらけ)で見づらかった)	●	●			●
松田	・プレゼン時間が長い(寝てる人がちらほら、) ・上述の逆で、英語で聞きなれない話はついていけない(私の理解不足もあり) ・連絡なしの不参加者も多かった(6人/38人中) ・もう少し余裕を持って募集するのも○	●	●			●
瀧川	・英語のレベル別(初級、中級、上級)に座席を用意していたが、参加者のほうで自身の英語レベルがどれに該当するか(自身が思っている程度が周囲と合致するか)困惑の声があった。 ・プレゼン時間をもう少し短くしてもよい・・・かな?(私の英語レベルが低いせいかも)。	●	●			
丸山	・後半のPPT発表は発表者以外は少し手持ち無沙汰だったかもしれないとおもいます。 ・例会お手伝いのために午後残って頂いた方も手持ち無沙汰にならないよう、具体的にお願いできることを用意できればよかったな、と思います。	●	●			●
中村	・参加者の英語レベルの違いからくる満足度の違いが多少あったようにも感じました。(簡単すぎる、難しすぎる)英語レベルのギャップをどのように埋めるかが課題。誰でも楽しめる内容? (ターゲットレベルの設定はできればたくない)	●				

【その他・気が付いた点】

発言者	意 見	例会内容	事前準備	講師	当日の委員の対応	その他・全体的に
佐藤	・反省点をふまえて、来年はより良い英語セミナーになるように、企画内容を考えたいと思います。	●				
山本	・委員が会議室の後ろでかたまっていた点 ・結局串特急の引力に負けたこと(否定的意見ではないです)				●	
松田	・プレゼンの資料を例会の最後に配布(日本語)するのも○(答え合わせの感覚で)	●				●
瀧川	・英会話に関するニーズがあることを実感した。恒例化してもよいと思った。					●
品田	・特別例会からつないでいくという意味では、違う時期でもいいかも(ニーズはあるが、ターゲットが絞られてしまうため)。					●
	・「ベル」などの備品が無いことについて、事務局に相談が必要と思いました。					●
越智	・当日のスケジュール(時間割)を見える箇所に表示して、時間配分を皆さんに共有しても良かったかと考えています。				●	
	・折角ネイティブの先生が来られていたので、先生による授業の時間を出来るだけ確保しても良かったかと考えています。・・・約1.5hのプレゼン時間は、少しもったいない気がしました。	●				
	・実際には約1.5時間掛かってしまった時間に、6名の方しか発言できないのは少しもったいなく、出来るだけ多くの方に発言(英語を話す)機会を提供しても良かったかと考えています。	●				
	・参加希望者の多さから、皆さんの関心が高いテーマを無償で提供できたのは非常に価値があると考え、今後も実施する価値があると考えています。					●
中村	・意外と参加者が多かった。					●
	・英語に関する興味が高い方が多く、このような例会のニーズは多いかもしれない。	●				
	・継続的にすることも考えてもよいと思いました。					●

行事名	6月:地域本部交流会議
日時	2014 年 6 月 28 日(土) 15:00~17:30
場所	日本技術士会 葺手第二ビル 5F AB 会議室
講師、発表者	各地域本部委員
担当者: (○印:リーダー)	○山本、鳶田、品田、田中、瀧川(作成)
参加者数	32名

1. 背景・目的

本会議は、各地域本部の活動報告を行い、青年委員会の課題・問題点の明確化および有用な情報の共有化を目的として実施した。

2. 例会内容

2. 1. 地域本部活動報告(15:00~15:45)

各地域本部における今期「うまくいったこと」、「いかなかったこと」等について、活動報告を行った。また、九州地域本部より、来期全国大会に関する案内を行った。

2. 2. ディスカッション (15:45~17:15)

「北海道全国大会の復習と九州の予習」を目的に、2チームに分けて、以下の内容のディスカッションおよび結果発表を行った。

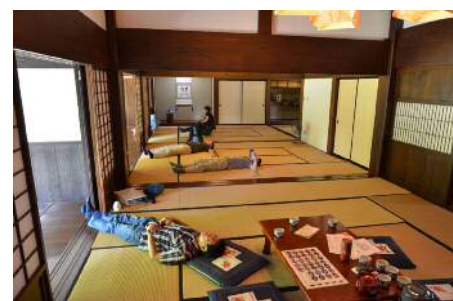
- ・ディスカッション1 テーマ:現実把握・課題 札幌の結果に対しその後の状況
- ・ディスカッション2 テーマ:解決策 九州にもっていくもの

2. 3. 写真コンテスト(17:15~17:30)

「第1回 青年らしい写真コンテスト」と題し、各地域本部より募った写真を元に本会議参加者による投票を行った。また、1位~3位を獲得した地域本部に表彰を行った(右写真は優勝した北陸地域本部の作品)。

[投票結果]

- 1位・・・北陸地域本部
- 2位・・・中国地域本部
- 3位・・・九州地域本部



3. 成果と所感

本会議を通じて、各地域本部における現状と今後の活動に有用な情報を共有することができた。

また、ディスカッションにおいては、札幌全国大会のレビューとして、「技術士の知名度の向上」という課題に注視されたが、繰り返し話し合われてきたこの課題に関し、結局は自らが技術力を向上させる、技術をもって積極的に周囲の役に立つという、我々自身が技術士としての根本に立ち返ることが「技術士の知名度を向上」させることに繋がるという認識を共有することとなった。

反省点としては、北海道全国大会で挙げられたテーマを司会者側で再整理していなかったことから、札幌全国大会に参加していない出席者から困惑の声があったことが挙げられる。

写真コンテストにおいては、地域本部の雰囲気を知る上で有効であった。また、今後のポスター等、情宣に関わる有用な資料を得ることができた。

4. 今後の展開

- ・今回の地域本部交流会議で得た情報を有効活用し、今後の活動に活かす。
- ・地域間における交流をより深め、青年委員会全体としてレベルアップを図る。



以上

行事名	7 月特別例会（テクノツーリズム）
日時	2014 年 6 月 29 日(日)
場所	テクノツーリズム：荒川知水資料館(赤羽)、懇親会：いくどん(赤羽)
参加者	30 名
担当者 (○印：リーダー)	安力川幸司○、石井利教、金丸 阿沙美、古川星矢、細野雄治、小池竜(記)
参加者数	テクノツーリズム：計30名 懇親会：計30名

1. 背景・目的

他支部との連携を深めるため、全国各支部の青年委員会が集まり、拡大委員会とテクノツーリズム行われている。テクノツーリズムでは、主に見学会を実施している。目的は、技術的知見を広め、実際にモノを見、そして技術者同士で共通の時間を共有することを目的として行われている。今回の 2014 年は、荒川知水資料館の見学会を開催した。

2. 例会内容

2.1) 準備

準備はメールベースで行い、以下の項目の検討を行った。

2.1.1) テクノツーリズム

- ・候補地絞り込み ……数十通りから総合的に判断し荒川知水資料館(AM0A)に決定。
- ・事前見学 ……引率経路確認、イベント作成ネタ探しのため
- ・しおり作成 ……参加者案内用しおり（添付資料）
- ・見学会当日の解説員調整 ……荒川知水資料館のボランティアに依頼
- ・メールでの出欠確認 ……出欠確認 HP を作成し、展開

2.2.2) 懇親会

- ・候補地絞り込み ……基本的には BBQ 開催の方向で検討
- ・BBQ 用品・食料調達調整 ……BBQ 用品、食料、酒
- ・レンタカー調整 ……酒・食料運搬用
- ・事前下見 ……BBQ:荒川岩淵関緑地、B/U:焼き肉@いくどん
- ・イベント検討 ……クイズ、謎解きで検討（添付資料）
- ・イベント資料作成 ……謎解き:問題は大人用と子供用の2通り
- ・イベント景品選定購入 ……大人用:荒川ゆるキャラグッズ(ぬいぐるみ・ストラップなど5点)
子供用:駄菓子・おもちゃ

2.2) 日程(実施内容)

- 9:30 集合 ……点呼、懇親会参加確認
- 10:00 出発 ……見学会会場までの引率、遅延者へのフォロー
- ～移動～
- 10:30 見学会開始 ……水門見学時付き添い(2Grに別れた)
- 11:50 見学会終了 ……懇親会集金、集合写真、懇親会会場までの引率
- ～移動～
- 12:20 懇親会開始 ……焼き肉@いくどん(赤羽)、委員長挨拶、イベント開催
- 15:00 懇親会終了

3. 成果と反省

3.1 成果

- ・しおりを作成したことにより、集合がスムーズに行えた。
- ・BUとして焼き肉屋を候補地としてあげていたため、天候不良による開催地変更がスムーズにできた。
- ・イベント及び景品をテクノツーリズムに関連した内容としたことにより、盛り上がった。

3.2 反省

- ・開催通知メールを送付の際に、参加者アドレスを誤ってCCに入れてしまった。
- ・AMOAとの連携が取れておらず、水門見学会時に2Grに別れて見学する事を引率班が把握しておらずアタフタした。
- ・見学会終了後の引率について、引率者間での連携が取れておらず、参加者がバラバラとまばらになってしまった。

3.3 所感

テクノツーリズム全体としては、ほぼ予定通り実施できたため上手くいったと感じる。しかし、引率に若干の課題が残る結果となってしまった。一例をあげると、懇親会会場への移動の際に、30人を超える参加者をフォローしきれなく、一般の歩行者や自動車走行の妨げとなってしまった。引率者間での事前の打ち合わせと参加者への注意喚起をしっかりとしておくべきであった。今回の件に限らず、委員会の活動を行う中で、一般の方々に迷惑を掛けない事は必須のため、気をつけるべき事項だと感じた。

4. 次回以降

- ・今後、しおりの作成と展開は必須。
- ・BBQは実施できなかったが、BBQ調達・予算関連は今後のノウハウとなったため、利用できる。
- ・候補地リストは、東京近郊での開催の際に利用する価値がある。

以 上

【添付資料】テクノツーリズム風景写真



館内見学風景



水門見学①



水門見学③



水門見学③



懇親会風景



イベント景品授与

行事名	平成 26 年度夏休み理科教室
日時	平成 26 年 7 月 26 日(土曜日)
場所	葺手第二ビル 日本技術士会 AB 会議室
講師、発表者	富士フイルム(株) 片野様、一般財団法人製造科学技術センター 市野様
担当者: (○印:リーダ)	山本委員長、○佐藤委員、杉山委員、安力川委員、伊藤委員、金丸委員、野口委員、 瀧川委員、吉田委員
参加者数	38名(児童16名、保護者16名) プラス委員15名(さらに補助員として3名が参加)

1. 背景・目的

我が国が目指している科学技術力立国とは裏腹に子供達の理科離れが進んでいる。この現状を打破すべく、子供達に実験を通じて科学の面白さを伝えることを主目的とした。またこれを機に、技術士の知名度向上を図った。

2. 例会内容

始めに佐藤委員より、スケジュールの説明を行った。佐藤委員は、その後も総合司会を務めた。

2. 1. 技術士の紹介(13:05~13:15):安力川委員

最初に、「技術者について」をクイズ形式で説明した。クイズには、参加されたお子様も積極的に回答され、良いアイスブレイクになった。「みなさんが何気なく使用しているものは、技術者がワクワクしながら作ったものです」というフレーズは、参加されたお子様の心に響き、これをアンケートの感想に書いていた子供が多数いた。

2. 2. 講演(13:15~13:40):「カラー写真の原理について」製造科学技術センター 市野氏

カラー写真は、「色の三原色」と言われる色のみで構成されていることを講義した。イエロー、マゼンタ、シアン、それぞれ単色からなる画像を重ねると、カラー写真が構成される。シャーカステンを使い、それぞれの単色からなる画像を重ねてカラー写真が浮かび上がると、「おー」という驚きの声があがった。「色の三原色」は、インクジェットプリンターの普及で広く知られて入いるが、フルカラーの写真がたった 3 色だけで構成されていることに、参加者のみなさんは改めて驚いていた。

2. 3. 写真現像実習(13:50~15:30):参加メンバー全員

・実験手順

- 1) まず、子供達に好きな画像を選んでもらう
- 2) イエロー、マゼンタ、シアンそれぞれ単色で構成された感光フィルムに、画像の上から 15 秒間露光した。感光フィルムのセットはスタッフがを行い、露光のスイッチを子供に押させた。
- 3) 露光後、感光フィルムを現像液に浸漬させた。子供と一緒に画像が浮かび上がることを確認。
- 4) その後、定着液に浸漬。子供に 10 秒間数えさせた。
- 5) 水洗、乾燥して出来上がる。
- 6) それぞれの単色フィルムを、シャーカステン上で重ね合わせると、カラー写真が浮かび上がる仕組み。

・白衣を着た子供と保護者で、青年のポスターをバックに記念撮影を行った。

・時間が余ったので、子供達に 2 回目の実験をさせたり、保護者のみなさんにも体験していただいた。

・時間の余った子供達のために、展示物として、組立てロボット「RAPIRO」を用意した。(杉山委員が主担当) この RAPIRO も非常に人気があった。

2. 4. 講評(15:30~15:35):山本委員長

最後に子供たちに、これを機に理科が好きになったかどうかを、これもクイズ形式で質問をしながら行った。クイズ形式だったので、子供たちも元気よく答えてくれた。また最後に、今回の理科教室が技術士会という組織が中心で行ったことをアピールして終了した。

3. 成果と所感

アンケートにて、児童、保護者ともに全員が「非常に良かった」、「良かった」を選択し、さらにほぼ全員が「次回も参加したい」を選択していた。参加者にとって、非常に満足度の高い理科教室であったと思う。統括本部では初の試みであったが、まずまずの成果だったと感じている。

4. 今後の展開

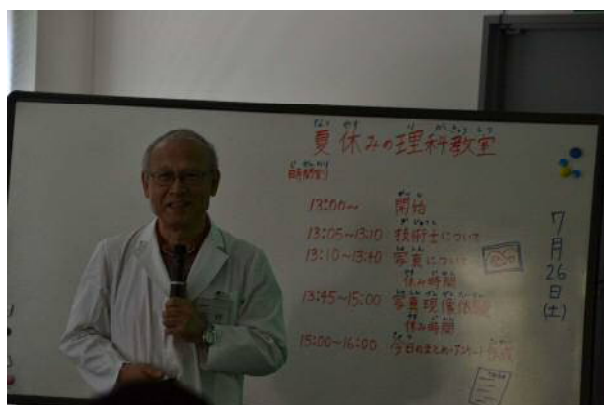
アンケートから、「来年もぜひ参加したい」という声が多数寄せられおり、技術士会青年委員会が実施する理科教室に対する期待度は非常に高く、ぜひ来年も実施したいと考えている。テーマは、アンケート結果を基に、次回幹事メンバーで議論する。



総合司会を務めた佐藤委員



技術士をアピールするプレゼンを行った安力川委員



講師を務めた市野さん



講義の様子



Y, M, C が重なってカラー写真になると、「おー」という歓声



写真現像実験の様子



時間が余った子供たちは、組立ロボット「RAPIRO」を操作



白衣を着た子供たちは、青年のポスターの前で記念撮影



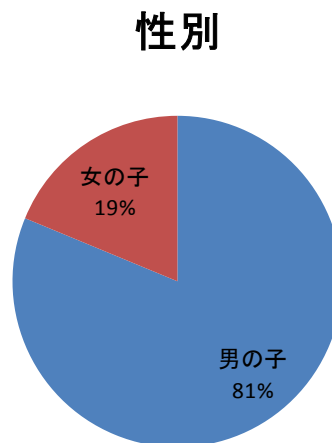
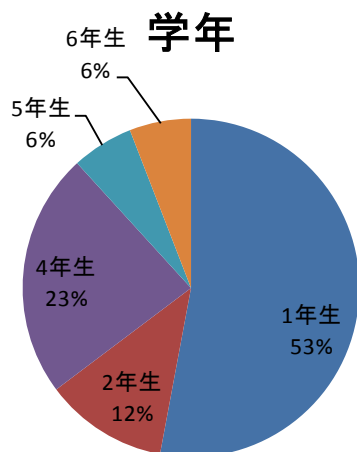
最後に委員長より、「理科が好きになったかな?」



お疲れさまでした!

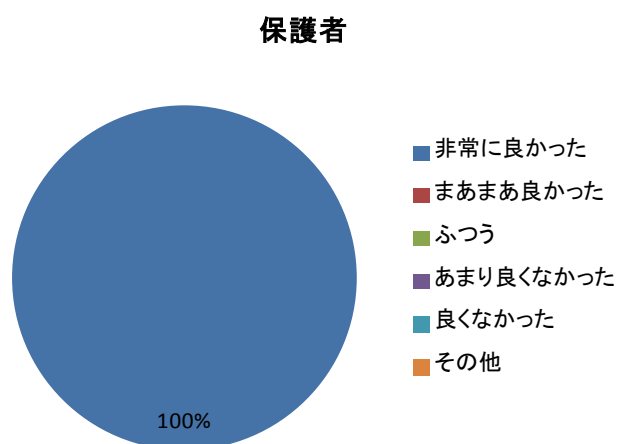
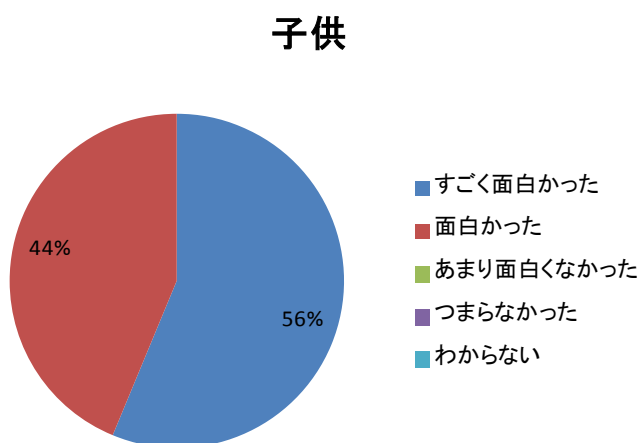
平成26年度 夏休み理科教室 アンケート結果

1. 参加者の内訳



- ・低学年が多い傾向
- ・男の子が多かった → RAPIROの影響?

2. 全体的な感想



- ・参加者全員が「非常に良かった」、「良かった」を選択

参加者からの意見

子供からの意見

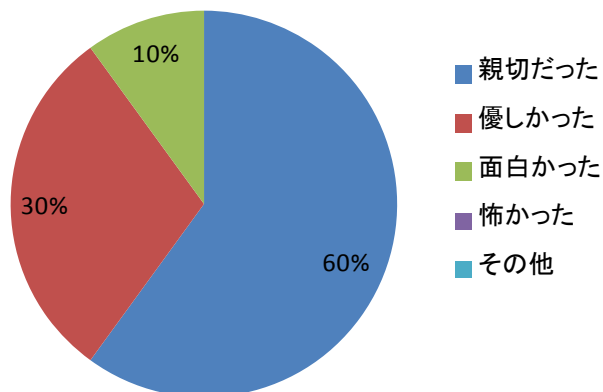
- ・三枚の色を重ねて色が作れるのでびっくりした
- ・ロボットが楽しかったです。また来ます。
- ・すごくおもしろかった
- ・とても楽しくて、また来たいとむ思いました。理科の面白さにとても惹かれました
- ・初めての実験でとても楽しかった
- ・写真の歴史が学べて良かった。ロボットが面白かった。
- ・面白かった。ロボットの組立がしたかった
- ・勝手な行動や発言が多くて嫌だった(6年生、男子)
- ・写真を撮って、2分くらいで図が出てくるのが面白かった。
- ・I likeed the photo I made.
- ・It was interesting and great fun
- ・It was great fun & interesting

保護者からの意見

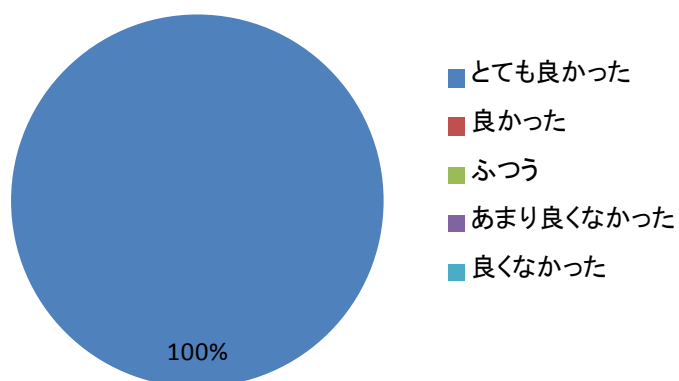
- ・みなさん、丁寧に教えてくださり、とても興味深く学べました。ありがとうございました。カラー3色でカラー写真ができることや、新聞紙の点についても新たに学ぶことが出来ました。
- ・丁寧に説明していただき、楽しく過ごせました。家庭や学校では扱うことが難しい薬品や機材で実験をさせてもらえたので、とても貴重な体験でした。(親子共に) 本で読んで知っていることでも、実際に実験をしてみるとまた別の面白さがあると思います。またこのような教室に参加できるとうれしいです。
- ・素晴らしいです。夏休みだけではなく、年に数回あっても良い
- ・子供も楽しみましたが、親もとても楽しかったです。光の三原色、色の三原色、カラープリントなど、頭で知っていることや日常生活の中でも、実験することで興味がわきました。子供も問5の全ての項目に興味を示し、この教室体験がとても良かったと直に思います。スタッフの方がみんな親切でやさしく、子供もリラックスして参加できたことに大変感謝しております。次回も楽しみにしています。
- ・理屈でわかっているけど実際に体験できると、改めてカラーになるってすごい! と大人でも思いました(笑)。大人1人、子供2人を連れて来てもいい感じだったので、申し込みフォームが大人1人、子供1人から増やせるといいなと思いました。
- ・今後も、家ではできない体験をさせていただけたら嬉しく思います。
- ・たくさんの技術士の方がいて、安心して実験を受けることができとても感謝しております。このような機会を設けてくださりありがとうございました。
- ・他の科学館やサイエンススクールにはない珍しいプログラムで親子共々興味深く過ごせました。RAPIOも実物を見たのは初めてで楽しかったです。
- ・思っていた以上に楽しかったです。子供の成長に合わせてその時その時さまざまなことを感じてくれると思うので、今後もぜひ参加したいです。

3. スタッフの対応

子供



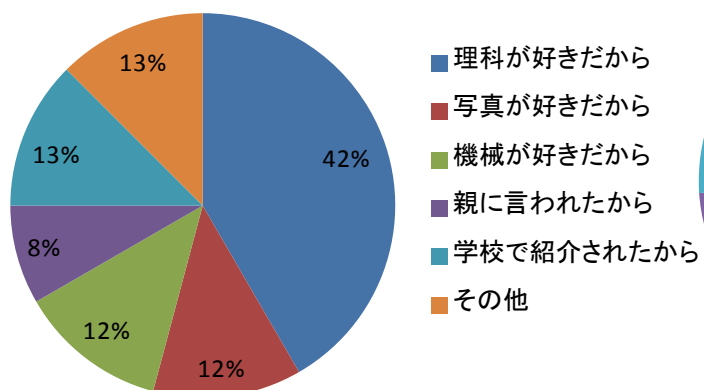
保護者



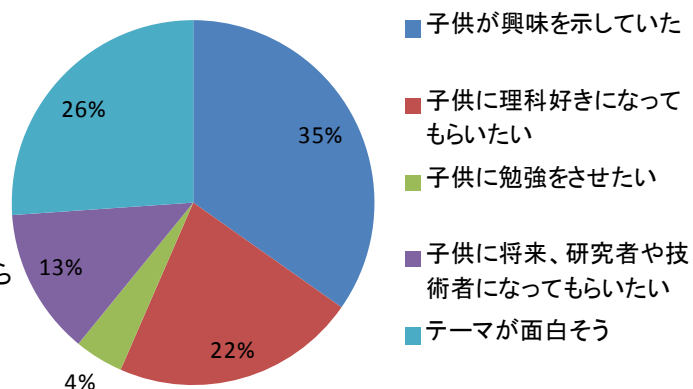
- ・スタッフの対応は、まずまず
- ・2.と合わせると、保護者への評判が非常に良かった

4. 理科教室に参加した理由

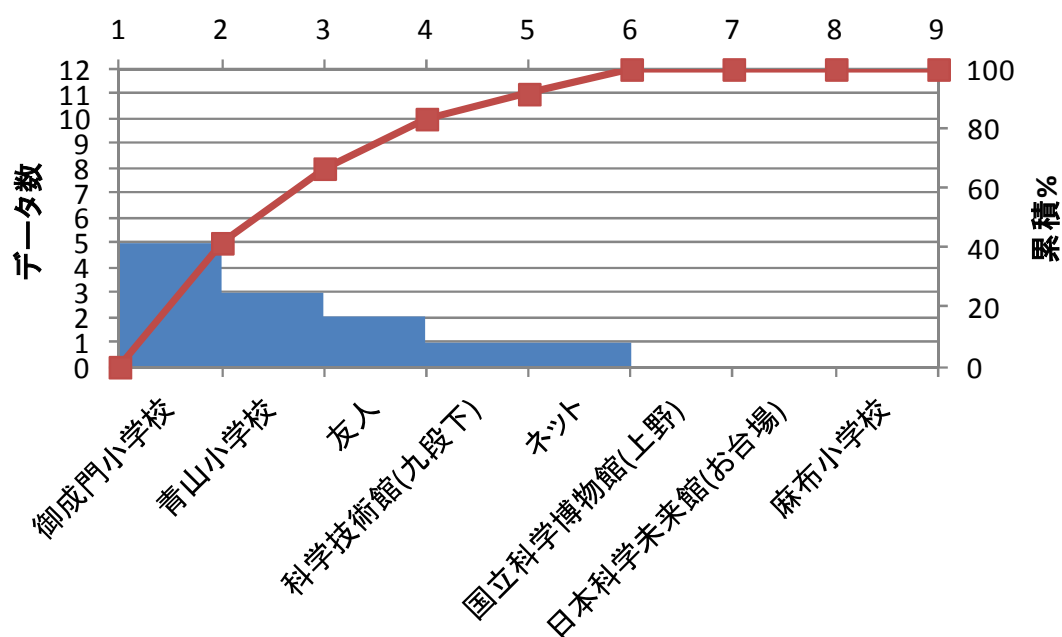
子供



保護者



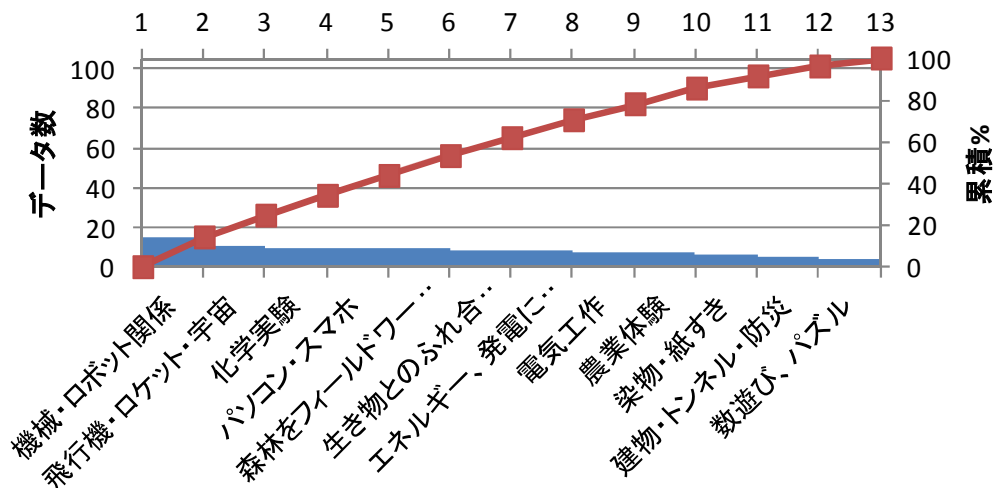
5. 教室を知ったきっかけ (保護者のみ回答)



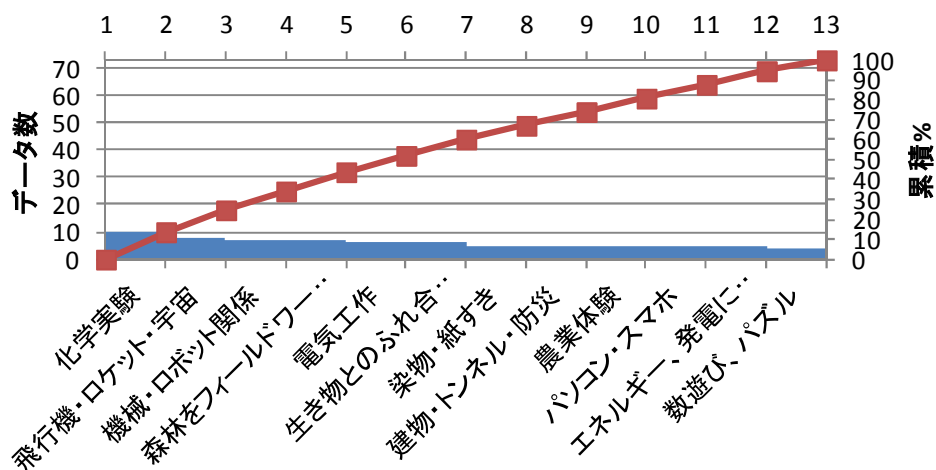
- ・御成門小学校、青山小学校が多い → パンプを全校児童に配布
- ・一方、パンプを「自由にお取りください」で配布したところ(麻布小学校を含む)は、集客力が無い

6. 次回のテーマについて

子供たちの興味



保護者が考える次のテーマ



- ・特に、特定のテーマに人気が集中しているわけではない。

保護者からの意見

「子供も問5の全ての項目に興味を示し、この教室体験がとても良かったと直に思います。スタッフの方がみんな親切でやさしく、子供もリラックスして参加できたことに大変感謝しております。次回も楽しみにしています。」

→ 実際に企業で研究・開発しているプロの技術者(すなわち技術士)から教わることに意義があると考えている保護者がいる。

7. 子供たちが理科を好きな理由

(今回、参加してくれた子供たちは、全員「理科が好き」を選択)

いろんなことが解明されるから

実験するのが楽しい

実験はいつもワクワクドキドキするから

実験があるから

実験があるから好きだから

ワクワクするから

ロボットが面白い

ロボットが好きだから

8. 子供たち、大人たちの将来展望

子供たちの夢

- ・医師や研究者(6年・男子)
- ・建築士(4年・男子)
- ・宇宙飛行士(1年・男子)
- ・弁護士、教授、技術者(5年・男子)
- ・サッカー選手(1年・男子)
- ・科学者(4年・男子)
- ・ロボットを作る人(1年・女子)
- ・工事のお仕事(1年・男子)
- ・プログラマー(教育用プログラム中心)、プログラミングスクールの先生(4年・男子)
- ・考古学者(1年・男子)
- ・技術士(1年・男子)
- ・Animal doctor(2年・女子)
- ・lego designer(2年・男子)
- ・queen(1年・女子)

保護者の意見

- ・本人がわくわくする職業に就いてほしい。サイエンスに興味があるので、なぜなにプロセスを楽しんでほしいです。
- ・理科が好きなので、研究や開発に関連する職業に。本人は、ノーベル賞科学者になりたいと言っていたことも
- ・子の希望にしたがう
- ・エンジニア、プログラマー、研究者など
- ・子供の祖父母が化学系のエンジニアなので、母は研究者か企業のエンジニアになってくれたらうれしいと思っています。子供の父は、学歴社会には無縁のグラフィックデザイナーで、「学校の勉強なんて出来ても意味がない」と豪語しています。(苦笑) その二人に育てられ、将来どのような職に就くのか、とても楽しみです。

以上

	内部アンケート まとめ 課題	参加者集め	運営全体	プレゼン	実験・実習	展示物
佐藤	1) 参加者集め 目的にもよりますが、来年も一般の参加者を対象にするなら、神谷町周辺の小学校のみに配布する作戦がいいと思います。今回、博物館で知った人は1家族しかいませんでした。 (子供が満足するば良い、という考えなら、技術士会のネットワークを使う手もあります)	○				
	2) パンフレットに「無料」の記載 小学校に配布した時に、だいたいいつも先生から「無料ですか?」と聞かれました。 最初から書いてあった方が親切だったかもしれません。 (畠田さんからは指摘を受けていたのですが...)	○				
	3) 申し込みのフォーム 一点、反省点があるとすると、レクリエーション保険のことを考えて、住所と生年月日を申し込みの段階から聞いておけばよかったと思いました。参加者に対して、住所と生年月日の情報を回収するのが、実は結構大変でした。	○				
山本	・ 幹事長(今回は佐藤さん)の負荷を下げる 全体を、 ①企画&渉外 ②事前準備 ③当日遂行 位の3段階に分けると佐藤さんは①位で良く、特に③の司会是他メンバーに任せてもよかったと思います。		○			
杉山	②説明時間 途中で飽きる子もいたので説明の時間はもう少し短くてよいと思います。 1. 注意事項 2. 基礎知識⇒ここは今回のように参加型でできるのは良いと思います 3. 実験の手順 と必要事項があればそこもプラスで合計15分~20分くらいかなと。 後ろの方の子供は終盤飽きて機材に触ろうとしてたりしたので。 色の原理で前に出て何人かお手伝いしてくれましたが 参加型で何かをするのであれば、なるべくまんべんなく子供たちが参加できるようにした方が良いと思います。			○		
	③実験を実施していない時間の使い方 実験が終わってやることのない子、順番待ちでやることのない親子にも何か参加型で出来る事があると良いかなと思いました。 ここは本丸の企画+サブ企画というイメージです。					○
	④液体の管理 液体物を使用する場合は床にブルーシートを養生するなど 万が一こぼしても被害が大きくなるように、養生すると良いと思います				○	
伊藤	2) 受付開始時の委員の受け入れ態勢について 全ての準備と食事を完了し、12時半には迎える態勢にしておくべきだと思いました。 食べているところにお客様が来るというのも、参加者はもちろんですが、講師にも失礼でした。		○			
安力川	・ 実験後の時間の使い方がグダグダになっていた。 アンケート記入後、手持ち無沙汰の方がほとんどで、ほぼ全員が時間を持て余していました。 子供も飽きていたと思います。 その時間帯にけっこうなお客さまが帰っていますよね。 せっかくの委員長講評まで気持ちがつながらなかったのは残念です。		○			
	・ お昼食べてるところで、既にお客様が。		○			
	・ 佐藤さんに作業が集中し過ぎ		○			
	・ 技術士紹介プレゼンの準備がギリギリでした。 保護者向けスライドを保護者視点でもう少し効果的なものにできたな、と今更反省しています。			○		

	課題	参加者集め	運営全体	プレゼン	実験・実習	展示物
品田	・ 時間や準備していただいた資材によって実験が何回実施できるのかスタッフとして把握しておけば、もっとスムーズだったかと。				○	
	・ 会場も田中山9Fくらいあれば、良かったですね。		○			
竹入	・ お昼中にお客様が来客		○			
	・ 参加者同士がコミュニケーション取れる工夫があっても良かったかもしれません。		○			
	ex) 周りのお友だちと写真のことを話してみようとか					
	今後どこかとタイアップするならば、 ・ 青年技術士会のイベントとして参加していただける団体探し → 無償・有償も課題点 タイアップできないなら ・ 青年技術士会、オリジナル夏休み企画の計画が今後真っ先にあがる課題になると思います。 来年もとなればタイアップ出来る団体探しは、早めに探し出さなければならないと思います。		○			
田角	・ ご飯を食べている間に参加者がいらしてしまったのは、受付係として非常に申し訳ありませんでした。一応写真体験もせずすぐ買いに行ったつもりではありましたが、時間をみてもっと急げば良かったです。		○			
	・ 竹入さんのご意見にある、参加者同士のコミュニケーションというのは何かあれば良かったかもしれません。グループワークとか。		○			
	・ 確かに終わった後の待ち時間は、プリントを書いたりしてもらっていましたが、机もない状態だったので、その辺をどう段取りするかは今後の課題とされます。		○			

複数意見

- ・ 幹事長への負担
- ・ お昼～受付までの時間が短い → スタッフへの実習終了～お昼の時間が短かった。
- ・ 実験後の時間の使い方
→ レポート作成に費やしたかったが、机が無い状態でうまくいかなかった
- ・ 参加者同士のコミュニケーション

	良かった点	参加者集め	運営全体	プレゼン	実験・実習	展示物
山本	・技術士会のネットワークを使わなかったこと	○				
	・今回の情宣であのハイレベル小学生を集めれる自信がついたこと	○				
	・会の流れにメリハリがあったこと		○			
	座学、実技、息抜き(ラピロ、チェキ)、硬くないプレゼン		○			
杉山	冒頭のやすかがわさんのプレゼンはとても良かったです。 子供たちに質問形式で技術内容に興味を持ってもらうのは 凄く良いと思います。 質問形式、参加型のプレゼンは場も盛り上がりますね。			○		
安力川	・実験自体は素晴らしいものでした。 何より子どもたちが楽しそうでした。三原色を実感できたのは本当に よかった。私も楽しかったです。富士フィルムさんに感謝				○	
品田	・実験を子供たちだけでなく、親御さんも参加できた。				○	
	・子供たちも2回以上実験ができた。				○	
	・自分で作ったものを成果として持ち帰ることが出来た。				○	
	・RAPIROとRAPIROのシールも喜んでいた。					○
田角	・実際に自分で手を動かして作ったものを、自分の目で 確かめるというプロセスがよかったと思います。 アメリカの学校などだと「Hands-on excersize」というのだ と思いますが、自分で手を動かして体験する機会を授業の 中に入れると学習効果が高いとしてよく取り入れられている 方法であると思います。				○	
	・白衣とゴーグル。やはり自分がちび科学者になったような 気持ちになったようで皆はしゃいでいました。				○	
	・富士フィルムの方のお話・・・私は受付にいたので聞けなかった のですが、非常に面白かったというので。			○		
	・RAPIROは、待ち時間などに子供たちが興味を持ってみにきていて、 よいバランスになったと思います。					○

2014年 DreamsProject 工程表

2014年8月更新									
担当：佐藤、安力川、伊藤、田中、中村、小池、豊田、杉山、金丸、野口、瀧川、吉田(例会Gr.)									
型番	項目	概要	着手予定日	着手日	完了予定日	完了日	担当者	状況	備考
1	企画立案	テーマについての議論	2013/11/22	2013/11/22	2014/3月運営会CP	済み	全員		
2		テーマ確定			2014/4月運営会で承認	2014年/1月			
3		共催先への正式依頼	2014/5月末		2014/5月運営会後	2014年/2月	佐藤		
4	運営準備	役割分担	2014/5月		2014/5月運営会で決定				
5		広報文書作成(ピラ)	2014/5月		2014/5月運営会で決定	2014年/5月	金丸		
6		一般向け広報要請(新聞掲載)	2014/5月		2014/4月B～M	実施せず			
7	例会準備	ピラ配布	2014/6月		2014/6/28～6/30くらい		山本、豊田、佐藤		
8		自由研究ノート作成	2014/6月		2014/6月運営会で決定	2014年/6月	佐藤		
9		アンケート作成	2014/7月		2014/7月合宿でチェック	2014年/7月	吉田		
10		レクレーション保険加入	2014/7月		2014/7月B頃	2014年/7月	佐藤		
11		備品確認	2014/6月		2014/6月運営会時				
12		当日会場設営			2014/7/26 午前中		全員		

今後の流れ

1. 広報関係

時期	項目	概要	着手予定日	着手日	完了予定日	担当
5/6～	運営準備	広報文書作成(ピラ)	2014/5	2014/5/6	2014/5/31	金丸
5/24～		ピラ印刷	2014/6		2014/6/7	佐藤
6/9～		ピラ配り*	2014/6/9			山本、豊田、佐藤

* 配布先	場所	担当	備考
1) 国立科学博物館	上野	豊田、佐藤	100部
2) 科学未来館	お台場	山本、佐藤	100部
3) 科学技術館	九段下	豊田、佐藤	150部
4) 港区役所	麻布		配布せず
5) 港区立図書館	神谷町の近く		配布せず
6) 御成門小学校	神谷町の近く	佐藤	300部(郵送)
7) 麻布小学校	神谷町の近く	佐藤	100部(全校生徒への配布はなし)
8) 青山小学校	神谷町の近く	佐藤	200部

20部ずつ配布すると、合計140部ピラが必要

2. 運営準備

時期	項目	概要	着手予定日	着手日	完了予定日	担当
5/7～	運営準備	自由研究ノート作成	2014/5		2014/5/31	佐藤
5/24～		青年ブログ掲載	2014/5/24		2014/5/31	佐藤
7/5～		アンケート作成	2014/7/5		2014/7/19	吉田
7/5～		レクレーション保険加入	2014/7/5		2014/7/19	佐藤
6/9～		誓約書作成	2014/6/9		2014/6/14	佐藤
7/5～		誓約書配布	2014/7		2014/7	佐藤

誓約書の配布はなしにした

*自由研究ノート作成

	担当
低学年用(1～3年生)	佐藤
高学年用(4～6年生)	佐藤

概略工程(2013年自由研究教室in九州工業大学)

日程	担当	項目	内容	2014/7/26をターゲットとするならば
2013/4/3	運営委員会	テーマの絞り込み	九州工業大学 趙先生に宇宙工学を依頼するため、北九州支部にアポイント要請(上原さんより)	2014/3月運営会
2013/5/17	運営委員会	テーマ確定	九州工業大学 趙先生に宇宙工学を依頼することに決定	2014/4月運営会
2013/5/21	九工大	自由研究の依頼	九州工業大学に北九州支部の末松さんと上原さん、山田さん、高木さんが挨拶、依頼に伺う	
2013/7/10	運営委員会	詳細を詰める	タイトル、応募方法、内容、役割の基本的なことを決定する	2014/5月運営会
2013/7/14	高木	案内文の最終作成	高木さんの方で、自由研究の最終案内文を作成し、運営委員会に配布する。	2014/6月運営会、7月合宿で最終確認
2013/7/15	高木	西日本新聞社に掲載依頼		2014/6/7
2013/7/15～8/2	高木	九工大との調整	九工大から学内の手続き書類など細かな点についてやり取りする	
2013/8/1	西日本新聞社	8/1の夕刊新聞掲載	ここから、応募者の連絡が始まる	
2013/8/1	持田	昨年までの出席者に参加要請	昨年までに参加された方へ、メールにて参加依頼を始める	2014/6/28
2013/8/4	西日本新聞社		夕刊の発行部数が激減しており、応募が無い場合、朝刊への掲載を再度依頼(持田)	
2013/8/14	西日本新聞社	8/14の朝刊新聞掲載	ここから、新規応募者の連絡が始まる	
2013/8/15～8/21	姜、池田、上原	自由研究ノート		2014/6/28～
2013/8/22	山田	損保ジャパン	レクリエーション保険に加入	2014/7/12
2013/8/22	持田	技術士会	学生への謝金、腕章、名札を本部より受領, 借用	2014/7/19
2013/8/23	高木	事前準備	案内板作成、アンケート作成、資料印刷	2014/7/19
2013/8/23	上原、姜	事前準備	隕石に関する資料と隕石	
2013/8/24	参加者全員	当日	事前準備表に従い、それぞれが配置に着く	2014/7/26

行事名	8 月例会:恒例ビアパーティ
日時	8 月 3 日(日) 18 時 30 分～20 時 30 分
場所	叙情個室 dining 月とうさぎ 新宿店 (新宿区歌舞伎町 1-17-13 J1 ビル 7F)
担当者: (○印:リーダー)	○細野雄治(記)、金丸 阿沙美
参加者数	22 名(内訳:会員 17 名うち委員 8 名、非会員 5 名)

1. 背景・目的

青年交流委員会では、技術士二次試験終了後の夕方からビアパーティを開催している。本行事は青年交流委員会 30 年の歴史を誇る行事で、当初は試験監督の慰労会であったが、近年では技術士二次試験の慰労、次年度以降受験される若手技術者の情報交換、各部門の技術者との交流の場として開催されている。

2. 活動内容

開催の場所は、前回と同様に参加者の集まりやすい新宿で開催した。山本委員長の挨拶から始まり、ビールを片手に試験に関する情報交換や参加者の近況報告等で盛り上がった。当日までの幹事の負担軽減や前年開催の課題となった直前のキャンセルや飛び込み参加に対する融通面が利くことを重視した。

3. 成果と所感

参加者が時間通りに集まり、直前のキャンセルや飛び込み参加がほとんどなった点は良かった。しかし、参加された方々から店舗の選定や幹事の対応など不評があった。幹事の主な反省点を以下の表にし、3 つの改善点にまとめた。

4. 反省点

	苦情	問題点	改善案
幹事	・共有遅れが目立つ	コースの値段と人数、店舗場所、メニューの内容、予約状況、ML のメンバーの情報共有不足	幹事間の情報共有
	・月の泉、月のうさぎのどちらかが分からなかった ・看板が無くお店の所在が分かりにくい	目立った看板が無くわかりにくい	過去に担当した幹事の聞き込み調査
	・不健全な娯楽施設も多い ・悪質な客引きにかかりそうになった ・店内が狭い	人通りの多いところにお店があった。 ・飲み放題コースに始めからビールが付いていなかった ・堀炬燵の席であった。	綿密な現地調査
内部アンケート		参加者のほとんどがOBであり、受験者及び受験予定者が少なかった	・特別例会で、一次試験合格者や修習の方などに声をかけてみる ・ビアパーティの位置づけを改めて考えさせる
		当日のビアパーティ内容が薄かった	・参加者の自己紹介タイムや参加者に話を聞く企画など、懇親を深めるイベントの時間を取る

5. 今後の展開

このビアパーティは 30 年以上続く行事であるので、今後も継続して開催したい。幹事がしっかり反省し(上記の反省表及び内部アンケート)今後のビアパーティが参加者の情報交換や受験者の試験対策につながるような参加者の有益となるよう務めていきたい。また、受験者や将来受験する方々の参加を増やすために4月の特別例会時に呼びかけを行うことやビアパーティの位置づけを考慮したい。

以上

【記:細野 雄治】

2014 年 8 月恒例ビアパーティ 内部アンケートまとめ

● 良かった点

- ・ なんだかんだで出席率が高かったこと
- ・ 募集、告知等がスムーズで、あの場所なのに迷子が出なかったこと
- ・ 受験者としては、ビアパーティで手応えを聞かれるので、試験のモチベーションアッになるのでは。
- ・ 先輩の話が聞ける点はよかった。口頭試験に役立ちそうです。
- ・ 協力者の少ない中、よくやっていたと思います。
- ・ 幹事、スタッフの人数の少ない中、8 月例会として成功を収めた。
- ・ そこそこ、人数が集まったこと
- ・ ドタキャン、ドタサンがほとんどなく、予約通りの人数が参加したこと
- ・ 実施日の 1 週間前には定員まで集まったこと（ブログの効果はあったかと）
- ・ 委員以外のかたもそれなりに参加して頂いて、交流会としては良かったと思います。私個人はいろいろ話せてよかったですが、参加者の皆様はどうだったでしょうか？
- ・ 何度目かのリピータがいらしたのは評価してよいと思います。

間口を広げて、さまざまな方にかかわっていただく機会があるのは評価できると思います。

● 反省点

◆ 準備面

- ・ 受験者が少なかったのが残念です。試験終了後に参加は辛いかも。
- ・ 細野さん、金丸さんに他の青年委員メンバーは丸投げしすぎていなかっただろうか？
「飲み会幹事程度のレベルでいいですよ」と言って、その後のフォローやチェックが十分できていなかったのではないかと私は今回、この問題が一番大事のように思います。
- ・ 実は当初予約した飲み放題にはビールが入っていませんでした。追加料金を払って、生ビールが入るということを、当日知る。そのため、追加で 3 1 5 円という細かい金額を払ってもらうことになってしまった（事実を確認したのが、数名集金した後だったため別途集金することに）
- ・ しかも、本当は追加料金を入れても 1 名 3600 円でした。ドタキャン対策に細野さんが 4000 円と設定しており、それを本人以外誰も知らなかった。（しかも、本人は誘導のためお店の外、、、）
⇒ コスパが悪すぎるという声がチラホラ聞こえたので、心が痛かった。実質 700 円ほど高く集金してしまっています。
- 参加費、予約内容に関する情報共有が図れていない・飲み放題は全てピッチャーで、4 つまでしか出してもらえないという条件があり、1 つウーロン茶にしまうと、他の 3

つをフル回転でおかわりするしかなかった。飲み放題の詳細な内容も確認する必要あり。

○参加者へのフォロー

- ・名前、部門、受験有無（受験部門）、取得済み部門等がわかる名札を付けてもらうべきだった

⇒昨年は特に感じなかったのですが、今年は、参加される方から何回か「参加者は何部門の人がいますか？受験生は何人くらいいますか？」という質問を受けた。

⇒名刺交換をするにしても、全員と話す時間が取れないかもしれないので、パッと見てわかるような名札を付けると良いのではないかな？

○受験生、受験予定の参加が少なかった

⇒ほとんどがOBだったので、受験生は少し物足りなかったのではないだろうか？

もう少し年齢層が若い人にも参加してほしい。

⇒OBが多いと、若い人は少し肩身が狭いかも。 ⇒特別例会で、一次試験合格者や修習の方などに声をかけてみてもいいかも。

- ・ちょっと年齢層が高いのかもしれない。
- ・受験者の参加が少なかったこと。
- ・新規受験者の参加が少なすぎる。

◆会場

- ・ゆったりとくつろげるような場所が良かったかもしれません。

- ・会場選定方法が不適切。結果的に、風俗店と同じビルにあるような居酒屋が懇親会会場であったことになるが、例会会場として適切だったとは言えない。入場時に躊躇していた参加者も見受けられた。新宿という場所の選定は良かったのかも知れないが、TP0をわきまえた会場選定が必要。

- ・2次会の候補もリスト化しておくべき。

2次会が悪かった訳ではないが、リスト化していれば更に満足度が上がったかと思えます。

- ・お店の選定。ドタキャン、ドタ参に耐えうる会場だったかどうか。（ここは、6月の運営会で私から指摘していた点です。）

このピアパーティは通常の飲み会と違って、試験会場がバラバラで集まり時間もバラバラなのと、ドタキャン・ドタ参が多い、という特徴があります。

（実際の受験者は技術士会の会員でないケースがほとんど。なので、ロコミで参加するケースがある。）

お店は、人数は「プラスマイナス5人」くらいあいまいでもOKで、会場を広くとれるところを選択すべきでした。

- ・青年イベントらしい場所、お店を選択できていなかった。

⇒表に看板がなくわかりにくい、如何わしいお店が同じビル内に入っており、青年イベントのお店としてはふさわしくなかった

⇒東口側は混雑しており、お店を見つけにくい、誘導していた人を見つけにくい。2次会場もなかなか空いている店がなく、いいところをうまく見つけられなかった（2次会場の店も何件か考えておきましたが、1次会終了30分前に電話しまくって、確認しましたが全部ダメでした）

⇒サポート役として、幹事が選んだお店をもっと細かく確認すべきだった。

- ・実際にお店で立地、内装、店員の対応などを確認すべきだった

⇒HPの雰囲気信じすぎてしまっていたので、実際行って確かめるべきだった。

- ・情報交換の場として考えている参加者が多いため、席移動が容易なスペースに余裕があるお店が良かった。また、座敷じゃなくテーブル席の方が移動しやすくてよい。

- ・開催場所の選択：場所がわかりづらい

⇒直前のメールで、細野さんからフォローがあり、たどり着けましたがそれがないと正直つらかった。

- ・予約する以上、キャンセル料を取られるのはしかたないのかも知れませんが、かといってそれがない店をさがしておくのも難しいですね、、

- ・開催場所の選択：風俗店との同居

なるべく避けるべきとは思いました。

- ・マネジメントが難しいけど大幅にディスカウントするとか

- ・多少高くとも自由に席が替わられるところのほうがよかったかも

- ・東京都、神奈川県を受験会場くらいをターゲットにせざるを得ないのですが、開始時間としてはやや厳しかったかも。南大沢とかもあるので。

- ・面倒でも、「受験者は30分程度は遅刻可」と明示した方がよかったかも

- ・また、東京での試験会場のメインがフォーラム8になりつつあるので、

実際の受験者に参加してもらおうと思ったら、来年は渋谷でやる、というのも選択肢だと思います。

- ・開催場所の選択：下見の必要性

やはり“現場”が重要。飲み会して感じたことは、一度見に来ておけば、避けられたとは思いました。

- ・開催場所の選択：場所の選択肢のストック

不特定多数を呼ぶので、ぱっと、ネットでさがすだけだと、適切な場所を見つけるのは難しいと思います。ある程度場所のストックをしておく必要があらうと思います。僕自身は、ほとんど飲みに行かないので、ストックが少ないですけどたとえば委員会の後に、下見を兼ねて神谷町の外に繰り出す、なんてのもいいかもしれません。イベントのない日に。

◆当日のビアパーティの内容

・可能であれば、参加者の自己紹介タイムなど、懇親を深めるイベントの時間を取れるとよかった。

（自己紹介を上手く進めるためには、それに適した会場などの準備も必要）

昨年、私と昆野さんで会場を決めたのはこれが可能なところだったのと、一昨年は山地さんのお店貸切でやりました。

○参加者に話を聞くなどの企画があったほうが良い

・昨年は、受験生に受験の感想などを言ってもらうコーナーを設けていました。本当は、細野さんのスケジュールにもあったはず。ただ、狭かったのと、余裕がなかったのとで実施せずに終わってしまった。

◆その他

・今年は受験者が少なかったと思います。受験者をもう少し呼べるかどうか？考えたいです。イベントの年間スケジュールを考えたときに、4月の特別例会を重視していますが、7～9月あたりが多少手薄に感じています。4月で、今後も顔を見せてね、とあおっても、参加するイベント自体を用意できていないと思うので、8月も何かイベントをした方がよいかもしれません。試行的なイベントでもよいと思います。

・開催場所の選択：ビアパーティ？

どうでもいいかもしれませんが、ビアパーティ、という感じではなく、単なる飲み会でしたね、、、もう少しビアガーデンちっくなところの方が好ましいかも、、、

⇒これまでの伝統とはいえ、試験直後に正直受験生は期待と思うだろうか？私だったら疲れてきません。または、試験勉強が一段落して、友人・家族とゆっくり食事をしたい、飲みに行きたいというのが普通ではないだろうか？次の日仕事ですし。

そもそも、試験監督の慰労会が始まりだったこのビアパーティだが、趣旨が変わってきている中、実施日を見直しても良いのではないだろうか？次の週の土曜の方が、受け入れ人数の増加、若手参加の確保、出欠の安定化が図れるのではないだろうか？

・全体を通して、一般参加者を呼ぶ例会という意識を一貫して持ち続けられていたのだろうか？委員メンバー内の飲み会であれば何ら問題なかったが、一般の方を呼んで、青年委員会イベントとしてやっていくときにこのクオリティが青年委員会のレベルとわかれていいのか？これは今回幹事の問題ではなく、青年委員全体の問題だと考えていますので、アンケートまとめの際には全体に問題提起をしていただきたいと思います。

行事名	9 月例会:年間計画大会 2014
日時	2014 年 9 月 27 日(土)
場所	葦手第二ビル 5F CD 会議室
講師、発表者	田中
担当者	例会グループ(金丸、佐藤、中村、吉田、細野、田中)
参加者数	16名

1. 背景・目的

青年委員会の位置づけ・例会の方針をメンバー間でのシェアを行い、例会の年間計画を行う。

2. 例会内容

まず、青年委員会の位置づけや例会方針のシェアを行ったのち、「例会のあるべき姿」についてディスカッションを行った。その結果、春夏の期間に一般会員向けの例会があまり行えていないことから、今期は「継続」をキーワードとして一般会員向けの企画をできるだけ毎月行っていくという方針が決まった。また、例会の目的を改めて議論することができ、「青年層を対象に、一人では養いにくいコミュニケーション能力やチャレンジ精神、リーダーシップといった資質の向上や人脈形成のできる場の提供と、それを通じた青年委員会メンバーの資質の向上」という目的を再認識することができた。人集めは目的ではなく手段であることに留意すべきであることを確認できた。以上を踏まえ、例会の年間計画として各例会の担当と方針を決定した。最後にグループの再編成を行った。Ⅱグループがサーバの運用を行っていくうえで人材不足である。

年間計画リスト

	企画内容	主担当	サポート	サポート	サポート	サポート
10 月	年間計画大会つづき	田中	-	-	-	-
11 月	講演会	越智	中村	-	-	-
12 月	サッカー例会	高橋	(藤井)	-	-	-
1 月	一次ガイダンス、パネルディスカッション	コーデ 小野寺	パネラ 赤木	パネラ 田中	パネラ (修習)	サポート 伊藤
1 月	一次ガイダンス、ポスターセッション+懇親会	(不在)	細野	-	-	-
2 月	一次合格者向け企画、委員補佐主導企画	古川	竹入	石井	-	-
3 月	二次合格者向け企画	伊藤	細野	田中	-	-
4 月	一次・二次合格者交流会	幹事長 太田	副幹事長 古川	司会 松田	会計 瀧川	前年幹事長 杉山
5 月	特別例会リピータ向け企画	鳶田	赤木	-	-	-
6 月	本支部交流会、地方名物対決	赤木	品田	山本	(新役員)	-
6 月	テクノツーリズム	吉田	松井	-	-	-
7 月	英語企画	丸山	松井	竹入	松田	細野
8 月	夏休み子供向け企画	安力川	(不在)	-	-	佐藤
9 月	定番企画??	道家	(不在)	-	-	-

()付きは未決定箇所

3. 成果と所感

- 欠席者が多かったが、事前にアンケートをとっていたので、年間計画はそれなりの形となった。
- とはいえ欠席者が少なくなるような工夫が必要であると感じた。
- ディスカッションを行ったことで例会の課題や目的を共有することができた。
- メンバーの大部分が新メンバーだった昨年と同じ感覚でタイムスケジュールを組むと時間が足りなくなってしまう。今年は議論が白熱し、みな一年間活動してきて想うところが多いのだろうと感じた。

4. 今後の展開

未決定箇所の担当割り振りし、未定の例会内容のところを各例会担当主導で決めていく。

以上

行事名	11 月度例会
日時	2014 年 11 月 15 日(土) 13:30～17:00
場所	葦手第二ビル CD 会議室
担当者:○主担	○越智 中村(記)
参加者数	12名 (応募者21名、他委員9名)

1. 目的

技術士取得後に意識されている人も多い「独立・起業」について、実際に起業された先輩技術士からの体験談をもとに、若手技術者のキャリアプラン形成の一助を目的とした例会を開催した。

テーマは「働くこと」と題し、前半は講演、後半は成功・失敗のご経験談を頂きながら、参加者が日常の業務で抱く希望や疑問を語り合う座談会形式とした。

2. イベント内容

1. タイトル「座談会 企業家技術士と働くことについて語ろう

(サブタイトル:成功と失敗を経験した先輩から働くことを学ぶ)」

2. 講師：筒見 憲三氏 (株)ヴェリア・ラボラトリーズ 代表取締役社長 技術士(総合技術監理・環境部門)、一級建築士、MBA

3. スケジュール

- 13:15- 受付開始
- 13:30-13:40 開会挨拶
- 13:40-15:00 講演「働くこととは」
- 15:00-15:10 休憩
- 15:10-16:00 座談会「働くこととは」
- 16:10-17:00 会場内で簡単な懇親会(座談会 2 次会 16:10 以降はご希望者のみ)

3. 成果と所感

今回は座談会形式ということもあり、参加者数に定員(20 名)を設けて募集した。応募者(21 名)は早々に定員に達し、早期に募集を締め切ることとなった。その理由として、今回のテーマが「独立・企業」についてであり、参加者が興味を持ちやすかったことが考えられる。

また今回の例会は準備期間 1.5 か月程度であったが、短期間での準備が可能であった理由として以下が考えられる。

- ・例会準備のマニュアルが整備されていたため戸惑うことが少なかったこと。
- ・例会 G のフォローが適切であったこと。
- ・例会担当者の人脈による講師へのアプローチと確定がスムーズに進んだこと。

座談会は盛況に終えることができた。これは講師の力量によるところが大きい。講師の筒見氏は大手建設会社⇒企業内留学(MBA 取得)⇒シンクタンク研究員⇒ベンチャー企業立上げ(上場達成)⇒企業衰退・退社⇒2 社目のベンチャー立上げと、若い技術者へのアドバイス・指針となる経験を多く有していた。その経験談を当時のご自身の心情と共に情熱的に語って頂き、参加者も引き込まれていた。

<講義の要旨(一部)>

- ・海外はビジネスモデルの魅力から話を始めるが、日本は技術内容や成否から話を始める。
- ・自分で自身の「働くこと」へのテーマを持つ。
- ・使命とは命を使い何かをすること。
- ・自分の能力を使い、社会の発展に貢献する。
- ・「人生の本舞台は常に将来に在り:尾崎行雄氏」⇒ 本当の自分の姿は常に未来にある。

さらに、後半を座談会形式にしたことも良かった。単に講義形式だけであると情報が一方通行となることも多いが、座談会とすることで双方向型の例会となり、講師と直接コミュニケーションが取れることで参加者の満足度も高まったと考える。また懇親会も講師の周りには人が集まり、大いに盛り上がった。

4. 今後の展開

青年委員会の例会として座学は少ないが、このような形式についても参加者のニーズがあり有益と考える。しかし、応募者数(21名)に対し当日の欠席者数(9名)が多かったため、今後は直前のリマインダー送信などで対策が望ましい。

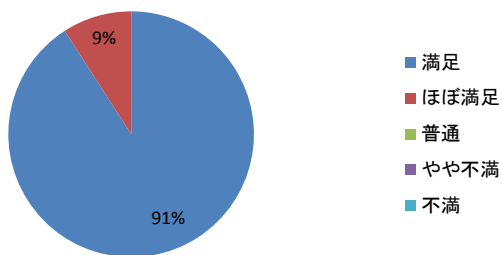
また、双方向型例会の完成度はテーマや講師によるところも多いため、「青年らしい」テーマを選定することで今後も参加者の注目度と満足度が高い例会を実施できると考える。

以上

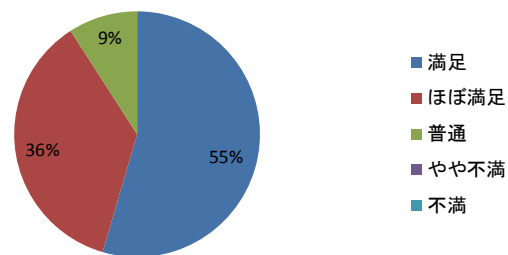
<当日の様様>



Q1-1 講師の話し方や進め方



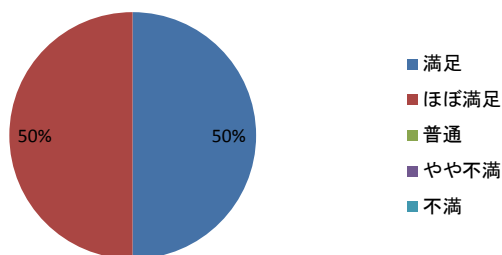
Q1-2 座談会の内容



Q1-3 講師に伝えたいこと(コメント)

- ・米国での電気自由化による成功と失敗
- ・ありがとうございました
- ・大変有意義でした。ありがとうございました。
- ・ご自身の失敗を見つめなおして、それを語られているのはすごいと感じた。
- ・環境マネジメントセンターの会員もしております。機会があれば講演をおねがいします。
- ・転職・企業にあたり、大切な人とのやりとりがきっかけになることを体験談として聞け、まずは人脈作りが大切だということが分かりました。

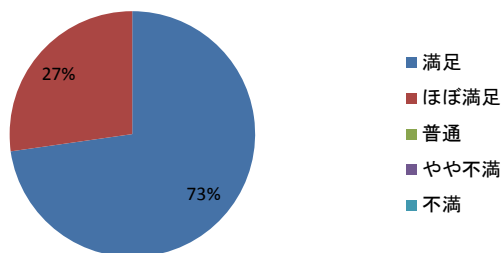
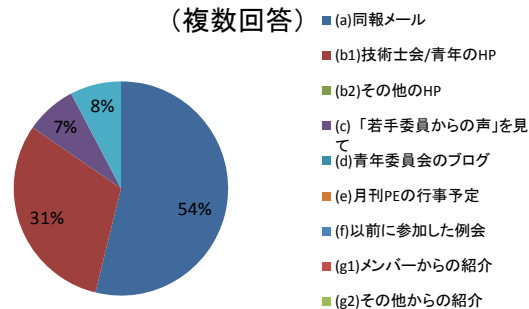
Q2-1 スタッフの対応



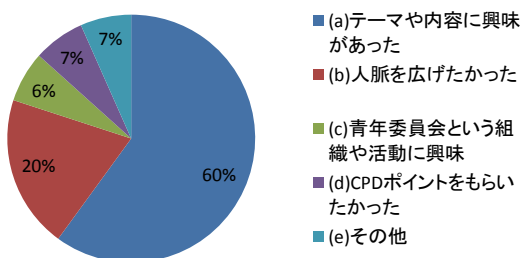
Q2-2 スタッフに伝えたいこと(コメント)

- ・興味深い企画でした。
- ・座談会の時間をもう少し増やしてほしい
- ・運営ありがとうございました。
- ・周到に準備いただきありがとうございました。

Q3 今回の例会は全体として

Q4 例会をどのように知り、参加したか？
(複数回答)

Q5 参加目的(複数回答)



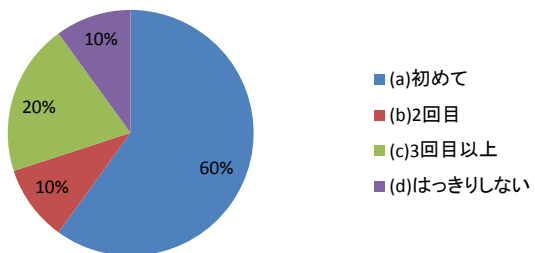
Q4 その他の内容

- ・技術士の同僚からのメール

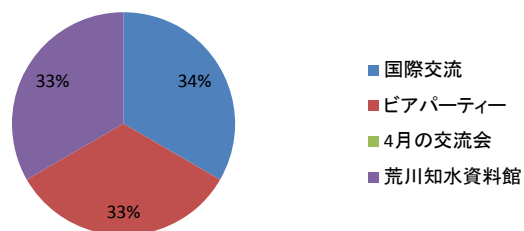
Q5 その他の内容

- ・起業に興味があった。

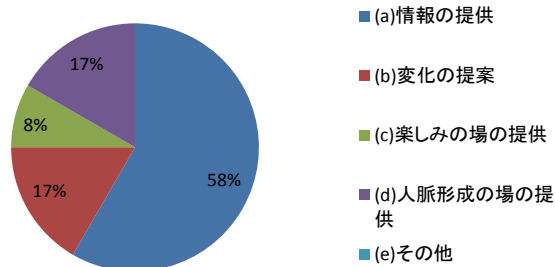
Q6 青年の例会参加回数



Q6-1 過去に参加した例会で、象深かったテーマ
(2回目以上参加者)



Q7-1 今後開催してほしいイベント



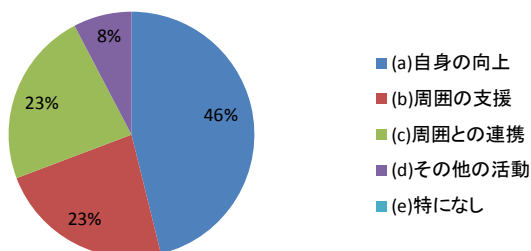
Q7-1 コメント

- (a) 座談会
- (a) ベンチャー立ち上げプロジェクト
- (c) 懇親会
- (d) 座談会

Q7-2 内容以外についての希望

- ・ 52才でも参加していいのでしょうか。
- ・ 参加者数の制限を多くして欲しい。なかなか参加できない為

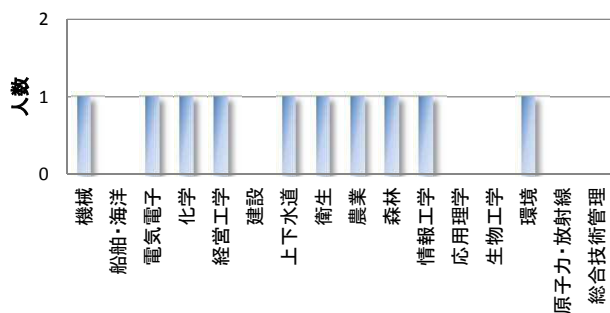
Q8 本業以外の活動について(複数回答)



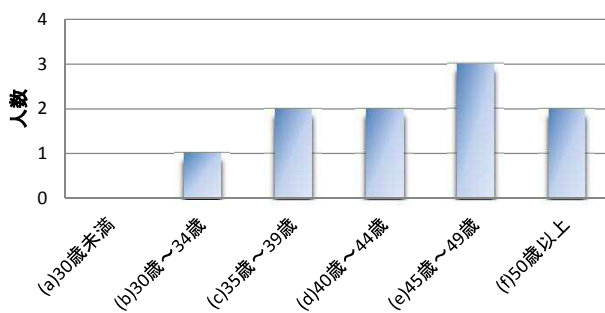
具体例

- (a) 修習セミナー
- (b) OTEC
- (c) 勉強会
- (c) 会社CSRの一環として、理科支援
- (d) ITコーディネータ

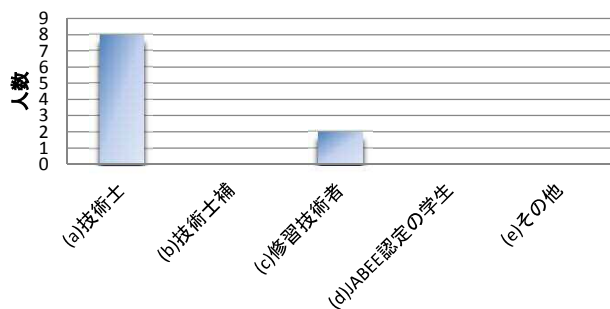
Q9-1 部門



Q9-2 年齢層



Q9-3 会員層



2014年11月例会 内部アンケートまとめ

【良かった点】

発言者	意 見	例会内容	事前準備	講師	当日の委員の対応	その他・全体的に
太田	・講師のクオリティが非常に高かった			●		
	・越智さんの司会が良かった				●	
	・短期間で開催にこぎつけたのはすごいと思う		●			
高橋	・講師の方の話がよかった。			●		
	・座談会からの交流会なので、そのままの流れで話ができただよかった。					●
小野寺	・パワボを使わない講演は非常に勉強になった。	●				
	・人数は予想を下回ったが、意識の高い参加者が濃縮した。					●
中村	・テーマが良かった(参加者にとって興味深い内容だった)	●				
	・座談会形式であったので盛り上がった。(やはり参加型が良い)	●				
	・参加者のネームプレートがあったので、お互いの部門と名前を確認できてよかった。		●			
	・懇親会を隣のA、B会議室を使用したため、準備ロスがなかった。				●	

【悪かった点】

発言者	意 見	例会内容	事前準備	講師	当日の委員の対応	その他・全体的に
太田	・定員超過で締め切りされて、参加できない人がいた(参加者の知人) しかし、ドタキャン(?)などで当日空席があったことは残念。					●
	・懇親会場が別室であったことが司会に伝わってなかった				●	
	・座談会の時に、一部の参加者のみが話していた	●				
	・後ろに座る青年委員の一部が居眠りをしていた(講師が気にされているようだった)				●	
高橋	・座談会から交流会への移行に手間取った。				●	
	・交流会の開始のタイミングが遅かった。					●
	・自己紹介が少し長かった気がする。	●				
小野寺	・アンケートを席を立つ前に書かせられなかった。				●	
	・参加人数が多い例会であると、出口で混乱しそう。				●	
中村	・申込者に対して、参加者が少なかった。(理由は今後考察の必要あり) →2日前くらいに参加者に最終案内メールを送ればよかった。		●			
	・アンケートの回収がスムーズではなかった。(参加者は帰りに催促されて、慌てて書いていた) →例会開始時に、資料の中にアンケートがあり、帰りまでに書くようにアナウンスをすればよかった。				●	

【その他・気が付いた点】

発言者	意 見	例会内容	事前準備	講師	当日の委員の対応	その他・全体的に
太田	・このような会だと、講師の力量によって、結果が大きく変わってしまうなと思いました。	●				
高橋	・座談会形式は面白い企画でしたが、話のポイント絞った方が良いのかもと思いました。	●				
小野寺	・座談会という形式を初めて体験した。 今後の例会形式を考える上で、よい事例になったと思う。	●				
中村	・今まで座談会形式の例会は少なかったが、参加者のニーズはある。 テーマによっては、今後取り入れていても良いと感じた。	●				

行事名	テクノツーリズムとスポーツ交流
日時	(テクノツーリズム)2014 年 11 月 24 日(月・祝) 10:00~12:00 (スポーツ交流)2014 年 11 月 24 日(月・祝) 14:00~16:00
場所	(テクノツーリズム)中央区総合スポーツセンター会議室 (スポーツ交流)浜町公園サッカー場
講師、発表者	講師:松尾仁氏(技術士(環境部門・総合技術管理)) 中外テクノス株式会社 「事業活動と省エネ活動について」
担当者: (○印:リーダー)	野口、古川、○高橋(記)
参加者数	(テクノツーリズム)11名 (スポーツ交流)15名

1. 背景・目的

日韓技術士国際会議の親善の一環として開催されている日韓親善サッカーでの勝利を目指して立ち上げられた「フットサル愛好会(2007 年 12 月)」では、参加メンバを増やしながらかサッカーを通じた交流の輪を広げ、現在まで継続した活動を行っている。今回は、その一環として日韓親善サッカーの慰労として、テクノツーリズム及びサッカー練習会を開催した。

2. 例会内容

2. 1. 講演(10:00~12:00):松尾仁氏(技術士(環境部門・総合技術管理))

・事業活動と省エネ活動について

2. 2. スポーツ交流(14:00~16:00)

・サッカー練習会

3. 成果と所感

・【講演】省エネルギーに関して、単に電力消費量を少なくするのではなく、インプットとアウトプットの差が重要であるという基本的な考え方からはじまった。その基本的な考え方からある機能を達成するための機器の仕事のつながりの損失をどう抑えるか、またその際の仕事の効率でどの経路で損失を抑えるかとう応用的な考え方を学ぶことができた。最後に、演習問題を通して今回の講義の復習として、曖昧なことを明確にし、割合ではなく絶対値で判断することが重要であることが理解できた。省エネルギーは、課題を発見するセンス、組織的・全体的な活動がポイントであり、今回の講義は省エネルギーを体系的に学習する良い機会であり、有意義な時間であった。

・【サッカー】今回は三連休の最終日に開催した。そのため、ミニサッカー(8 対 8)で練習を行った。サッカーのコートより少し小さめであるが、十分な練習ができた。2015 年にはアウェイでの試合があるため、それに向けて活動を継続して行きたいと考えている。

4. 今後の展開

・サッカー参加のメンバもだいぶ固定的になり年齢層があがってきている。新メンバの勧誘や若いかたの参加を増やして行ければと考えている。

以上

行事名	技術士を目指そう、修習ガイダンス 2015 パネル討論
日時	平成 26 年 1 月 31 日 (土) 15:00~17:22
場所	コクヨホール (JR 品川駅港南口)
講師、発表者	コーディネーター:小野寺純*(生物工学) 技術士パネリスト:田中雅人*(電気電子)、赤木宏匡*(経営工学)、靱勝彦(情報工学) 修習技術者パネリスト:佐藤理恵子(化学)、尾形裕(建設) PC 操作担当:高橋義也*(情報工学) *は、青年委員/補佐
担当者: (○印:リーダー)	○小野寺純(記)、伊藤友加里(アドバイザー)、田中雅人(サポート)、山本憲志(企画総責任者)
参加者数	約280名(参加申込者数)

1. 背景・目的

- ・ 修習技術者支援実行委員会(修習委員会)が主催する第一次試験合格者/JABEE 認定課程修了(見込)者を対象とした「技術士を目指そう、修習ガイダンス 2015」において、パネル討論を青年技術士交流実行委員会(青年委員会)にて例年通り担当した。修習技術者に対し第二次試験受験へのインセンティブ付与、および日本技術士会への入会を説くことを目的とするガイダンスの中で、以下の目的のもとで青年委員会はパネル討論を実施した。
- ・ 技術士と修習技術者との、テーマに沿った討論を通じ、会場の修習技術者に対し、技術士第二次試験合格と技術士会活動参加への強い動機付けの場を提供する。

2. パネル討論内容

- ・ オープニング (5 分間)
コーディネーター挨拶、パネリスト紹介、パネル討論のコンセプトと流れを紹介。
- ・ 技術士パネリストの講演 (25 分間)
技術士パネリストに、技術士第二次試験への取り組み、苦労、失敗などの経験談、技術士として目指す道について、各 8 分程度で講演。
- ・ パネル討論 1:技術士までの道のり (20 分間)
技術士パネリストに、技術士(制度)との出会い～受験動機、モチベーション維持、第二次試験への取り組みの方法について、深掘り質問からの討論。
- ・ 修習技術者パネリストの講演 (13 分間)
修習技術者パネリストに、技術士第二次試験へ向けての現在の取り組み、そこでの現在進行形での悩みや心配点、合格した後どのような技術士として活躍していきたいかについて、各 6 分程度で講演
- ・ パネル討論 2:第二次試験に向けて (17 分間)
第二次試験に向けて、修習技術者パネリストの不安や悩み(アプトプット型学習の方法、勉強時間の捻出など)について、技術士パネリストがご自身の経験をもとにアドバイスという形で討論。
- ・ パネル討論 3:日本技術士会の活用 (15 分間)
修習期間での活用事例(修習委員会)、技術士になってからの活用事例(青年委員会での総合力拡大に向けた研鑽、人脈拡大からの様々なチャンス)について討論することにより、日本技術士会の有用性をアピール。
- ・ パネル討論 4:技術士になってからの変化 (10 分間)
技術者倫理の重要性自覚や、人脈拡大から今まで得られなかった情報に接する機会、社外のプロジェクトへの参加機会を通じた自己スキルの向上が得られた事例から、技術士登録後の自己変化について討論。
- ・ パネル討論 5:技術士として生きる道 (15 分間)
パネリストの技術士としての今後の展望について討論。コンサルテーション、独立、人材育成、T 型ディシプリン養成などがキーワードとなった議論になった。
- ・ 質疑応答 (10 分間)
時間いっぱいになるまで、途切れることなくフロアからの質問を得た。
- ・ クロージング (5 分間)
修習技術者の技術士登録へ向けた決意表明、技術士パネリストの激励。締め挨拶。

3. 成果と所感

3-1. 成果の概要

- ・ パネル討論終了後、修習委員会委員や元委員などの関係者から、「本音で突っ込んだ議論をしているにも関わら

ず、討論全体には安定感があり、安心して見ていられた」などのポジティブな感想を複数頂いた。また青年委員会主催の交流会に参加した修習ガイダンス参加者からも「技術士を目指す気持ちが高まった」「青年委員会の活動に参加してみたい」「参加費 4,000 円の価値はあった」という感想を頂いた。これらの聞き取り意見から、今回のパネル討論は概ね成功と判断してよいと考えている。

- ・ パネリスト 5 名には事前準備から当日まで、年末から年度末にかけての本業繁忙期にも関わらず、より良いパネル討論作りにご尽力頂いた。その成果が、上述の結果につながったものと確信している。心から感謝の言葉を申し上げたい。

3-2. 昨年度からの変更点

- ・ パネル討論内容については例年通り、事前準備については昨年のパネリストである伊藤委員が改善した部分を踏襲し、一部についてはさらなる改善を試みた。今回はコンサバティブな企画運営であったとも言えるが、いくつか改善を試みた点もあるので、以下の通りにまとめた。
- ・ 青年委員会スタッフブログおよび Facebook での情報発信
パネル討論企画の青年委員会独自プロモーションとして、青年委員会スタッフブログを活用した。企画コンセプトやパネリスト紹介、そして実施御礼についての記事を全 6 エントリにまとめた。これらのブログエントリは、パネリストや関係者との対談または鼎談形式を採用により「読んでもらいやすさ」を追求した。さらに、青年委員会の Facebook ページに、ブログへのリンク記事をアップすることにより、ブログ常連読者や検索訪問者以外にも、エントリを読んでもらえるような工夫を試みた。
- ・ 青年委員会内での講演練習および事前懇親会
前回は金属部会若手の会 (YES! Metals) での講演練習という、アウェイ環境での練習機会を頂き、貴重なフィードバックを得ることができた。今回に関しては青年委員会内という、一転ホームの練習環境となった。厳しさが無いようにも思えるが、伊藤委員、鳶田委員、石井委員、山本委員長といったパネル討論のパネリスト／コーディネーター経験者を迎えての練習機会となり、過去の経験からの貴重な意見が多数得られ、非常に有意義なものとなった。事前懇親会は青年委員会忘年会と併催となり、委員会外のパネリストにとって、より多くのメンバーとの事前交流機会が得られたと思われる。
- ・ パネル討論の進行フロー文書(台本)の作成
各回のコーディネーター方針により、パネル討論フロー(どのような質問を何時誰にするか等)のパネリストとの事前情報共有ポリシーは大きく異なると聞いている。今回に関しては、討論フロー書類(全 25 頁)の事前共有を行った。コーディネーターが発言する内容と投げかける質問が時系列式に記載されており、パネリストの回答は空白となっているという、まさに台本である。アドリブの余地を狭めた当該台本方式が最善であるとは思わないが、事前にパネリストが回答内容および付帯ネタを安心して準備できる点では、好適な形式であった筈である。
- ・ パネル討論中のストレッチタイム導入
報告者の昨年のパネリスト経験から、討論が後半に差し掛かると居眠りに入ってしまう聴衆が一定数いることが分かっていった。最後まで聴衆にパネル討論を見届けていただけるように、開始約 1 時間後に 1 分程度の簡単なストレッチタイム実施を試みた。報告者が壇上から目視したところではあるが、今回は討論終盤となっても居眠りをしている聴衆は少なかったように感じた。

4. 今後の展開

- ・ 現在の討論テーマ編成にて取り扱うことができる論点の数は、実のところあまり多くはない。例を挙げると、「技術士となることのメリット」という討論では、人脈拡充に近い論点が多数となってしまう、ややリダントな討論に陥ってしまいがちなところは、正直厳しく感じた。そのため、「技術士としての独立の可能性は」という返答が難しい質問をパネリストに振るような構成としてしまった点については、反省の余地がある。パネリストの田中副委員長による「アウトプット機会の拡大」というメリットの一貫した主張は、討論構成上非常に助けられた。
- ・ 現在の討論 5 題構成(上述)は、高度なレベルで完成されたものであり、今回もこの構成に手を入れることは叶わなかった。次回以降のコーディネーターの方には、新たな論点を増やす観点からも、この基本構成についての見直し(特に 3 から 5 題目)をご検討いただければと願っている。今後における当該構成変更に関する議論については、微力ながら報告者も協力させていただきたい。

以上、文責 小野寺

【添付資料 1: パネル討論の開催状況】



写真 1 パネル討論全体図



写真 2 パネリストの田中副委員長



写真 3 パネリストの赤木委員



写真 4 パネリストの靱さん



写真 5 パネリストの佐藤さん



写真 6 パネリストの尾形さん



写真 7 コーディネーターの小野寺



写真 8 終了後の記念撮影

2015 年 1 月 修習ガイダンス パネル討論 内部アンケート報告書

2015 年 2 月 28 日 運営委員会

小野寺 純

本報告書について:

今後におけるパネル討論企画のスパイルアップを目指すために、青年委員会内部の例会アンケートにて寄せられた意見についてコーディネーターとして検討を行った。次年度以降のコーディネーターへの引き継ぎ書類的要素も含むものとする。

内部アンケートで得られた、主たる論点について:

【2 時間 15 分という、パネル討論の時間の長さはどうにかならないか?】

修習委員会によってタイムスケジュールが決定されているため、この変更には修習ガイダンスの企画段階から青年委員会も議論に加わる必要がある。2 年ほど前までは 2 時間討論であったが、昨年から 15 分延長されている。修習委員会の持ち時間を、魅力的なコンテンツをもって増やしてほしいところであるが、現状においては難しいことは想像に易い。よって、2 時間 15 分を「長い」「だるい」と感じさせないパネル討論構成に高めてゆくこと(青年委員会による自助努力…)が、引き続き必要であろう。

【途中で休憩とか、フロアからの質問を取れないのか?】

途中休憩については修習委員会の企画に属する問題であるので、上項に準じるものとする(今回ストレッチタイムを入れたのは、苦肉の策…)。パネル討論途中でのフロアからの質問時間は、実は時間確保はしていた。しかしながら、タイムマネジメントの関係でスキップ(最後の質疑応答に統合)となってしまった。時間が押してしまう理由は、質問時間前のセッションが技術士パネリストによる「技術士までの道のり(二次試験対策の話を含む)」というコアコンテンツであることが大きい。内部アンケートでも、二次試験対策の話をもっと充実させてほしいとの意見があったことから、この枠の割り当て時間を増やしたうえで、さらに直後の質疑応答も確実に実施できるような構成にすると、さらに満足度の高いパネル討論にできるのではないかと思われる。

【修習技術者パネリストを、もっと討論に参加させて方が良いのでは?】

この点については、コーディネーターとして猛省している。3 名の技術士パネリストの個性や討論内容が際立っており、相対的に修習技術者パネリストの印象が薄くなってしまった面も否めない。しかし、絶対的にコーディネーターからの修習技術者パネリストへの問いかけも少なかったことも事実である。次期コーディネーターの方には、修習技術者パネリストにより脚光が当たる討論内容(質問ストック)について、検討いただければと思う。

【事前のウェブプロモーションは、参加者に届いているのか？】

パネル討論に関する青年委員会独自の(ウェブ)プロモーションは、スタッフブログと、ブログへのリンクを付した Facebook ページを用いている。日本技術士会に対して情報を持たない新合格者・修了者たる潜在参加者にとって、これらのプロモーション情報を得る(接しうる)手段は、「ウェブ検索(またはFacebook 検索)」しかない。当日の懇親会にて、3名ほどの参加者に対して事前のウェブプロモーションの存在について尋ねたが、情報に接していた方は居なかった。現状では、自己満足といわれてしまっても仕方がない事前プロモーションであるので、何の情報を持たない新合格者・修了者に対して、どのように情報を与えていけるかを皆で考えていきたい。

【パネル討論の内容は、JABEE 修了程度の年齢層に対して本当にレベルが高いのか？】

参加者の現状と、壇上の技術士との間のギャップを見せるのも、パネル討論の目的という意見があった。対して、当該年齢層に向けてギャップを感じさせないような見せ方(悪く言えばレベルを下げる?)をすることには、やや違和感がある。理想としては、ギャップを感じた参加者がこれを埋めるために、積極的な自己研鑽、できれば青年委員会や修習委員会のイベントを研鑽に利用してくれればと思わせれば／思ってくれば良い筈である。一つのキーとしては、「適切な大きさのギャップ」を設定することである。適切な高さのギャップを見せてなお「私には無理だから技術士なんか目指さない!」と感じる層には、考慮の必要な無いのではと思う。ただし、こちらも内部アンケートから指摘があったが、JABEE 修了程度の年齢層にも理解できる言葉および用語を使って討論を進めることについては、十分な配慮をしなければならないだろう。

【パネル討論の内容は、シニア参加者には物足りない内容なのか？】

シニア参加者のニーズに沿った討論を行うためには、技術士パネリストにシニア枠(五十代?)を入れることが必要かと思う。このような場合には、再度ゼロベースから討論構成を考える必要がある。青年委員会主催のパネル討論と考えると、現状通り 35~45 歳程度の技術士パネリスト、25~35 歳程度の修習技術者パネリストという構成が最良のようにも思える。この構成変更については、次回以降の判断に委ねることとする。

おわりに:

以上について、例会グループおよび次年度の企画担当者(コーディネーター)へのフィードバックを行うものとする。

文責:小野寺、以上

行事名	未来に繋げるライフワークプランを描こう！
日時	平成 26 年 2 月 28 日（土）13:00～17:00
場所	葺手第二ビル 5F
講師、発表者	司会 古川委員補佐 青年委員会紹介 田中副委員長 技術士制度の説明 石井委員 ライフワークプラン記入方法説明 竹入委員 総評 交流会乾杯 山本委員長
担当者: (○印:リーダー)	石井委員、竹入委員補佐、○古川委員補佐、 当日参加委員+委員補佐(17 名)
参加者数	第一部 技術士制度の説明 グループワーク 合計40名(参加者23名、委員17名) 第二部 交流会 合計32名(参加者16名、委員16名)

1. サマリー

- ・本例会は、「未来に繋げるライフワークプランを描こう！」というテーマで、技術士第一次試験合格者(以下一次合格者)が二次試験を受験するまでの期間に抱える不安を解消することを目的として実施。結果として、参加者に技術士に向けてのモチベーションアップ、技術者としてのキャリアアップの一つのきっかけに繋げる事が出来た。

2. 背景・目的

- ・一次合格者には若手技術者が多く、成長を望んでいるが、どのように今後の将来のプランを考えれば良いか不安に思う人が多い。
- ・一次合格者が「技術士試験に向けて・技術者としての成長に向けて」という大きな目的に対し抱える不安を仲間と共に共有し、解消するため今回の例会を企画。主に技術士制度の説明により、技術士に対する知識を増やす。また、参加者全員がライフワークプランを作成することで、自身の成長について考える時間を持ち、記入することで、自身の考えを明確な物へと変えることで不安の解消を行う。
- ・技術士制度説明の後にディスカッション時間、ライフワークプランの後にグループ内発表の時間を設けた。この時間を通じ、技術士である青年委員との意見交換、参加者(一次合格者)同士の不安の共有を行い、不安を共に乗り越える仲間作りの場を提供することで、参加者に不安の解消と、不安を乗り越える活力を持ってもらうことを目的とした。

3. 例会内容

- ・企画開始前からグループに分かれて座り、そのグループ内で企画中はディスカッションやグループワークを進めた。
- ・グループは 1 グループ 参加者約 5 名 青年委員 2 名(GL サポート)の約 7 名で構成(当日は 5 グループ作成)

<企画の流れ>

- ・オープニング（10 分間）
古川委員補佐より、開会の挨拶、当日の流れの説明、企画のコンセプトを紹介。
- ・青年技術士交流実行委員会の紹介（10 分間）
田中副委員長より、日本技術士会の組織の説明や、青年委員の活動内容についての紹介。
- ・自己紹介（30 分間）
グループに分かれ、各自の自己紹介を実施。一人 3 分で名前、出身地、部門、仕事等を紹介。余った時間は、フリートークとした。
- ・技術士制度の説明（40 分間）
石井委員より、技術士制度の話や、今年から変更となった技術士試験について全体説明を実施。
- ・技術士制度についてのディスカッション（30 分間）
グループに分かれ、参加者は「どのような業務を行い、どのような専門性を持っているか？」GL とサポートは「どのような業務を行いどのように選択科目を決めたのか？」を話し合った。
- ・ライフワークプランの説明（10 分間）
竹入委員補佐より、ライフワークプランの記入部分での考え方や、実際に記入したシートを見せて説明を実施。加えて技術士の取得時期は明記するという制約があるという説明も実施。
- ・ライフワークプラン記入（20 分間）

技術士の取得時期を明記するという制約を入れ、説明内容に沿って自身のライフワークプランを記入。

- ・ ライフワークプランの発表（40 分間）

グループに分かれ、各自 5 分程度で自身のライフワークプランの発表を実施。余った時間はフリートークとした。

- ・ クロージング（5 分間）

古川委員補佐より、全体を通して、企画のコンセプトを再度説明。また、今後重要になるものの一つとして「継続性」について話を行い、今後の例会紹介の繋ぎの話をを行った。

- ・ 3・4 月例会紹介（10 分間）

太田委員より次月以降の例会紹介を実施。

- ・ 総評（5 分間）

山本委員長から、本で行ったライフワークプランに関係した技術者としての進み方の話を実施。

- ・ 交流会（90 分間）

軽食を手配し、山本委員長による乾杯の発声で、交流会の開始。交流会の時間を使って、委員の部門紹介や国際 Gr の紹介、サッカー・フットサル紹介を実施。

4. 成果と所感

- ・ 一次合格して間もない方の参加が多かった為、参加者の半数以上が、非会員であった。非会員でも参加しやすい企画を提供できたことによって、広い対象に「青年技術士交流実行委員会」を知ってもらえたことは有益であったと考える。
- ・ 企画の早い段階から、参加者の対象を一次合格者に絞り込んだことは非常に良かったと感じている。対象を絞り込めたことで、参加者のニーズにマッチしやすい企画が提供でき、例会中のディスカッション等は、企画側が想像していた以上の盛り上がりを感じる事が出来た。
- ・ 今回、青年委員の参加者が非常に多かったことが良かったと考える。17 名もの委員が例会に参加して頂いた事で、グループに 2 人技術士を入れる事ができ、参加者ニーズの非常に重要な部分である「技術士と話したい」を十分に満たすことが出来た。また、委員の方に 2 人、入って頂いたことによりグループでのトークが円滑になり、参加者同士もより交流を持つきっかけが増えたと考えている。
- ・ 参加者の中の数人から、「今日はとても良かった」「今後の青年委員のイベントに参加したい」「青年委員に入りたい」といった非常に有難い言葉を頂けた。今後の継続的参加による、技術士に向けてのモチベーションアップ、技術者としてのキャリアアップまで繋げられることを期待したい。

5. 今後の展開

- ・ アンケートから抽出された今後に繋がれそうな幾つかの内容について記載する。
- ・ 外部アンケートを確認すると、参加者のほとんどが、初参加であった。初めての参加は、「企画側にどのような人がいるのか」「どのような方法で申し込むのか」正確に理解していないことが多いため、比較的ハードルが高いと考えられる。その中で、ある程度の人数の方に参加頂けたことは、情報宣伝した不安の解消方法「技術士制度説明」「ライフワークプラン作成」「グループワークによる進行」が一次合格者にとって魅力的なものだったと言える。
- ・ ただ、幾つかの問題点も抽出された。外部アンケートに、受付時の青年委員の行動が気になったという内容と、例会中のプロジェクターの接続トラブルが気になったという内容が記載されていた。
受付時の意見に関しては、スタッフが見える場所で食事をしている等、参加者にとってあまり気分の良いものではなかったと思われる。受付の時間が十分に確保出来ないと予想される時は、事前にスタッフの控え室を分けるか、ローテーション制等で上手く休憩をとる等、気持ちよく受付して頂けるよう、十分留意する必要がある。
また、プロジェクターの接続トラブルに関しては、事前にディスプレイケーブルを抜き差ししても正常に映るかという準備と合わせて、メイン PC のバックアップも用意しておくことが重要だと考える。
- ・ 内部アンケートでは、「スタッフが何をすべきか？」という事があまり良く理解できなかったという意見が出た。「参加者の不安の解消」という抽象的な目的から進めてしまったため、このような意見が出たと考えられる。少なくとも一か月前には、「参加者にどうなって欲しい」というものを明確に打ち出さなければいけなかった。リーダーの目的の理解度は参加者の満足度にも繋がる部分なので、例会企画の流れの一環として認識しなければいけない部分である。
- ・ 他の内部アンケートの意見に関しては、すでに配慮されているものを踏襲すれば解決される内容が多かった。当日の準備物だけを、踏襲するのではなくどのようなものを準備したのかまで、確認する必要がある。
- ・ 今後は、参加して頂いた方により高い満足度を得て貰うためにも、ここに記載した内容に十分留意して企画を進めることが、重要であると考ええる。

2015年2月例会アンケート集計結果

★外部アンケートまとめ

Q1 「技術士制度について」の説明

非常に分かり易かった 7 14 1 1
非常に分かり難かった

Q2 「ライフワークプランの作成」について

非常に良い 11 11 1 1
良い 11 11 1 1
少し良い 11 11 1 1
少し悪い 11 11 1 1
悪い 11 11 1 1
非常に悪い 11 11 1 1

Q3 例会前の運営スタッフの準備について

非常に良い 7 15 1 1
良い 7 15 1 1
少し良い 7 15 1 1
少し悪い 7 15 1 1
悪い 7 15 1 1
非常に悪い 7 15 1 1

Q4 例会中の運営スタッフの対応について

非常に良い 10 12 1 1
良い 10 12 1 1
少し良い 10 12 1 1
少し悪い 10 12 1 1
悪い 10 12 1 1
非常に悪い 10 12 1 1

例会について

Q5 例会をどのように知ったか？

(a)一次試験合格通知に同

(b)ホームページ

(c)月刊PE

(d)青年ブログ

(e)技術士ガイダンス

(f)部会の歓迎会

(g)会員からの通知

(h)会員以外からの通知

(i)その他

Q9 今後参加したい例会

(a)国際交流

(b)技術者倫理

(c)ビジネススキル

(d)マネジメント講座

(e)見学会

(f)家族を含めた体験学習

(g)専門分野の基礎講座

(h)専門以外の基礎講座

(i)フットサル

(j)交流サロン

(k)その他

Q6 参加理由

(a)行事に参加したかった

(b)興味があった

(c)以前の例会が良かった

(d)青年からの勧誘

(e)青年以外からの勧誘

(f)青年の例会が良かった

(g)人脈

(h)その他

Q7 青年の例会参加回数

(a)初めて

(b)2回目

(c)3回目

(d)4回以上

Q11の点数

1位 5点

2位 4点

3位 3点

4位 2点

5位 1点

コメント

- ・班のリーダーの方が参加者が話し易い雰囲気を作っていたので、話し易かった
- ・まだ二次試験を受けられないので、前半の二次試験制度についてはあまり分からなかった
- ・時間が少なく感じたので、30分ほど早い開始でも良かったと思いました。
- ・みんなと率直な意見交換ができて良かった
- ・良い刺激を得られた
- ・技術士試験に向けた、普段の目標が明確になった
- ・会場ビル前で道案内があったので迷わずに来場できた
- ・受付時のカレーは止めて頂いた方が良いです
- ・企画楽しみにしています。
- ・質問について、しっかりと回答して頂いた
- ・プロジェクターでとまどっている点は、少し残念でした
- ・コーディネーターの方に色々お話を進めて頂き大変有り難く思います
- ・通しで考えが聞けたので、参考になる所が多く良かったです
- ・各位との交流や意見の言い合いが良かった
- ・グループワークで自分の欠点が明らかになった
- ・他部門の方が、今後どのようなキャリアプランを考えているか、どのような考えをお持ちなのか、等を知る非常に良い機会だったと思います。
- ・色々な立場・状況だけど、同じ目標に向かってる人たちと交流することができて、とても有意義だった。
- ・部会とは違った、多様性がある場で色々勉強になります
- ・普段話さない内容ですので、楽しくもあり、自分を見つめなおすことができました
- ・技術士を目指す上での取り組み方が良くわかった

★内部アンケートまとめ

挙がってきた改善点から重要と思われるものをピックアップ

- ・プロジェクタの接続トラブル(今回突然映らなくなったりした)
- ・ネームプレート(小さいのではないかと？:今回は名刺大 交流会参加者を分けていなかった)
- ・写真係の割り当て(今回写真係の担当者がいなかった)
- ・欠員の多いグループへの対応(今回1グループ参加者5人の予定が、参加者3人スタートのグループがあった)
- ・グループリーダーへの事前通知(今回グループリーダーの目的・すべきことが例会開始まであやふやだった)

行事名	2015 年 3 月例会： 「はじめの一步。技術士を続ける力【技術士エンジン】を探せ！」
日時	2015 年 3 月 28 日(土) 13:30-17:20
場所	日本技術士会会議室 葦手第 2 ビル 5 階 AB 会議室
講師、司会	講師：赤木委員（技術士（経営工学））、杉山委員（技術士（機械）） 司会：伊藤委員
担当者： （○印：リーダー）	○伊藤委員、田中副委員長、細野委員補佐
参加者数	19名 （定員である20名の申込みがあり、うち1名が当日欠席した）

1. 背景・目的

青年技術士交流実行委員会では平成 27 年 1～5 月の例会を「継続した参加を促す“連続企画”」とし、青年層技術士の更なる活性化を試みている。うち、この 3 月例会では、主な対象を新合格～合格後数年程度の技術士（二次合格者）とした。

新しい技術士はこれからの技術士活動に理想や期待感を持っているはずである。一方で技術士資格は名称独占資格であり、企業活動に法的配置義務があったり活動の全てに賃金収入があったりするものではない。合格時に抱いた理想や期待を現実のものとするには、常に自分を動かし続ける原動力・継続力（「技術士エンジン」）が必要だ。この原動力・継続力を自ら発見して今後活かすべく、現在活躍する技術士の講演による主体的な学びと、また参加者同士のワークショップによる相互的な学びから「技術士エンジン」を導き出す例会を企画、実施した。

2. 例会内容

時間	活動内容	ねらい/目的
13:30-13:50	オープニング 今日の学び、スケジュール、ルールの説明	例会の目的を設定し、共有する
13:50-14:10	自己紹介①	アイスブレイク お互いを知る/信頼を形成する
14:10-15:00 (15分×2名) (質疑応答10分)	講演①、② 付せんに記入→提出	活躍する技術士の【技術士エンジン】を見つける WS の導入
15:00-15:10	休憩	
15:10-15:20	学びの共有① 付せんに書かれた【エンジン】を見る	活躍する技術士の【エンジン】とは何か 色々な視点に気付く
15:20-15:30	席移動、自己紹介②	チームビルディング お互いを知る/信頼を形成する
15:30-16:30 (休憩含む)	グループ別ワークショップ 自分の技術士像を話す/聴く 付せんに記入→模造紙にまとめる	チーム内の【技術士エンジン】を見つける
16:30-17:00	学びの共有② 各グループの発表	全体での【技術士エンジン】を導き出す 色々な視点に気付く
17:00-17:20	クロージング 青年委員会紹介、4 月例会紹介 他	次につなげる

3. 成果と所感

・例会のテーマと参加者のニーズについて

テーマとニーズが合っているかは終始不安だったが、参加者から、当日の自己紹介の中でこの会に

参加した理由として、また終了後（懇親会での会話、御礼メール等）の感想でも、自分たちのニーズと合っている旨のコメントを頂いた。技術士活動には単発力や瞬発力だけではなく、息の長い活動へとつなげる原動力や継続力も必要であることを参加者も感じていることがわかった。

・講師について

例会の前半では、活躍する技術士として委員から 2 名の講師を選び、講演をお願いした。講演内容は企画側の意図を十分にくみ取って頂いたものであり、かつ参加者側も最後まで集中力が途切れることなく途中熱心にメモを取るなど興味深いものだった。参加者が見つけた講師のエンジンや、それを見つけた参加者との会話の中には講師の人柄が出るユニークなものとなった。ワークショップへと自然に展開できたことは、講師の力量に助けられたところが大きい。改めて感謝を述べたい。

・交流会（お花見）について

今回の交流会は、CAFE0 ミーティングで青年委員と交流のある海外からの技術者およびその関係者も交え、芝公園でのお花見を企画した。国際 Gr が中心となって料理や飲み物、雑品の手配のほか、1 週間前には会場の下見、前夜からは場所取りを行うなど十分に準備をした。当日は桜が見頃で夜も暖かく、参加者からは好評だった。国際 Gr のメンバーにも感謝申し上げたい。

・ファシリテーションについて

書籍中心の独学で入門程度ではあったが、司会者はあらかじめ研修開発力やファシリテーション力を学ぶ努力をした。参加者を学びや気付きへと導きつつ、自らもかなりの勉強になった。参考までに主な工夫点を挙げる。

①「技術士エンジン」という抽象的な言葉から参加者の具体的な言葉へと落とし込めるよう、またこの場で終わらずに今後どう活かすか未来が見えるよう、オープニングでは十分に時間を取り、途中でも区切りごとに確認を取って表情を見るなど理解を得ることに配慮した。

②ワークショップが滞ってしまう多くは、「始めてみたが何をしたら良いのかわからない」というように、ワークショップのやり方やゴールが参加者の中で不明確な場合が多い。前述のように最初の説明に重点を置くとともに、会の前半で活躍する技術士の講演を設けて活躍する技術士のエンジンを見つけるほか、これが後半のワークショップの導入となるように設定した。

③参加者がアウトプットしやすい工夫として、定員は意図的に少数（20 名）とした。会の前半では少数を活かして全員の顔が見える座席配置にし、グループワークでも 1 班最大 4 名とするなどレイアウトに工夫を持たせたほか、最初の説明で「対話」を意識するようお願いし、お茶菓子を用意するなど、信頼感のある、アットホームな、友好的な雰囲気づくりを心掛けた。

4. 今後の展開

・参加者確保の視点

3 月の二次試験合格発表から間もないこと、年度末の 3 月は繁忙期の方が多いこと等を考慮すると、最初から対象を限定するのは参加者確保の視点から再考の余地がある。また、次年度以降も 3 月は企画から起こす例会とするのであれば、テーマの設定も広く門戸を広げたものにするべきである。

・連続企画としての視点

1 月から 4 月までの例会進捗状況をまめに掴んでいる事は、他月と連携した行動を起こしやすく、利点が多かった。

・早く来場した参加者への対応

今回は例会前の運営委員会を早く終えることができ時間的には余裕があったが、逆に会場が塞がっていないからか開始 1 時間前に入った参加者が 2 名おり、この方々への対応が反省対象となった。基本的なスタンスとして参加者に失礼が無いような姿勢（昼食休憩、声掛けなど）を見せることは当然だが、一方で、企画の詳細には開場時間と受付開始時間を明記しており、開場時間、受付開始時間外での委員の対応は、個々が常識的な範囲内で構わないと考える。

・プレゼン資料の準備について

2 月例会での反省（プレゼン資料の投影が上手くいかない）をもとに、①事前に資料は 1 台の PC デスクトップに入れておき、発表毎に PC の切り替えをしない、②事前投影テストをする、設定とした。発表者や資料がそれほど多くなければ、基本的にはこのルールで失敗ないと考えられる。

（が、当日は予定していた PC が使用できなくなり、当日別に用意したパソコンが開始 1 時間前より up date を開始したため、結局さらに機種変更となってしまった。この点は反省点としたい。）

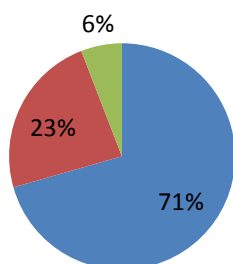
以上

2015年3月例会アンケート集計結果

アンケート回答数18名(19名中)

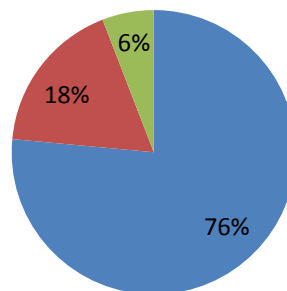
Q1-1 講師の話し方や進め方

■ 満足 ■ ほぼ満足 ■ 普通 ■ やや不満 ■ 不満



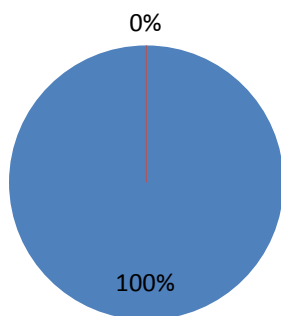
Q1-2 資料の内容

■ 満足 ■ ほぼ満足 ■ 普通 ■ やや不満 ■ 不満



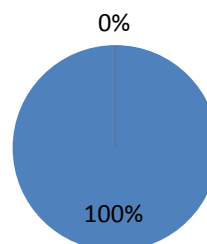
Q1-3 原動力が描けたか

■ 描けたか ■ 描けていない



Q1-4 原動力を今後活かそうか？

■ 活かせる ■ 活かせない

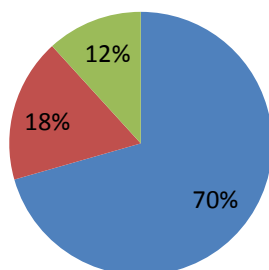


Q1-3 講師に伝えたいこと(コメント)

- ・準備お疲れ様でした。
- ・有益な情報をありがとうございます。
- ・技術士エンジンは良い言葉だと思います。ぜひ流行らせてください。
- ・なによりも熱意が良かったです。
- ・大変準備が丁寧で有難かったです。
- ・大変参考に、また刺激になりました。
- ・部門を超えたすごく良いテーマだと思います。
- ・準備など大変だったと思います。感謝です。
- ・自分の専門外でも努力されている杉山さんのお話は大きな糧になりました(会社経営も)

Q2-1 スタッフの対応

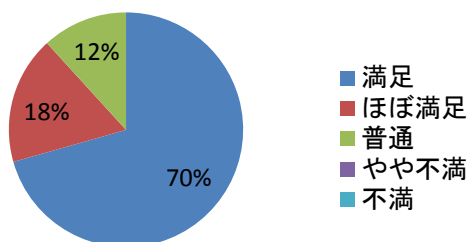
■ 満足 ■ ほぼ満足 ■ 普通 ■ やや不満 ■ 不満



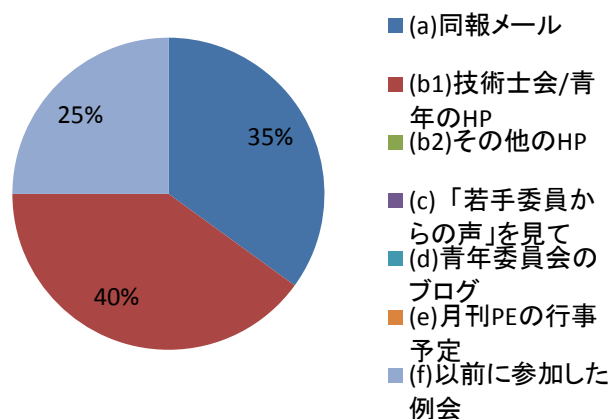
Q2-2 スタッフに伝えたいこと(コメントなど)

- ・本質的なテーマ設定、準備・進行大変お疲れ様でした。
- ・大変良かったです。エンジン全開で行きます
- ・ありがとうございました

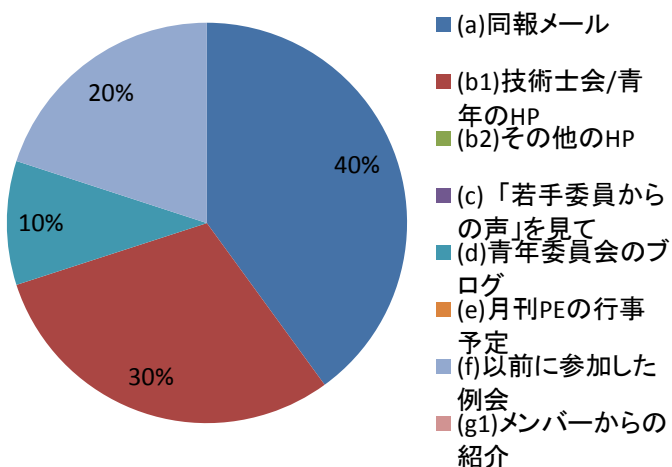
Q3 今回の例会は全体として



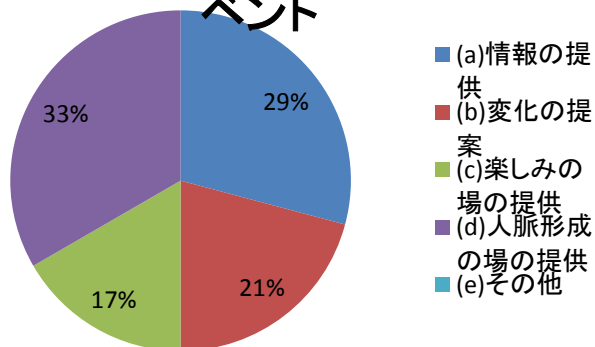
Q4、例会をどのように知り、参加したか？



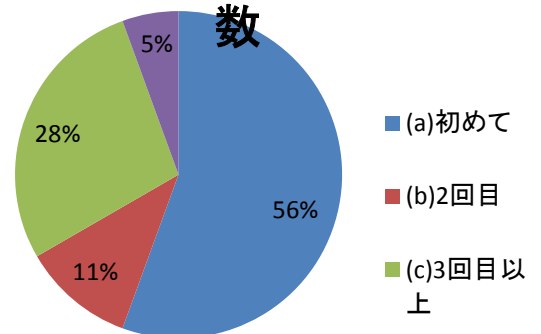
Q5 参加目的



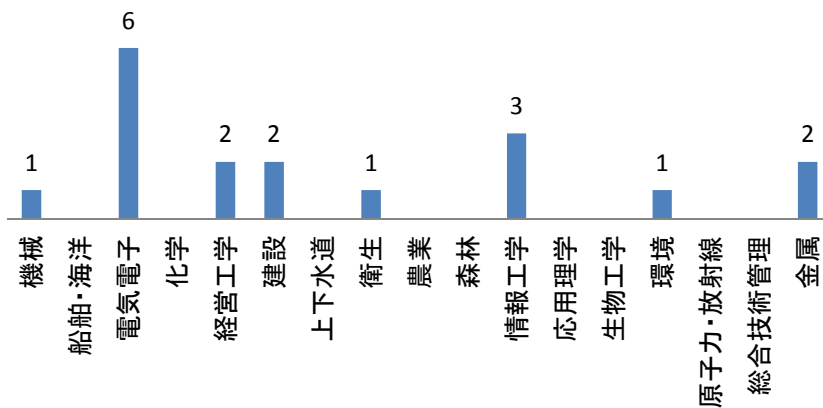
Q7-1 今後開催してほしいイベント



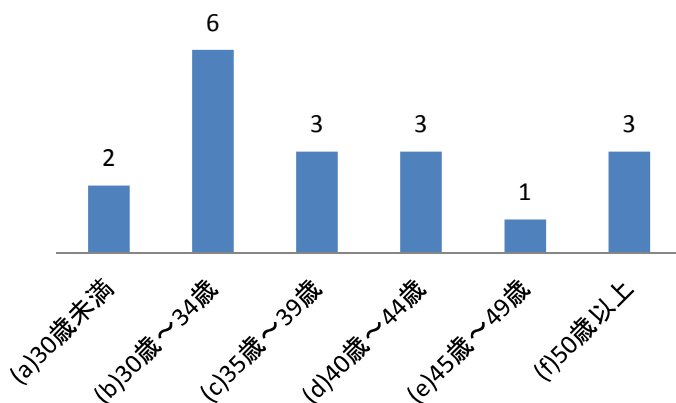
Q6 青年の例会参加回数



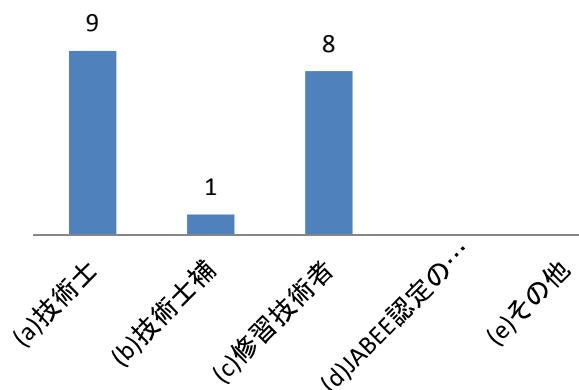
Q9-1 技術部門



Q9-2 年齢層



Q9-3 会員層



3 月例会 内部アンケートまとめ

【よかった点】

発言者	意見	例会内容	事前準備	委員の対応	その他
丸山	伊藤さんの仕切り。各グループの発表者だけでなく、もう 1 名くらいから話を聞いており、それにより議論が広がったり、各グループの発表内容がわかりやすくなるようでした。	●			
	お花見。場所、食事などはもちろんですが、いろいろなグループ(例会参加者、海外技術者、学生、青年委員など)の交流があって良かったです。		●		
畠田	伊藤さんの仕切りがとても良かったと思います。ひとつひとつの発言を丁寧に拾い上げていて、うらやましかったです。最初、いすを丸く並べたのもすばらしいと思いました。	●			
田中	企画の内容自体が良かったですね。青年メンバーが主導で行う私がやってみたかったパターンです。伊藤さんにとっては参加者以上に自己研鑽ができたのではないのでしょうか。自己研鑽の場の提供を通じた自らの自己研鑽があるべき姿のひとつかと思っています。	●			
瀧川	・ 例会への出席者数が限られていたが、少ない人数でも成り立つ例会構成で準備されていたこと。		●		
	・ 3 月例会担当と国際 G との連携。				●
	・ 伊藤さんの進行が素晴らしかった。	●			
松田	例会の進行。伊藤さんがファシリテーションを重視している点。初参加の方も多かったので、和やかな雰囲気で行っていました	●			
	名札。杉山さんと同じく、事前に幹事が準備していた点。4 月例会もやりたいと思います。		●		
伊藤	※用意したテーマとニーズが合ったこと。多少の自信はあったが、事前にヒアリングできる相手ではないので、やり終えてみないと本当のところは分らなかった。当日の自己紹介では参加した理由として、またお花見参加者や後日メールからは感想の中で、ニーズとの合致を言ってもらえた。		●		
赤木	開始を 13:30 としたため、運営員会終了後 例会準備、昼食の時間がとれた。運営委員会のバッファとして今後も 13:30 開始にしてはどうでしょうか。	●			

	伊藤さんのファシリテーションにより効果的に進行できた。展開は難しいですが、ご一緒させていただき、技を盗むしかありません。	●			
	・出席者を限定することで、全員参加のグループワークができた。	●			
	・講演時の席配置は距離が短くなり、一体感が出せるのでとてもよい。	●			
	・花見の段取は最高でした。あの人数で、あの場所で、すごい一言です！				●
佐藤	・参加者とフレンドリーに議論できるような席の配置と伊藤さんの司会。参加者一人一人に語りかけていたのが非常に良かったです。	●			
	・赤木さんと杉山さんのプレゼン。	●			
	・花見に関しては、松田さんが非常に良い場所を取ってくれた事と、安力川さん中心で動いた食材準備。				●
杉山	既に技術士になっている方や、これから目指す方も技術士になってから何をしたらいいのか、どうしたいのかが分からず課題としているようでした。そこを話し合う場ができたのは良かったです。		●		
	・雰囲気。伊藤さんは参加者が喋れるような雰囲気を作れるよう事前に参加者の特徴をよく調べて問いかけをしていました。	●			
	・名札。事前に青年委員側で準備していた。参加者に対して気配り、心配りがあるのはとても良いと思います。		●		
	・聴講スタイル。円形に椅子を並べ、机がない状態はスマホいじりや睡眠を抑制し、顔も講演者に向けられるので良かったです。	●			
太田	伊藤さんの司会によるところが大きいと思いますが、参加者を巻き込んで、フレンドリーかつ真剣な空気がありました。	●			

【改善点】

発言者	意見	例会内容	事前準備	委員の対応	その他
畠田	参加者で技術士合格者が少なく、ちょっとミスマッチだったかも知れませんが。例会のネタとしては、技術士に限ったものではないので、ちょっと違った展開になっただろうと感じた程度なのですが。	●			
田中	2 次合格発表から十分な期間がなく、人が集めにくかったところですが、集められるので別によいかとも思います。(お誘い人の 1/4 くらいの方が来てくれました)		●		

	一次合格者のニーズには合っていませんでしたかね??最後まで見れてないので、ちょっとわからんですが、みんないい顔しているように見えましたよ				●
瀧川	早く来た参加者の目のつくところで、昼食をとってしまったこと。		●		
松田	二次合格者に的を絞ったことで、ニーズのマッチングが分かれた点「1 次 2 次合格者」共通のテーマにしたほうがいいのか?と思いました。ラポールとか、広く活用できるので、使えるかも。	●			
伊藤	※進行について、他の幹事から事前にフィードバックを貰う時間がなかったこと。以降のスケジュールから考えて 3 月幹事に立候補したが、やはり 3 月は仕事が忙しくギリギリになってしまった。進行やファシリについて出来る限り勉強し、スライドにも反映させたが、反省点、改善点は多い。田中さんのみ数日前にスライドを見て貰った時は、オッケーもらいましたが。		●		
	3 月は人が集めにくい。かつ、一次合格者がほったらかしになってしまう(進行ではそうならないよう一次合格者にも配慮した)。したがって、次年度以降も連動企画として 4 月に焦点を持ってくなら、3 月は一次も対象にした内容がベター。コンテンツさえしっかりすれば集められるはず。		●		
赤木	早く来られた方への対応ができなかった。例会案内に開場時間を記載し、それまでには準備・昼食を完了するようにしてはどうでしょうか。			●	
	代替機の準備が直前となった。		●		
佐藤	今回に関しては、早く来られた方への配慮が多少あっても良かったかもしれませんが、委員長不在でしたのでしかたなかったかも。声をかけるとしたら、委員長(不在なら副委員長)か幹事代表でしょう。早めにきた参加者が、手持無沙汰にしていた。できれば、青年委員から参加者に声をかけられると雰囲気もなごみますし青年委員も新しい出会いがあって良いと思います。青年技術士【交流実行】委員という名前でもありますので。			●	
太田	スライド表示の事前確認不足。直前で PC 不調になり、代替機に変更した?急に PPT が縮小表示されたり、別の PPT に移る際に手間取って見えました		●		
	かなり早く来られた参加者への対応がおろそか。皆さん準備をされていて仕方ないかもしれませんが、放置状態でした。			●	

【その他】

田中さん

伊藤さんがどうやって勉強をしたのか知りたいです。

>早く来た人

どう声をかけていいのかわからない人へ、参考に、定番の声かけを挙げてみます。

<お礼>

・お越しいただき有難うございます。

<聴く>

- ・ どうやってこのイベントを知りましたか？（初めてそうか、数回目なのか探る）
- ・ どうして参加してみようと思ったのですか？今日の目的・目標は？
- ・ （はじめてそうだったら）今日はどこから来られたんですか？

<語る>

- ・ 当日、過去、将来の例会の紹介など
- ・ 今日は〇〇が得られるイベントです。〇〇に意識して参加してみてください。
- ・ スタッフブログ知ってますか？こんなこと書いてます。がんばって書いているので見てください。など

瀧川さん

- ・ お花見へたくさんの方が参加したこと。また、お花見の場において例会で知り合った者同士が熱く語って盛り上がっていたところ。
- ・ 最高のロケーションの中でお花見ができたこと。飲み物や食事、座り心地等細部にまでこだわって準備されていたこと。

松田さん

- ・ 懇親会（お花見）

やるまでは、桜が咲くのか、盛り上がるのか、雨は降らないか、場所は取れるかドキドキでしたが例会参加者も多く来てくれて、すごい盛り上がりました（3時間くらいいた？）

伊藤さん

お花見は、当日の天候も味方し、申し分なかったと思います。詳しく下見をしたことも大きかったですね。

赤木さん

- ・ 1月ガイダンス、3月修習技術者キャリアプランセミナー参加者が複数人いた。説明内容が重複するため、講演者は分けたほうがよいです。

杉山さん

お花見は、場所、人、酒、どれも素晴らしかったです。準備に関わった皆様お疲れ様でした。

太田さん

- ・ 二人の講演者がカッコよかった。凄さを見せ付けるという意味で良かった。
- ・ カメラ担当が刺激的なアングルから狙っていた

以上

行事名	2015年4月特別例会（青年技術士展2014 1次・2次試験合格者交流会）
日時	2015年4月25日（土） 13:30-20:00
場所	第一部：田中山ビル9F 会議室、 第二部：葦手第二ビル5F 日本技術士会会議室 A,B
講師、司会	司会 松田委員補佐 青年委員会活動紹介 田中副委員長 国際交流活動紹介 安力川委員 サッカー・フットサル紹介 高橋委員補佐 インタビュー企画説明 太田委員 グループワーク企画説明 古川委員補佐 閉会挨拶 山本委員長 交流会乾杯 杉山委員
担当者： （○印：リーダー）	山本委員長、田中副委員長、品田委員、杉山委員、瀧川委員、田角委員、中村委員、 古川委員補佐、松田委員補佐、○太田委員 当日参加委員（22名）
参加者数	第一部：参加者同士によるインタビュー、グループワーク 合計94名（一般71名、委員23名） 第二部：交流会 合計76名（一般60名、委員16名）

1. 背景・目的

青年委員では毎年4月に特別例会と称する、技術士1次および2次試験合格者の歓迎会を行ってきた。昨年、一昨年（2013、2014年）と「交流」を目的とした企画を実施し、大変好評であった。本年は過去二年で得られた知見を生かし、さらに改善することを目標として、特別例会を企画、実施した。開催の大目的としては、技術士試験に合格し次のステップに進むに当たり、同じような志をもつ仲間を見つけ、技術士会や青年委員会で大いに活動してもらうことである。そのために、自己の技術研鑽だけでなく、他部門の技術を有する合格者たちと交流することを通じて、参加者に満足してもらうことを企画の主な目的とした。

2. 例会内容

第一部は田中山ビル9F 会議室で実施し前半と後半に分けて実施した。前半は参加者同士がお互いを知るために行うインタビュー企画を実施。後半はグループを国に見立て、オリンピック招致を競うグループワークを実施した。参加者同士を知ってもらうために前半は「自己紹介」後半は「他己紹介」を実施してもらう内容とした。

第二部は葦手第二ビル5F 日本技術士会会議室 A,B に移動し、参加者同士が食事をしながら、交流を深めた。

第一部 13:30～18:00

初めに松田委員補佐による企画内容の説明、タイムスケジュールについて説明。松田委員補佐は本説明後も総司会を務めた。

2.1. 青年委員会紹介 田中副委員長

特別例会参加者に向け今回の企画の趣旨説明を行った。青年委員会はアウトプットする場であること、また仲間を作るためには、専門性をもった「貢献」が必要であるとのメッセージが、会の意義とその後の参加者のモチベーションを上げることになった。

2.2. 国際交流活動紹介 安力川委員

国際交流活動の紹介として、昨年ミャンマーで行われた CAFE032 & YEAFE020 の様子を紹介した。活動内容の紹介とともに、今後参加希望されるメンバーに向けて、金銭的な話、参加人数、日程、どのような条件で活動するのかなどの具体的な内容を説明した上で、参加希望者を募集した。事前に規定を説明することはミスマッチを防げるためにも重要である。

2.3. サッカー・フットサル紹介 高橋委員補佐

日韓交流試合の結果を始めてとして、最近の活動内容を紹介した。国際交流の役割も大きい伝統ある活動で「日本代表」になれるというアピールはインパクトがあった。

2.4. インタビュー企画 太田委員

インタビュー企画は昨年、一昨年（2013、2014年）実施の企画内容と同様の内容で実施した。

【ルール】

- ・1テーブル8人（人数の足りないテーブルには委員を補充）
- ・一回の質問時間は2分、お互いに質問して1組当たり4分

【実施状況】

インタビュー企画は決められた質問を何度か実施、さらに相手からも質問されることにより業務の中で普段誰かにヒアリングを行う機会の少ないエンジニアにとって、ヒアリング技術の向上につながるものと考えている。インタビュー企画を円滑に進める目的で、冒頭、杉山委員と小野寺委員が実演を行った。会場の雰囲気はとても活気にあふれていた。

2.5. グループワーク 企画説明 古川委員補佐

グループを「国」と見立て、オリンピック招致を目的とする技術提案が話し合われた。グループワークの目的は、前半で行ったインタビュー企画で知り合ったグループ内の技術士情報を活用して、技術的な課題解決をするために必要な技術と人物を紹介する「他己紹介」であった。

王様(発表者)、大臣(進行役)の下、各国の大テーマ「競技場へのアクセス」「入出国」「競技場」「選手村」「観光」「観戦」を軸として、活発に議論が繰り広げられた。あらかじめ用意したフォーマットに執事(委員)が書き込む形で発表資料を用意し、各国創意工夫した発表が披露された。最後に参加者自らが投票する形で招致国を決定した。本来の目的であった、他国技術の導入数(他己紹介の数)が、投票結果に考慮されなかったのは、事前の説明で意図が伝えきれていなかったと考えられる。次回以降は企画説明の段階で本例会の意義を十分伝え、他己紹介をどのように活発化させるべきかを再検討する必要がある。

発表の際は古川委員補佐により、各国の発表に対して評価を伝えた。

2.6. 講評 山本委員長

山本委員長による今回の総評は、参加者同士の活発な交流に対しての評価とともに、今回の交流会での趣旨を改めて再確認する話がされた。趣旨の再確認により、この後に開催された第二部交流会での、活発な交流にむけた雰囲気づくりがなされた。

第二部 交流会 18:15~20:15

ケータリングを手配し、杉山委員による乾杯の発声で第二部交流会が開始された。会の途中、参加者に杉山委員がインタビューする形で交流の促進が図られた。閉会の挨拶は例会幹事が行った。

3. 成果と所感

第一部での企画は参加者同士で交流できる仕組みになっており、とても素晴らしいとの評価を多く受けた。参加者は他部門の技術士との交流も求めて参加している人が多く、第一部でも前半と後半で様々な人と話ができたことが、参加者の満足度を大きく高めたと考えられる。参加受付時の連絡や、当日の対応も含め、委員会としてのホスピタリティが参加者によく伝わったのではないかと。複数の参加者から、「青年委員会に興味がある」「活動してみたい」との打診を受けた。この点からも、本会は成功だったといえる。

この会の趣旨としては、合格者をおもてなしすることが目的ではなく、青年委員の企画に継続的に参加してもらうこと、さらには技術士会に入会して青年委員として一緒に活躍してくれる人に巡り合うことである。本例会では、5月例会の紹介をするとともに、参加者に配布した名札の裏に5月例会の参加優待券を付与した。今後も、以降のイベントを意識した企画とする必要がある。

4. まとめ、次回以降へ

企画自体は一昨年(2013年)に考案されたものだが、非常に良い企画だと感じている。昨年に引き続き、反省点を改善し、本年の準備を行った。来年以降も企画の趣旨は大きく変えず、より改善を進めることで、一層の発展を期待する。

昨年の反省を元に、チラシ、HPやブログなどの宣伝に力を入れた。そのため、想定どおりの定員を募集することが出来た。来年以降も継続させたい。

インタビュー形式で企画を構成しているため、参加者人数に制約がある。メールで参加登録者と密に連絡することで、当日の急な欠席を防ぐ対策としているが、担当者の負担が大きい。今後改善が必要と考える。

以上



事前準備中



青年委員会紹介



インタビューデモ



インタビュータイム



グループワーク説明



グループワーク



グループワーク発表



二部交流会

アンケート回答統計 アンケート回答者 69名

①参加層

a 30歳未満	10
b 30～34歳	13
c 35～39歳	20
d 40～44歳	11
e 45～49歳	6
f 50歳以上	6

②会員層

a 技術士	42
b 技術士補	7
c 修習技術者	14
d JABEE	0
e その他	2

③参加部門

上下水道	5	金属	4	経営工学	5
建設	8	農業	2	生物工学	1
機械	9	環境	4	航空宇宙	1
応用理学	2	衛生工学	1	電気電子	14
情報工学	5	化学	3	無記入	5

③例会評価

全体	a 満足	37
	b ほぼ満足	27
	c 普通	5
	d やや不満	0
	e 不満	0
配布資料	a 満足	31
	b ほぼ満足	26
	c 普通	10
	d やや不満	2
	e 不満	0
スタッフ	a 満足	40
	b ほぼ満足	22
	c 普通	6
	d やや不満	1
	e 不満	0
例会全体	a 満足	36
	b ほぼ満足	29
	c 普通	3
	d やや不満	0
	e 不満	0

④参加経緯

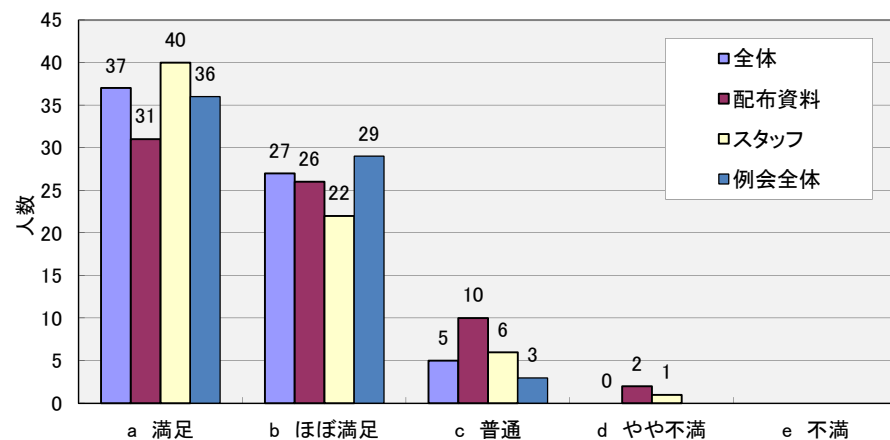
きっかけ	a 同報メール	10
	b HP	19
	c 青年委ブログ	6
	d 月刊技術士	0
	e 青年委例会	1
参加経緯	f 人からの紹介	14
	g その他	10
回数	a 同報メール	18
	b HP	25
	c 青年委ブログ	2
	d 月刊技術士	2
	e 青年委例会	2
	f 人からの紹介	14
	g その他	10
	a 初めて	47
	b 2回目	10
	c 3回目以上	11
	d 不明	1

	例会テーマ・内容	人脈構築	青年委活動に興味	CPDポイント取得	その他
目的	26	46	30	5	7

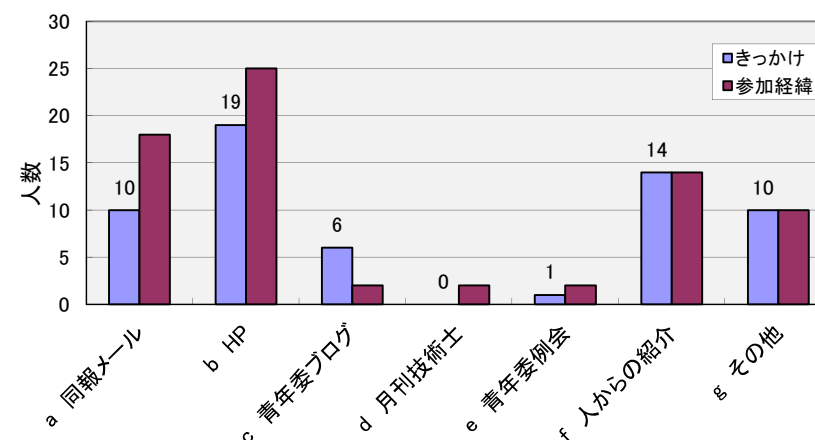
⑤青年委員会の活動について

開催してほしいイベント					
	情報提供	変化提案	お楽しみ	人脈形成	その他
	29	13	23	37	2

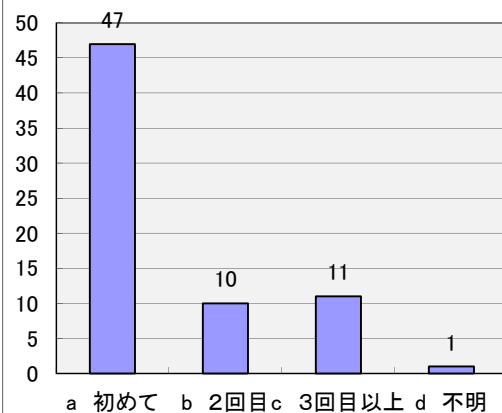
例会評価



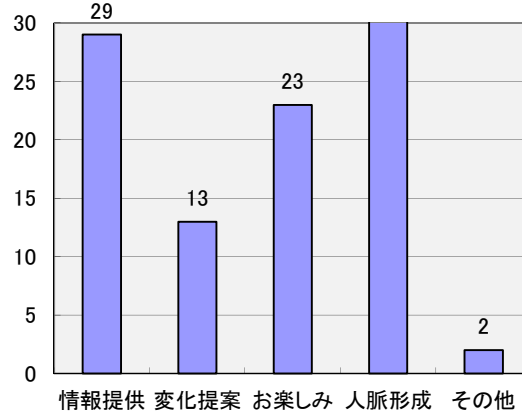
参加動機(きっかけ)



回数



開催してほしいイベント



●青年委員会例会 コメント内容

希望・要望 (コメント部分)

- ・平日の20:00以降の開催
- ・参加型イベントの開催
- ・もっと他の人とインタビューができる時間があつた方が
良い
- ・土日が良い

印象深いイベント(コメント部分)

- ・今回 [2名]
- ・合格者交流会[2名]
- ・ビアパーティー
- ・バーベキュー
- ・講演会[2名]
- ・グループワーク[2名]
- ・独立技術士の講演会

部門	上下水道	建設	機械	応用	情報	金属	農業	環境	衛生	化学	経営	生物	航空宇宙	電気電子	無記入
年齢層	5	8	9	2	5	4	2	4	1	3	5	1	1	14	5
	20代	30-34	35-39	40-44	45-49	50-	無記入								
会員層	10	13	20	11	6	6	3								
	技術士	技術士補	修習	JABEE	その他	無記入									
	42	7	14	0	2	4									
例会	Q1-1	a	b	c	d	e	無記入								
	全体	37	27	5	0	0	0								
	Q1-2	a	b	c	d	e	無記入								
	配布資料	31	26	10	2	0	0								
	Q1-3														
コメント	青年委員会の活動がよくわかりました。														
	発表時間はまもりましょう														
	もう少し参加者同士の交流の時間が欲しい。休暇が短すぎてあまりはなせない														
	発表楽しく聞けました。														
	話が長いです。														
	パワーポイントの作成がよかった。														
	王様は皆さん堂々とし発表されていました。														
	いきなり発表者になりましたが、皆さんがんばって発表していたと思います。														
	13:35～の紹介が長かった。														
	ご準備、ありがとうございます。														
	須藤様、お疲れ様でした。ドラえもんは、一番笑いをとっていたかもしれません。														
	面白いアイデアが沢山あり楽しく聞かせて頂きました。														
	みなさん、うまく話されていました。(個性も出て良かった)														
	良かったです。														
	各テーマ毎、特徴があってよかった！！														
	高年齢層がもっと参加していると思った。														
	人数が多かったので大変だったと思います。														
	忙しかったです。														

Q2-1	a	b	c	d	e	無記入
スタッフ	40	22	6	1	0	0
Q2-2						
コメント	企画していただきありがとうございます。刺激的でした。					
	よく準備されていて、たのしかったです。					
	自分のところに投票用QRコードの紙がない。					
	グループワークの内容がわかりづらく、つまりどうすれば良い結果なのか把握できなかった。					
	ありがとうございます。よく準備されていることが伝わりました。					
	休憩を1回でいいので15分欲しかったです。					
	お疲れ様でした。(2名)					
	楽しい交流の場を与えて下さりありがとうございます。また参加したいです。					
	雰囲気もよく参加者のモチベーションも高く、楽しい交流会になりました。					
	うきまわるには会場が狭かった。					
	グループ分けや役割の決め方などは参考になった。					
	各種準備御苦勞様でした。楽しかったです。					
	企画・運営ありがとうございます。					
	ドラえもののdiscussionを通して技術的気づきがありました。もっと自分の専門をふかめないととも思いました。					
	大変面白い企画且つ、グループワークの中で人脈が広がるように「仕組み」を用意して頂きありがとうございます。					
	準備・運営お疲れ様でした。今後とも機会があれば、なるべく参加させて頂きます。					
	今後技術士としてやっていくべきことを体感できる。すごく素晴らしいワークショップだった。参考にしていきたいです。					
	お疲れ様でした。ありがとうございます。					
	発表の際、アンテナ棒を用意していただけたと有難いです。					
	JAVA Scriptを使われるとガラケーでは投票できません。					
	理解できると楽しいことも考えておられるのが初めて解った感じなので、何も知らない人向けに説明する意識で考えていただければ良いと感じました。					
	Outputを盛り込んだ良い企画と思いました。CPD以外、技術士会外への情報発信(技術士とは技術士の認知度、技術士の数を増やす活動)はどうでしょうか？					
	若手技術士で将来性を確信した。					
	青年委員会があるのは解るのですが3つあるのは、どういう意味でしょうか？					
	まあ、楽しかったです。					
	最初のいんたびゆーのお陰で、雰囲気良くなり、グループワークも楽しめました。					

Q3	a	b	c	d	e	無記入
例会全体	36	29	3	0	0	1
Q4-1	a	b	b1	b2	d	c
参加経緯	18	9	15	1	2	2
Q4-2	a	b	b1	b2	d	c
きっかけ	10	4	14	1	0	6
Q5	a	b	c	d	e	無記入
参加目的	26	46	30	5	7	0
Q6	a	b	c	d	e	無記入

69

| 69

参加回数	47	10	11	0	0	1
	合格者交流会 [2名]					
	ビアパーティー					
	本日(今回) [2名]					
	バーベキュー					
	講演会 [2名]					
	グループワーク [2名]					
	独立している方のお話はおもしろかったです。					
Q7-1	a	b	c	d	e	
興味があるイベント	29	13	23	37	2	
Q7-2	a	b	c	d	e	
希望・要望	一期一会を忘れないように					
	平日の20:00以降					
	経営工学部門の発表。特にサービスマネジメント					
	ブレインストーミング、参加型のイベント					
	東北で開催して欲しい					
	グループワークは楽しかったですが、もっと他の人とインタビュアができる時間があるとうれしかったです。					
	土・日がいいです。					
Q8-1	a	b	c	d	e	
本業以外の活動	50	13	13	10	4	

4月特別例会内部アンケート集計（良い点）

分類	内容	人数
名札(名刺)に関する事	予め、参加者一人一人の名刺を作ったこと。	8
	名刺が、5月例会の無料券になっていたこと	2
	ロゴ自体のデザインも含め、名札のデザインが良かった。	3
	名札の字が濃くはっきりしてみやすくよかった。	1
司会に関する事	古川さんの司会（古川さんの司会は、親近感が沸きます）	3
	グループにおいて発表者と司会が事前に決められていた。	1
	司会、説明の方々の進行・話が上手くて、惹きこまれた。	1
青年委員に関する事 (幹事以外)	委員・委員補佐の出席率が良かった。	1
	幹事をはじめ、青年の皆さんの協力が、ものすごかった。	1
幹事グループに関する事	運営委員会で趣旨説明を指摘をされたあと、短期間でしたがうまく修正できた。	2
	太田さんが、「インタビュータイムの時間が短くしているのは意図的です」のような旨を参加者へ伝えていたこと。	1
	太田さんが細やかなことに気を配られ、また、指示をされながら進められていた。	1
	室温等も気にされていて、気配りが素晴らしいと思った。	1
	古川さんのプレゼン資料が良くて出来ていました。	1
	太田さんをリーダーとする4月例会幹事チームが熱心に準備され、例会が成功裏に終わったこと。	1
	太田さんのインタビューの説明が細やかで参加者はイメージしやすかったと思う。	1
	複雑な内容にも関わらず、幹事の皆さまの進行により、滞りなく進められた。プレゼン、説明、司会進行などよく練られた結果と思う。	1
受付に関する事	受付もスムーズにこなせたのではと思う。	2
	受付にあめを配る際あめの種類を書いて並べたのはよかった。混乱が改善され、数もカウントしやすかった。	1
食事・懇親会に関する事	食事のクオリティは高く良かった	5
	懇親会での青年委員と参加者の交流が活発だった(昨年比)	1

4月特別例会内部アンケート集計（良い点）

分類	内容	人数
企画・運営に関する事	グループディスカッションの趣旨はよく伝わっていた。	1
	ディスカッションは盛り上がっていた。	1
	進め方もチームごとに引っ張る方がいらしてうまく回っていた	1
	いろいろ時間短縮のアイデアが有り準備が周到だったと感じた	1
	インタビュータイム実演が良かった。実際にシートに書き込んでいた(感があった)のがなお良かった。	1
	プレゼンという形式が良かった	3
	投票システムが良かった	3
	企画の内容がよく練られていた。あめで王様・大臣が決まる仕掛けはとてもウケていたと思う。	1
	著作権もからまない点もよかった。	
	各テーブルに執事をおいたのは良かった。はずれの人が出ないようその場で軌道修正が出来たし、適宜必要なツッコミを入れられた。	1
	プレゼンは、これまでは汚い模造紙をそのまま貼っていて見にくかったが、作るのは確かにギリギリで大変だったが、見栄えがよく素晴らしかった。	1
	仕掛けの多い企画で、参加者が楽しそうで、またテンションが上がっているのが感じられた。	1
	説明用のパワポが刺激的であり、分かり易かった。	1
	開始前等に音楽を流すのは、気分を高めるためにはありだと思った。	1
	前年の反省点など良く研究されていたと思います。	1
	参加者が全員参加していた。前半のインタビュータイムが準備運動となり、効果的であった。	1
	鐘による合図がよい。インタビュータイムはマイクの声はほとんど聞こえないが、鐘で統制がとれていた。	1
	イベント全体としては非常によく練られたものだったと思う	1
	グループプレゼンは模造紙発表でなくppt発表になったこと	1
	オリンピック招致という魅力的な内容だったこと。	1
	国という設定のせいか、各チームの結束がよかったこと。	1
	投票を参加者にさせたこと	1
	プレゼンをパワポに変更することにより、企画側は記録として残せる。フォーマットがあるほうが発表内容が統一できて使いやすい。	1
	プレゼンをパワポに変更することにより、発表時は参加者全員が見る事ができる(模造紙だと後ろの人が見えない	2
	投票の企画、IT活用、可視化	1
	小野寺さんと杉山さんのわかりやすく面白いインタビューデモ	1
	例年好評のパターンをブラッシュアップ、今後のため整備することを年頭に置いて準備してきたこと。	1

4月特別例会内部アンケート集計（良い点）

[illegible]

4月特別例会内部アンケート集計（改善すべき点）

分類	内容	人数
企画に関する事	アメについてバラバラに入っていた方が偶然的に一緒にグループになった感があった事。	1
	投票部分はシミュレーションが甘かった。ガラケーではできないことは試せばわかったこと。	3
	国旗とチーム名の表示されている順番の不備も有った。	
	プレゼンの順番がランダムだったので、採点・投票する側からみて、どのチームだったかわかりにくいかも。	2
	執事ミーティングは執事＋幹事2名程度の顔が見える状態でやった方がベターだと思う。	1
	執事の負荷が高かった。	1
	スライドの事前確認をしていなかったと思われる。	1
	プレゼン発表の順を立候補制にした試みは良かったが、そのせいでスライドを出すのに手間取った。又、、途中から指名に変わった。	2
	ドキュメントの精査不足。色々アイデアを取り入れて企画を随時変更していった反面、その推敲に時間を取らなかった	1
	模造紙を当日に準備したが、やはり手書きで書きなぐるのが時間もかからずブレストには	
	ちょうどいいので、模造紙と付箋紙は必ず準備するのがよいと思った。	1
	プレゼンの結果が結局投票で決まってしまうのが悔しかった。	1
	最年長参加者の方はイベントの趣旨を理解していなかった。	1
	昨年同様、青年委員の企画には若い人しか参加できないのか。青年委員の年齢構成はいくつなのか。という質問があった。来季以降は特別例会に限らず、青年委員の年齢層や企画に対しての参加者の年齢制限(なければならぬ)を青年委員のHPなどに誘導し参加者に伝わりやすい形で明記した方が良い。	1
	2部交流会では途中参加の方をインタビューするという試みをしたがほぼ、聞いていない状態でした。	1
	執事への説明で、最初のみ執事が絡んであとは大臣に任せる、とのことでしたが、運営委員会の説明だけでは、進行役(大臣)の理解が不足するように感じ、GW中は執事の技量負担が大きくなりそうだった。	1
	せっかく準備された国旗、参加者の手元に資料がなくて、自国の国旗は何か、他国はどんな国旗か、「執事マニュアル」というタイトル資料の国旗一覧から自国に○を付けて見せざるを得なかった。	2
	投票基準が不明でした。	4
	執事の仕事がよくわからない、という指摘がありました。	1
	パワポのスライドの自由度を増すという提案があった。	1
	各班ごとに、招致の「強み」ポイントをアサインされていたはずであったが、プレゼンでは、受け手にとってあまりその辺が意識できなかった気がする。これは、幹事側の意図どおりだったのだろうか？	1
	採点方法が不明確であった。採用した技術数が投票の際に薄れていた点は残念だった。採点基準をプレゼンによる投票数+採用した技術数としてもよかったかもしれません。	1
	GWの発表は決まったフォームを与えると個性が出にくい事がわかった。	1
	始まる前の音楽の事前準備があればよかった。	1

4月特別例会内部アンケート集計（改善すべき点）

[illegible]

4月特別例会内部アンケート集計（改善すべき点）

[illegible]

4月特別例会内部アンケート集計（その他）

分類	内容	人数
企画に関する事	他グループの技術として採用された人が多い人を紹介し、2次懇親会で表彰してはどうか。	1
	「サイテーション賞」グループワークで、他グループの技術で採用された人の中で、最も多く採用された人を表彰してはどうか。	1
	前年との比較はできないが、ある程度踏襲することは企画側の負荷が減る感じた。そのバランスを初めに示して下さった太田さんは素晴らしかった。	1
	企画内容は毎回変わるのでその辺はよく練らないといけないが、それ以外の準備については、マニュアル化・ルーチン化して、企画内容の練り上げに労力を集中し、かつ幹事の負担を軽減すべきと思った。	1
	BGMはあった方が良くと思います。しかし、昨年のBGMは明確な意図が伝わったと思いますが、今年は事前準備していなかったで、スポンサー企業のHPから流していただきました。来年はBGMも検討が必要ではないでしょうか。	1
	複数年の幹事がいたため、「昨年はこうだった」などの過去のフィードバックがうまく反映されていたように感じました。	1
	リーダーやプレゼンは若い人からの立候補制にしてほしかった。王様については、やってほしいと思っていた人たちがやっていたように思える。	1
	投票が執事の力量に左右された、と思われてしまった気がする。	1
	執事担当のかたは、対応することが多く複雑だった印象でした。上手く対応された皆さまは本当にすごい人たちだな、と感じました。	1
運営に関する事	どうしても譲れない部分も多く、幹事の皆さんにはかなりの負担を掛けました。本当にお疲れ様でした。	1
	今後も同様の質を求めるのであれば、もっと負担を減らすような考えで進めないと、疲弊すると思います。ホスト自身が倒れないように、いかに省力化できるかが、来年以降の課題と思います。	1
	幹事も頑張っていました。幹事以外の委員のみなさんが周りをよく見て、自発的に動いていたからこそ、成功に終わったのだと思います。	1
	青年委員は本当に能力高い人の集まりだなと思います。	
	ITがスムーズに作動しなかったことは残念でしたが、私も新しさを取り入れられた点は良かったと思います。	1
	委員への負担感少し重すぎませんか？	
	もっとライトでもいいのかなと思います。幹事は相当疲れたのでは？	1
	太田幹事長をはじめスタッフの準備がきめ細やかであったため、十分なおもてなしが出来たのではないのでしょうか？	1
	青年OBの話では「当時は例会に来てくれる人が少なかった」と言っていたので、この4、5年で青年委員会の認知度は大きくなったと思います。企画、運営が良くできている結果だと思います。	1
	欲しい人材の確保と、例会の企画は運動していると感じたので、運営側も楽しんで入りたい！って思わせる企画をどんどんやっていければ後は人員の確保に困らなくなると思います。	1
	ネットワークが使用できないなどのトラブルがあったものの、太田さんを中心に上手く回避して運営できたことは良かったと思います。	1
	田角さんの参加者へのメールの対応は非常に大変だったと思います。本当にお疲れさまです。	1

4月特別例会内部アンケート集計（その他）

分類	内容	人数
運営に関する事	長いVGAケーブルがあるとよいかも。(5~10mくらい?)PCの配置に制限が出てしまい、不適な場所の配置になってしまったので。	1
	太田幹事長の素晴らしいリーダーシップで幹事一同を牽引していただきました。(ただ、太田さんにご負担をおかけしすぎてしまったことは反省点です)。	1
	田中さん、杉山さんをはじめとする前回、前々回の経験者のみなさま、親身なドバイスやご指導をいただきましてどうもありがとうございました。	1
参加者に関する事	古川さんのようになりたいと言っていた参加者の方がたくさんいた。	2
	2部の後(3次回、4次回)へと参加される方が多かった。	1
	過去の例会出席者のリピーターが多く、例会参加者の満足度が高い事を感じました。	1
	高齢の方が参加者の年齢層が若いため戸惑っていたが、二次会では積極的に話をされていた。年齢については各個人のとらえ方に任せるのですが、もしポツンとなっていた場合、委員の声かけがあってもよいかと思う。	1
	最年長の参加者の方は、会の当初は戸惑っておられたようでしたが。交流会序盤の各種紹介&自己紹介タイムを経てからは、非常に会を楽しんでいたように見えました(私が執事を務めた班でした)。「日本の若い技術士は素晴らしい、将来も安泰だ!」とのメッセージをいただいておりますので、この場で共有させていただきます。	1
写真撮影に関する事	写真について、写真の撮り方は、どんな写真を使いたいか?による。広報を担当している人、資料を作る人が何を使いたいか?を聞いて、オーダに沿った写真を何枚か取りました。	1
	写真撮影の許諾、今後何らかの対応が必要ですね。	1
その他	例会に出席するのは初めてでした。スタッフとして参加したのですが、参加者の皆さん、スタッフの皆さんからとても刺激を受けました。参加費を払わないといけないと思いました。	1
	来期の青年委員、青年委員の理念(行動指針)、ブランディング、CI(企業ではないですが)など周知、まだなければ検討してみてください。	1

国際活動報告書

マレーシア・日本技術士交流会 2014 報告書

目的

マレーシア技術士会-青年委員会（IEM-YES）との交流およびマレーシアの視察。

結論

- ・交流ミーティングを通して、互いの技術士制度、青年委員会活動についての現状と課題を共有することができた。
- ・テクノツーリズムを通して、マレーシアの交通事情、国策について理解を深めることができた。
- ・今後の継続的な交流を図る下地を構築するとともに、次回交流会開催時の課題が明確になった。

日程

9月20日（土）

- 14:00～18:00： 交流ミーティング@マレーシア技術士会オフィス
19:00～21:00： 交流ディナー（プライベート）

9月21日（日）

- 10:00～19:00： 観光@バトゥ洞窟、マレーシア王宮、チャイナタウン、他。
19:00～21:00： 交流ディナー（オフィシャル）

9月22日（月）

- 10:00～12:00： テクノツーリズム@KVMRT Cochrane Site

参加者

No.	氏名	技術部門	出発日（日本）	到着日（KL）	出発日（KL）	帰国日（日本）
1	安力川 幸司	情報工学	9/19（深夜）	9/20（AM）	9/22（鉄道WG・深夜）	9/24（深夜）
2	園家 研一郎	航空・宇宙	9/18（？）	9/19（PM）	9/22（夜）	9/23（？）
3	坂東 大輔	情報工学	9/19（AM）	9/19（夜）	9/21（深夜）	9/21（深夜）
4	豊田 充洋	機械	9/19（AM）	9/19（夜）	9/22（深夜）	9/22（深夜）
5	高橋 義也	情報工学	9/19（AM）	9/19（夜）	9/22（深夜）	9/22（深夜）
6	竹入 祐美子	環境	9/19（深夜）	9/20（AM）	9/22（鉄道WG・深夜）	9/24（早朝）
7	松井 聡大	機械	9/19（深夜）	9/20（AM）	9/22（鉄道WG・深夜）	9/24（早朝）
8	古川 星也	衛生工学	9/19（深夜）	9/20（AM）	9/22（鉄道WG・深夜）	9/24（早朝）
9	川崎 大輔	機械	9/19（深夜）	9/20（AM）	9/22（鉄道WG・深夜）	9/24（早朝）
10	松田 みゆき	繊維	9/19（深夜）	9/20（AM）	9/22（鉄道WG・深夜）	9/27（深夜）

詳細

1. 交流ミーティング

（1）アイスブレイキング

プレゼンテーションに先駆けて「①余興（侍の仮装＋演歌）」、「②Staring Contest（にらめっこ）」を実施。これにより初対面の参加者同士の距離が縮まり、場の雰囲気や和らげることができた。また、日本からのお土産（お菓子、お面、刀など）に興味を持って頂くことができ、コミュニケーションを取るきっかけとして効果的であった。

(2) プレゼンテーション

マレーシア、日本の順に「自国の国勢」、「技術士制度」、「青年委員会活動」についてプレゼンテーションを実施（添付資料 1 参照のこと）。その後、主に技術士制度について意見交換をおこなった（後述）。また、同セッションの最後に、先方の来日を促すべく「Welcome to Japan」と題して日本文化を紹介した。

初めての交流ミーティングとして成功裏に終わったと考えるが、今後発展させていくためには総花的な内容でなく「テーマ設定、課題抽出、解決策提示」といったグループワークが必要であると感じた。

＜技術士会制度についての意見交換＞

- ・マレーシアの技術者は「当局（BEM：The Board of Engineers Malaysia≒技術士会）」への登録が義務付けられているため、BEM は日本技術士会と比べて規模、影響力共に大きい。
- ・マレーシアでは、BEM とは別に、技術者教育の推進を目的とした「学会（IEM：The Institution of Engineers, Malaysia）」が組織されている。
- ・IEM は、企業、大学との連携が密接であるため、日本技術士会と比べて活動費用、若手メンバーを獲得しやすい。
- ・IEM 青年委員会（YES：Young Engineers Section）には、メンバーが大学に赴き、技術者倫理や業務体験などをレクチャーする機会がある。その際に大学生たちが IEM-YES を知ることができる。
- ・IEM-YES には学生メンバーの制度があり、学生と一緒に活動する仕組みがある。



アイスブレイキング



プレゼンテーション

2. テクノツーリズム：KVMRT（The Klang Valley Mass Rapid Transit）プロジェクト

※既存の鉄道を結び、クアラルンプールを含むクランバレー地域の基幹となる公共交通ネットワークの建設プロジェクトのこと。

(1) イントロダクション

先方の技術者から、KVMRT に関するイントロダクションを頂戴（添付資料 2 参照のこと）。「クアラルンプールの交通事情」、「プロジェクトの沿革」、「建設工事を進める上での課題・解決策」について丁寧に紹介頂き、マレーシアが国策として公共交通に力を注いでいることを深く理解することができた。

(2) 見学

KVMRT の建設現場の一つである Cochrane Site を見学。Cochrane Site は掘削機設置用の立坑工事現場で

あり、KVMRT の開通後は駅となる。残念ながら掘削現場（地下）に立ち入ることはできなかったが、地上の現場からだけでも、マレーシアの力入れ様を肌で感じる事ができた。ただ、本テクノツーリズムの参加者に有識者（e.g. 技術士（建設部門））がおらず、深い議論を交わすことができなかった点が悔やまれる。

本視察は先方にとっても良い PR 活動であったように見受けられ、フェイスブックページにて紹介された（<https://www.facebook.com/mrtunderground>）。



交流ディナー



テクノツーリズム

3. 観光

マレーシア青年委員にご案内頂きながら丸一日クアラルンプールを観光。これを通して、マレーシアの国勢を肌で感じると共に、それを支える、歴史、文化（多民族、多宗教）を学ぶことができた。

4. その他

先方とフェイスブックなどによる新しい繋がりができ、今後の継続的な交流を行うための下地を構築することができた。また、英語学習のモチベーションが向上した。

所感

主題交流会は初めての試みであり、手さぐりで進める部分があったものの、当初の目的（交流、視察）を達成すると共に、今後の活動につながるネットワークを構築することができた。ここで、「これらは先方の手厚いサポート（おもてなし）に支えられて成し得たことである」という点を強調しておく必要がある。「ミーティング、テクノツーリズムのアレンジ」といった主題交流会の主務に加えて、「観光のアレンジ、ご案内」、「ディナーの準備、ご馳走」といった（どちらかと言えば）雑務までご対応頂き頭が下がる思いである。

次回交流会は来年、日本での開催を想定し、「①グループワークなどによるディスカッション」、「②マレーシアで受けた以上のおもてなし」を実現すべく準備する。

Condition of Japan

Sep. 20 2014

International Group
Young Engineers Committee
Institution of Professional Engineer, Japan

Institution of Professional Engineer, Japan

1

Agenda

1. About Japan
2. PESystem
3. PECondition
4. Institution of PE
5. YEC Activities



Institution of Professional Engineer, Japan

2

1. About Japan

2. PESystem
3. PECondition
4. Institution of PE
5. YEC Activities



Institution of Professional Engineer, Japan

3



do you know?

Okinawa

Institution of Professional Engineer, Japan

4

About Japan

Head of state	Emperor AKIHITO
Imperial era	2,674 Years
Prime minister	ABE Shinzo
Population	128 Million
Land size	377,900kmsq



Institution of Professional Engineer, Japan



5

Traditional and Modern



Kyoto

Tokyo



Institution of Professional Engineer, Japan

6



Hokkaido

Snow and Tropical

Okinawa



Institution of Professional Engineer, Japan

7

Four Season



Institution of Professional Engineer, Japan

8

Traditional Culture



Kimono



Syuji
(calligraphy)

Institution of Professional Engineer, Japan

9

Traditional Culture



Kabuki



Sumo

Institution of Professional Engineer, Japan

10



New Culture
Manga!

New Culture : CosPlay!



1. About Japan
2. PESystem
3. PECondition
4. Institution of PE
5. YEC Activities



Institution of Professional Engineer, Japan

13

Governing



Institution of Professional Engineer, Japan

15

Professional Engineer is

技術士

Engineering **SAMURAI**

SAMURAI work with...
High ethics,
High Engineering Skill
for improving Society

Definition of Professional Engineer

“Advanced professional practical abilities”



Professional Engineers Act

Institution of Professional Engineer, Japan

16

21 Technical Disciplines

- Aerospace
- Agriculture
- Applied Science
- Biotechnology
- Chemistry
- Civil
- Electrical & Electronics
- Environment
- Environmental
- Fisheries
- Forest
- Industrial
- Information
- Marine & Ocean
- Mechanical
- Metals
- Mining
- Nuclear & Radiation
- Technical Management
- Textiles
- Water Supply & Sewerage

Obligations and Benefits

Obligations

1. Keep **Confidence**.
2. Keep **Confidentiality**.
3. Work for **Benefit of society**.
4. Indicate **title of professional engineer**.
5. Keep improving **professional skill**.

Institution of Professional Engineer, Japan

18

Obligations and Benefits

Benefits

1. Monopolistic use the name of **"Professional Engineer"** in Japan
2. Accepted as a **qualified personnel** in a certain domestic system (e.g. Civil Consultant).
3. Exempted from a certain **qualifying exam** in whole or part (e.g. Patent Attorney).

Institution of Professional Engineer, Japan

19

1. About Japan
2. PESystem
3. **PECondition**
4. Institution of PE
5. YECActivities



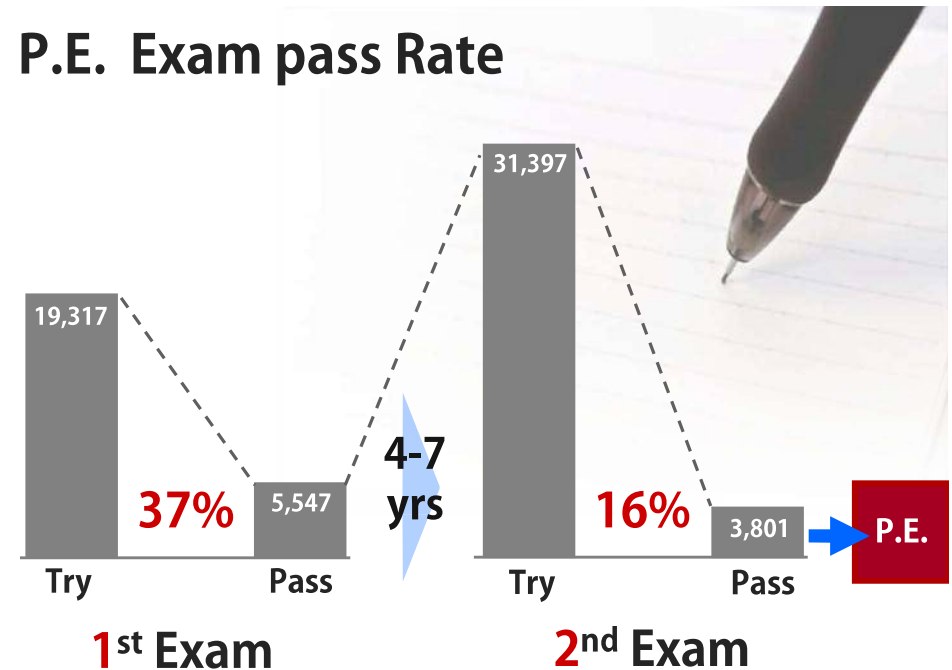
Institution of Professional Engineer, Japan

20

Way to Professional Engineer



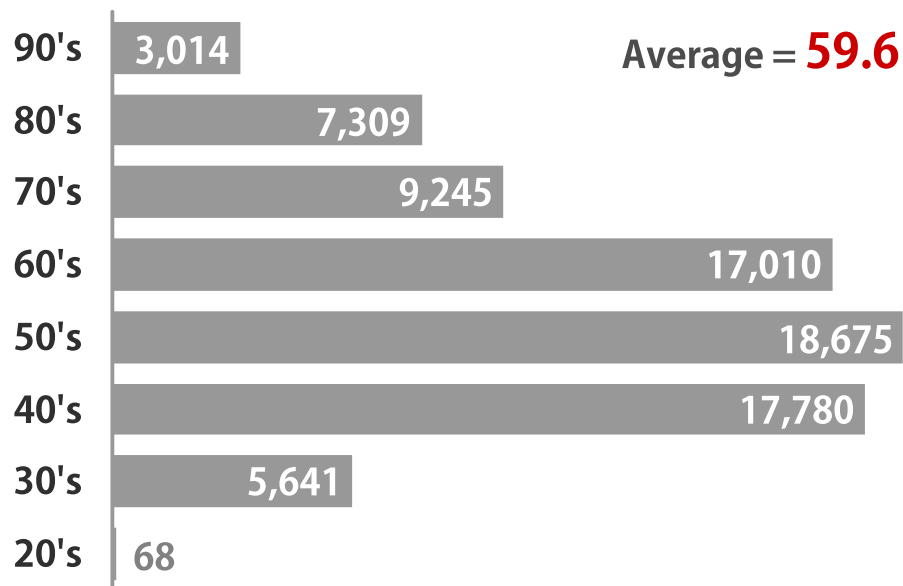
P.E. Exam pass Rate



Institution of Professional Engineer, Japan

22

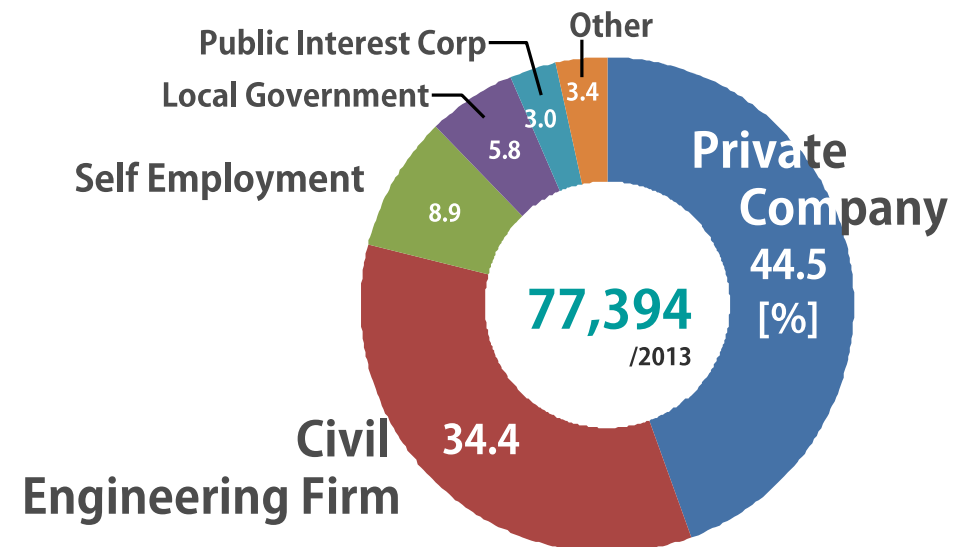
Age distribution of P.E.



Institution of Professional Engineer, Japan

23

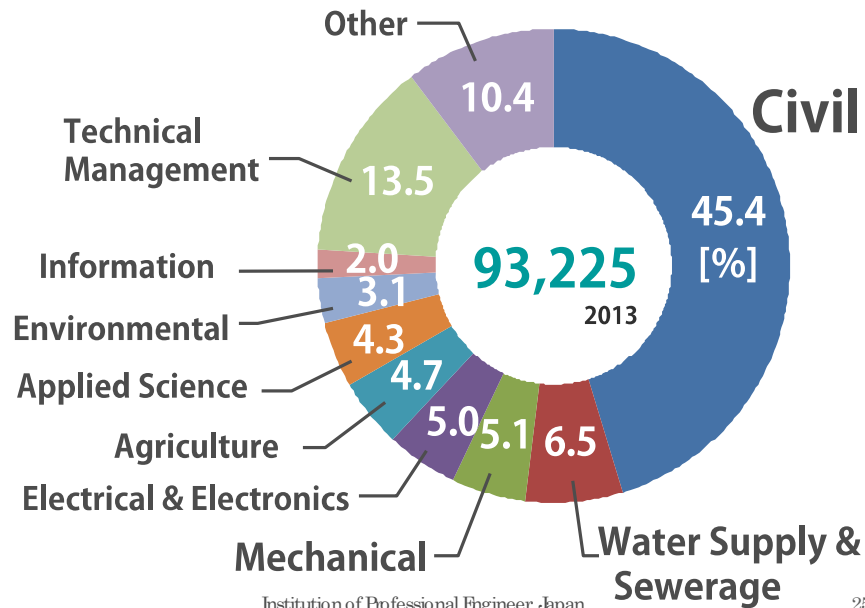
Employment Sectors



Institution of Professional Engineer, Japan

24

Technical Disciplines



Institution of Professional Engineer, Japan

25

1. About Japan
2. PESystem
3. PECondition
4. **Institution of PE**
5. YECActivities



Institution of Professional Engineer, Japan

26

Overview of IPEJ

Established	1951
Legal basis	P.E. Act
Jurisdiction	MEXT
President	Mr. YOSHIDA Katsumi
Regular Member	14,125 (18% of P.E.)
Membership fee	¥20,000/Year (600MYR)

Institution of Professional Engineer, Japan

27

Role of IPEJ

Exam and Registration	CPD (Continuing Professional Development)
Promotion	Enlightenment of engineering ethics
International cooperation	Public relations
Engineers' mobility	Social contribution

Institution of Professional Engineer, Japan

28

Regional Branch

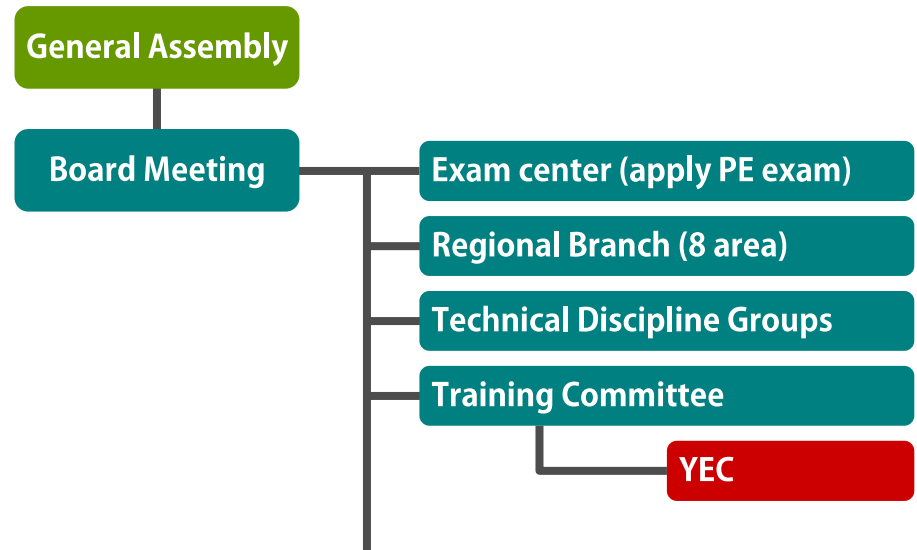


Each Branch Provide individual Training/Event/Culture

Institution of Professional Engineer, Japan

29

Organization overview



Institution of Professional Engineer, Japan

30

1. About Japan
2. PESystem
3. PECondition
4. Institution of PE
5. **YEC Activities**



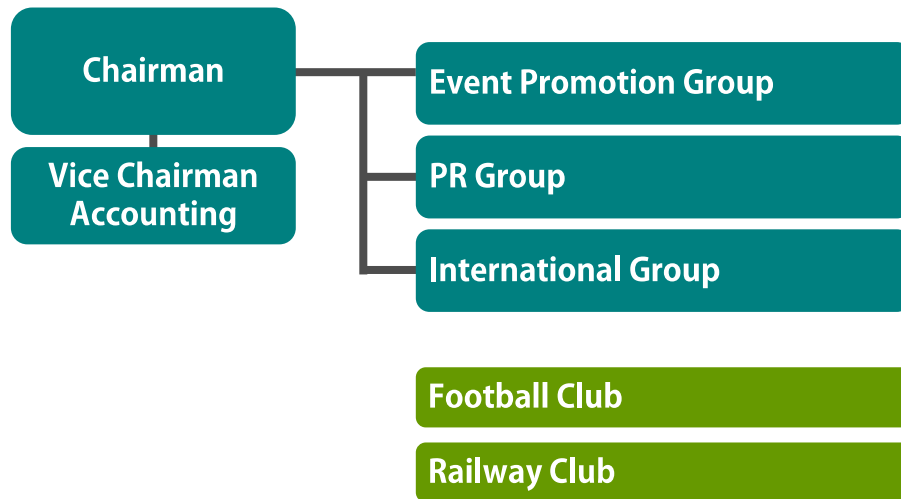
Young Engineers Committee Activities (Tokyo HQ)



Institution of Professional Engineer, Japan

31

Young Engineers Committee Tokyo (1)



Institution of Professional Engineer, Japan

33

Young Engineers Committee Tokyo (2)

	Regular Member	Assistant Member
Member of IPEJ	mandatory	
Age	22~45	
Maximum term	4 yrs (2yrs*2)	Non
License	P.E.	Non P.E. (P.E. over 4 yrs)
Maximum member	25	25

Present situation

Average age	38	
# of member	20	9

Institution of Professional Engineer, Japan

34

YEC Activities in the last a year

Date	Event
2013 Aug	Presentation training
Oct	All Japan young engineers Mtg
Nov	Tech visit for Tire factory
2014 Jan	Orientation for New PE
Mar	Debate training
Apr	Workshop
May	Technical English training
Jun	Tech visit to Water gate at river/ BBQ
Jul	Science Lecture for schoolchildren

Institution of Professional Engineer, Japan

35

Jul Science Lecture for schoolchildren





Apr Workshop



Oct All Japan Young Engineer Mtg



Soccer Club



Railway Club



Thank you

Sep. 20 2014

International Group
Young Engineers Committee
Institution of Professional Engineer, Japan
intl@peyec.jp

Delegates of visiting Malaysia
my@peyec.jp
Head, Koji Yasukagawa
Deputy Head, Miyuki Matsuda
Mitsuhiro Toyoda
Daisuke Bando
Toshihiro Matsui
Yoshiya Takahashi
Yumiko Takeiri
Seiya Furukawa
Daisuke Kawasaki
Kenichiro Sonoya
Yuka Tasumi*

Institution of Professional Engineer, Japan

41

Have you ever been to Japan?



Welcome to Japan

Sep. 20 2014

Yumiko Takeiri
Miyuki Matsuda
Mitsuhiro Toyoda

Institution of Professional Engineer, Japan

42



What is "COOL JAPAN" ??

IS JAPAN COOL?
Kawaii



How global fans see Japan:
kawaii heaven.



"Twintail" — simple dream
-come-true magic for
change.



Natural *kawaii* with new
balance for future fashion.



Harajuku girl leads next-
generation *kawaii*.

IS JAPAN COOL?
DREAMS



BRAIN WAVE CAT EARS
cutting-edge tech joins Japan's
'fetish' (moe) culture



SPACE BROTHERS
super-popular manga depicts the
dreams of youths dedicated to
space



KOBE TETSUJIN 28-GO
mega-size robot who saves the
peace in Kobe city



FUJIKO F. FUJIO MUSEUM
manga master who "visualized"
children's dreams

IS JAPAN COOL?
TRADITIONS



Aburi-mochi
あぶり餅



Tea master
茶道家



New Kyoto-style umbrellas
新しい京和傘



Viewing Japanese gardens
in Kyoto
日本庭園

<https://www.ana-cooljapan.com/kawaii/movie/kittyist/?cid=INT12010324>

JAPANESE FESTIVALS

Dance

Pray for good
catch of fish

Tanabata

Mikoshi

Fireworks

IS JAPAN COOL?
OKINAWA



Taketomi Island
竹富島



Utaki
御家



Kachaashil
カチャシー



Shuri Castle
首里城

IS JAPAN COOL?
COSPLAY



Japan
Kiki's Delivery Service



United Kingdom
Sailor Moon



Finland
Last Exile: Fam the Silver
Wing



United Kingdom
Eternal Sonata

IS JAPAN COOL?
Shopping



Elevator attendants
エレベーターアテンダント



Nambu Ironware
南部鉄器



Picks
編み物



Japanese knives
包丁

TOKYO SKYTREE (broadcasting tower)



Please Try Japanese TOILET!

COMFORTABLE!



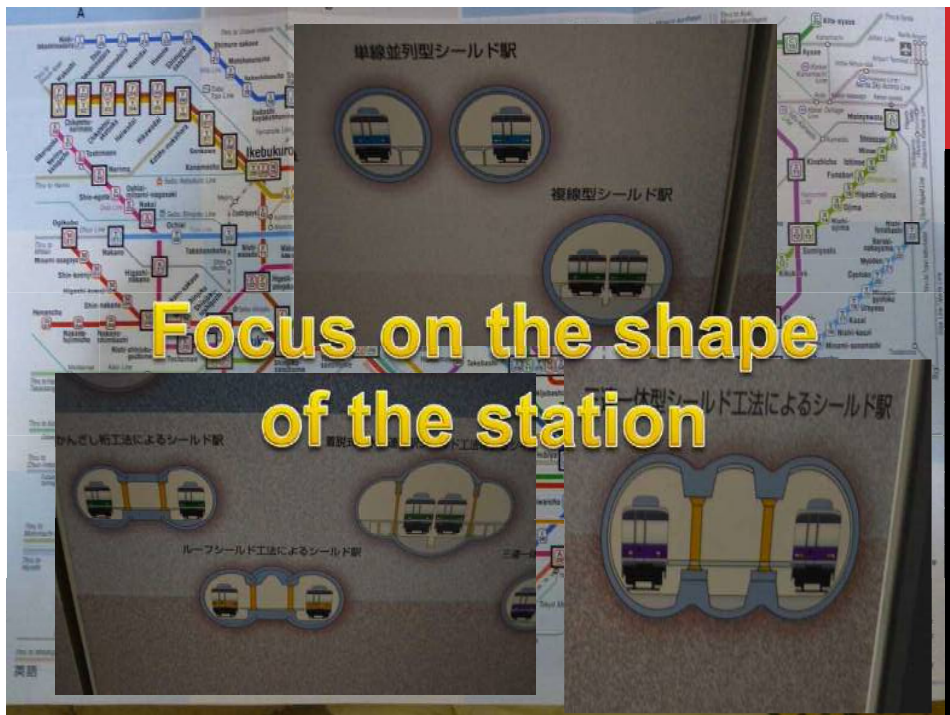
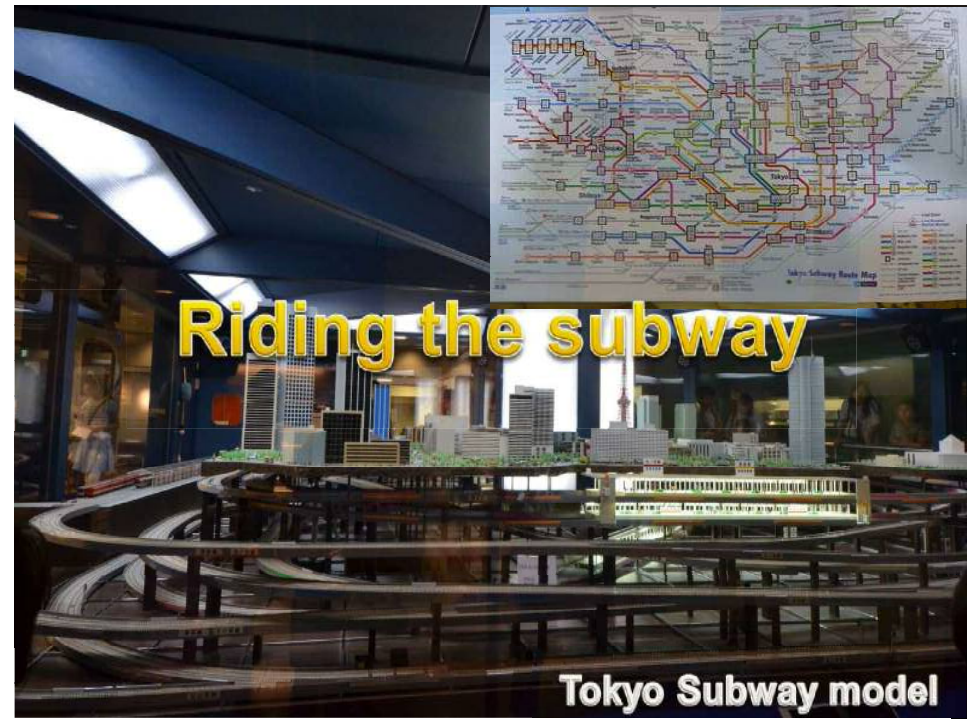
Halal Restaurant

INCREASING!

<http://halaljapan.jp/english>

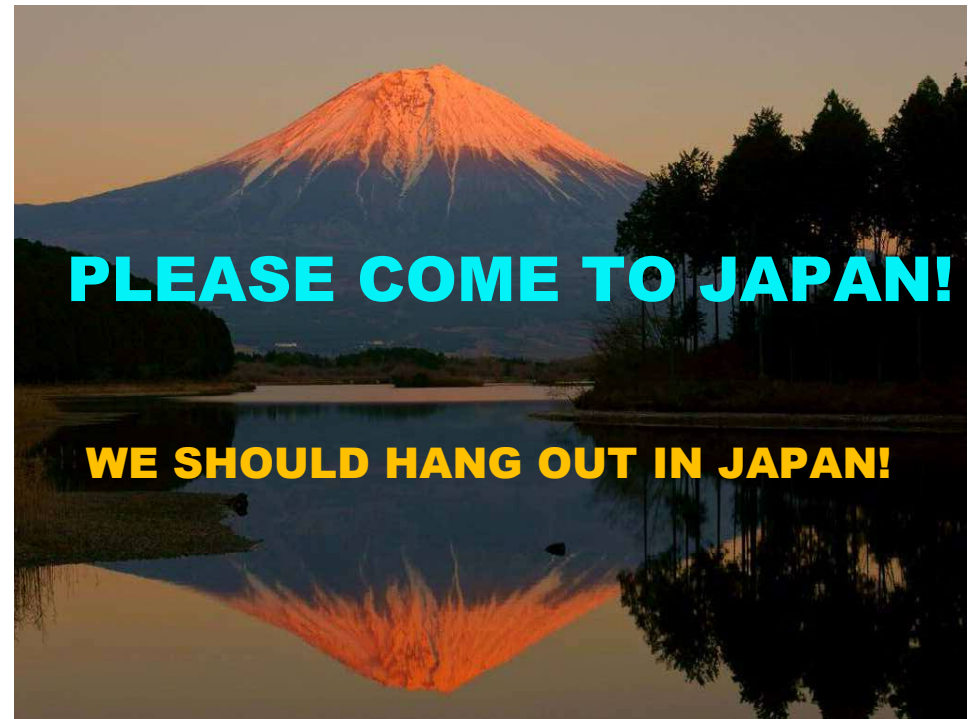


We hope you will enjoy the Shinkansen.



Soooo, Cooold...

Winter road is similar to refrigerator.



MASS RAPID TRANSIT PROJECT Sg. Buloh – Kajang Alignment www.mymrt-underground.com.my

SITE VISIT by YOUNG ENGINEERS ASSOCIATION (YES), IEM
22 SEPTEMBER 2014



BEFORE WE BEGIN, PLEASE FOLLOW US AT:

www.mymrt-underground.com.my
www.facebook.com/mrtunderground
www.twitter.com/mrtunderground
www.instagram.com/mrtunderground
www.flickr.com/photos/mrtunderground



ABOUT MRT (Mass Rapid Transit)

Malaysia's largest infrastructure project. MRT was announced in December 2010 by the Government of Malaysia, and was launched by Prime Minister Datuk Seri Najib Tun Razak on 8 July 2011.

MRT will be integrated with LRT, Monorail, KTMB Komuter and intra/inter-city buses. MRT will provide 2.5 million trips p/day to 10 million people by 2020.



MRT as part of the ETP

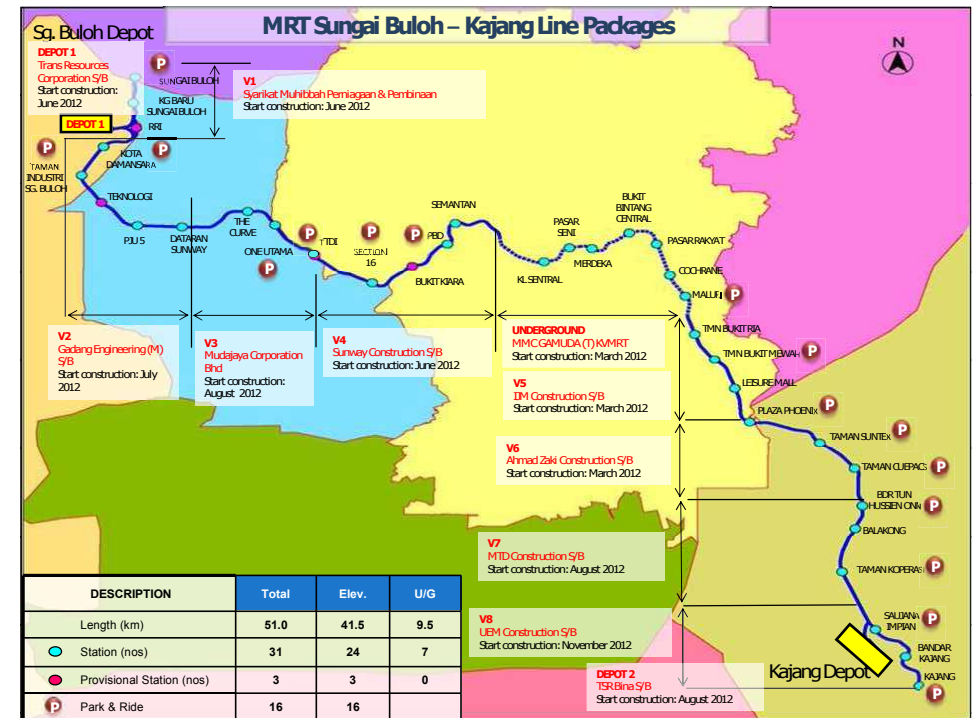
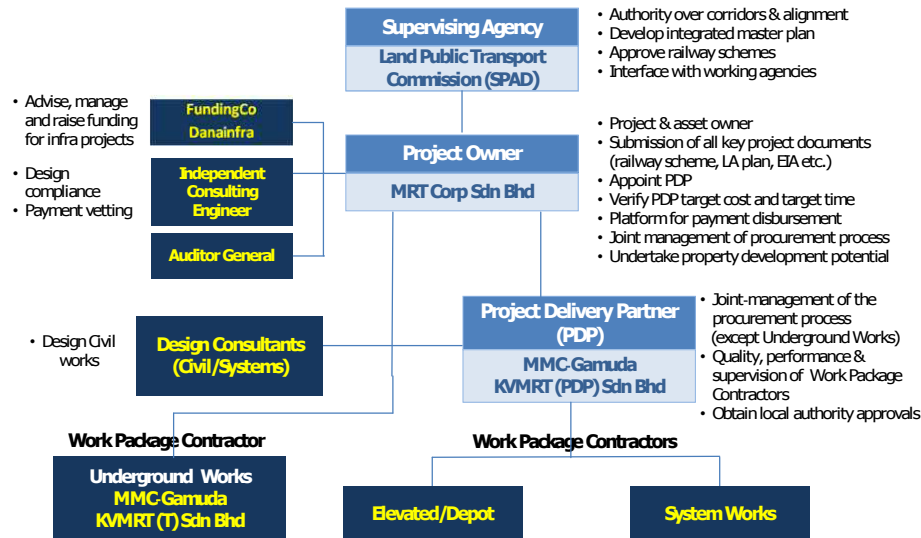


The Economic Transformation Programme (ETP) is a comprehensive effort that will transform Malaysia into a high-income nation by 2020

12 National Key Economic Areas (NKEAs)



MRT project structure



WHY DO WE NEED MRT?



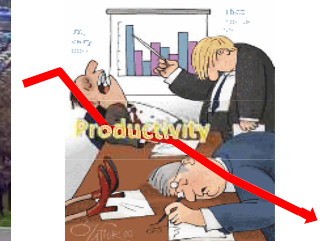
Klang Valley will be congested by 2020....



...hence building more roads is not an option

Source : Malaysia Automobile Association (based on average new car registration per year)

IF NO MRT? What happens?



1. Traffic jam
2. Air pollution
3. Loss of productivity



UGW Contract

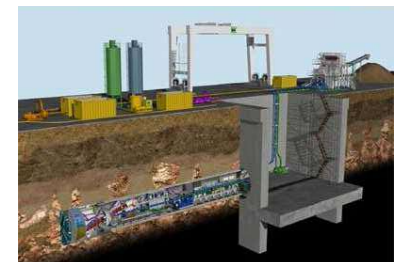
- Comprises 9.5km of route length as a part of 51km MRT Sungai Buloh – Kajang line.
- The works are contracted on a **fixed lump sum Design & Build** delivery including all temporary works and interfacing with other WPCs on the project.
- Contract Awarded : **April 2012**
- Notice to Proceed : **May 2012**
- Contract Value : **RM 8.28 Billion**
- Completion Date : **July 2017**

UG Works Scope

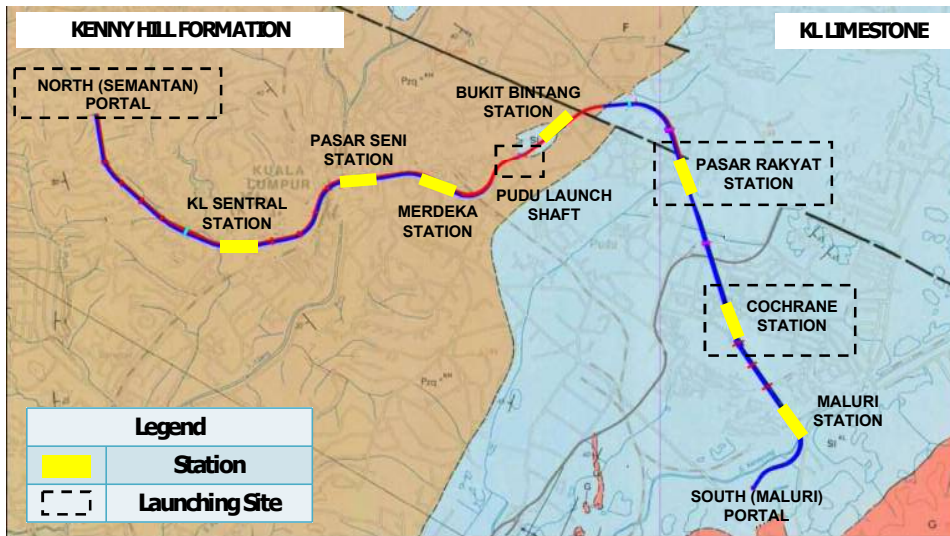
- Twin Bored Tunnels, from Semantan North Portal to Maluri South Portal
- 7 underground stations, complete with architectural and M&E services and 3 Escape shafts
- All entrances, Vent Buildings at each station
- Tunnel Portal Structures
- Park & Ride facilities at Maluri
- External Works, Roadworks, street lighting and landscaping
- Utility Diversions
- Building Protection Works
- Temporary launch shafts for tunnelling

WHY TUNNELLING?

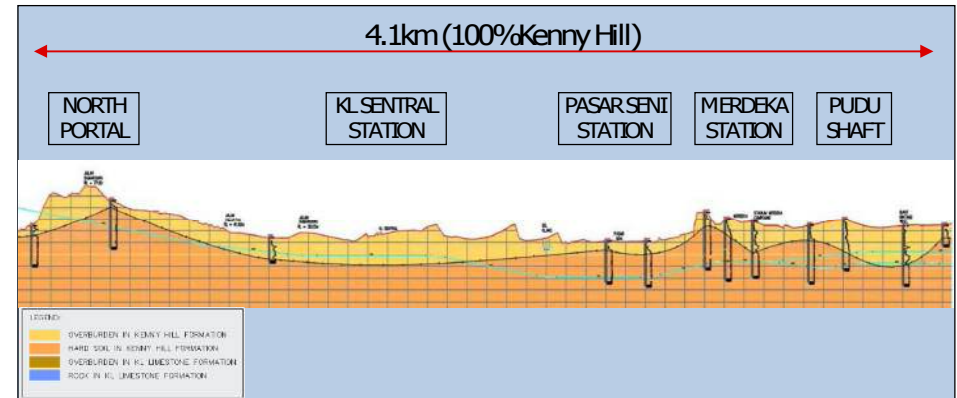
- Tunnelling is the best method to build the MRT SBK line in the inner city of Kuala Lumpur.
- The tunnels will not obstruct the further development of surface transportation and will not have any visual impact to the existing city skyline.
- Tunnelling is also the least restrictive method for future land use.



GEOLOGICAL VIEW

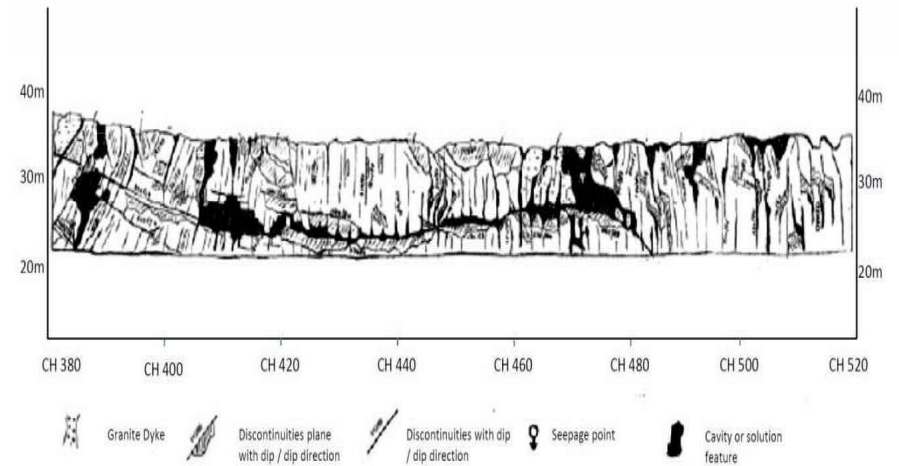
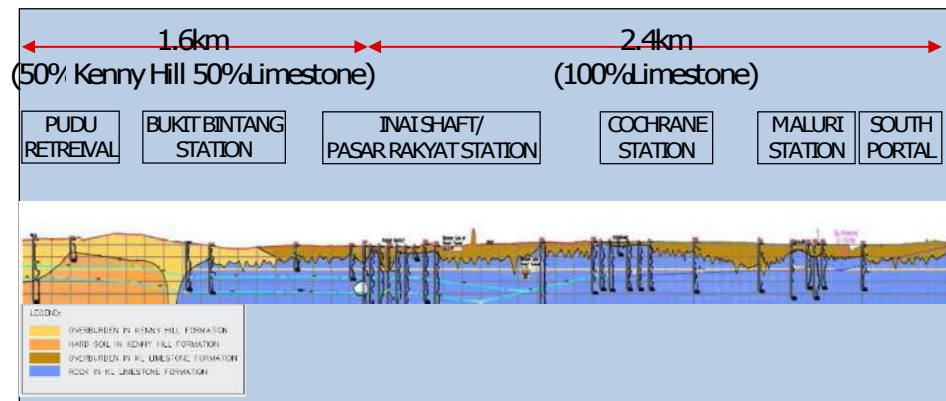


Kenny Hill Parcel



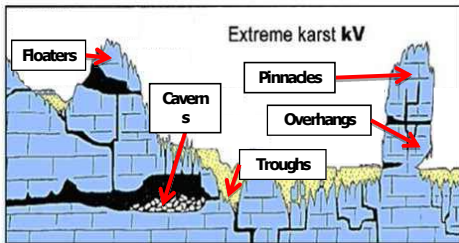
18

Karstic Limestone Parcel



KARSTIC FEATURE OF KUALA LUMPUR

Kuala Lumpur Geology



Kuala Lumpur Karst Rockhead During Tin Mining



Ventilation Shaft SMART Project 2004



Cochrane Station Shaft KVMRT 2012

SINKHOLES IN TUNNELING PROJECTS

Road swallows truck in Beijing



China Subway Line 2011

Metro Construction Causes Sinkhole in Downtown Cairo



Egypt Metro Line 2009



Kuala Lumpur SMART Project 2004

Tunnelling Risks : Ground Settlement



Underground Hazards in KL Limestone - Varying rock head conditions and sinkholes formation



TUNNELLING METHOD

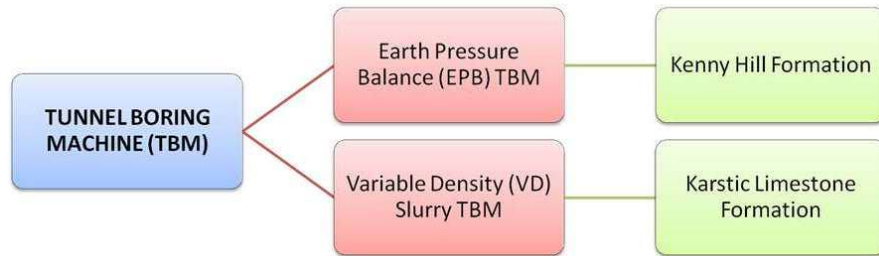
Key to Successful Tunnelling:

TUNNEL BORING MACHINES

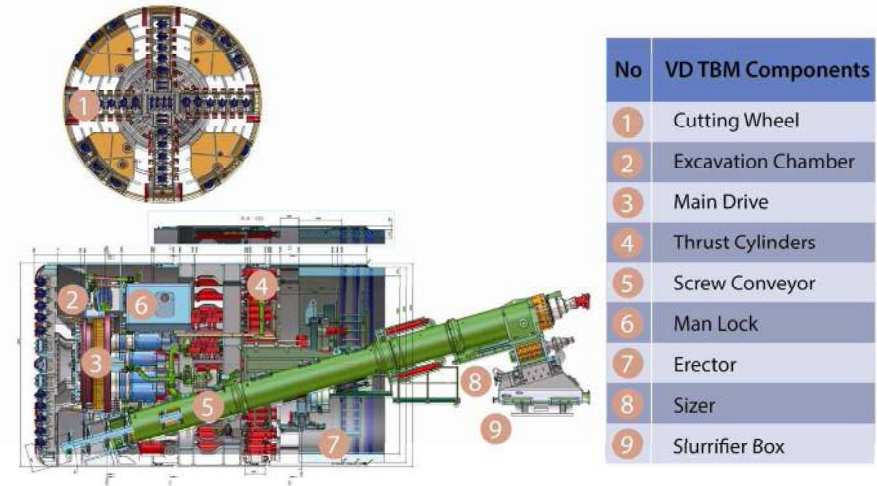


TUNNEL BORING MACHINE (TBM)

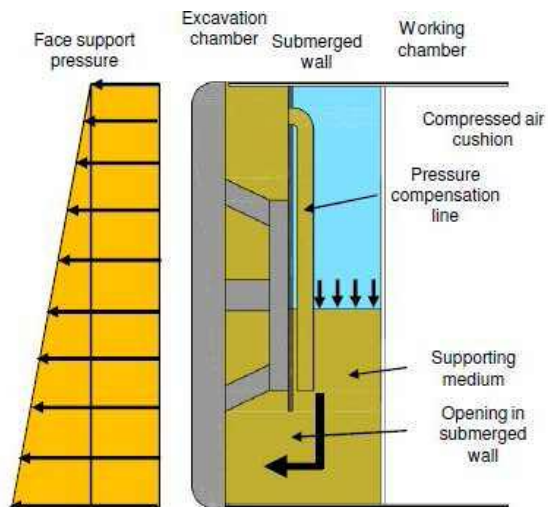
Different soil condition requires different type of boring machine to achieve maximum efficiency.



VARIABLE DENSITY TBM



Slurry TBM



What is a VD TBM?

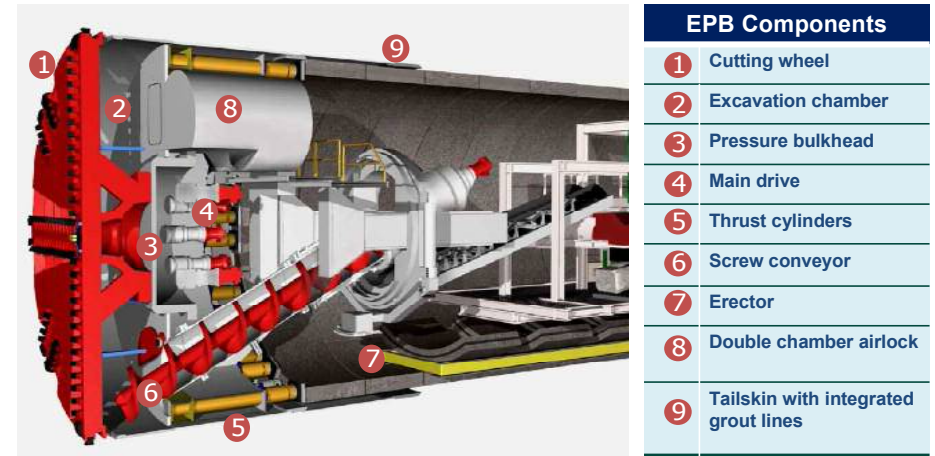


- Two types of soft ground TBMs
 - ▣ Earth Pressure Balance (EPB) TBMs
 - ▣ Slurry TBMs
- Variable Density (VD) TBM
 - ▣ Hybrid of EPB and slurry technology

VARIABLE DENSITY MACHINE

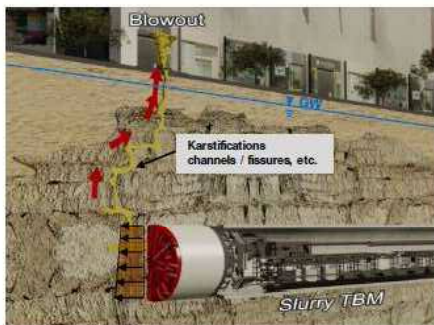
- The first of its kind in the world
- Joint effort between MMC-GAMUDA and Herrenknecht
- Able to vary the density of the bentonite
- Higher viscosity prevents loss of slurry into the cavities and thus preventing sinkholes
- High density of the slurry prevents the slurry from flooding the surface
- Innovative and sophisticated
- Custom-made to tackle karstic limestone feature.
- All these features minimize the risk of sinkholes in karstic limestone geology

EARTH PRESSURE BALANCE (EPB) TBM

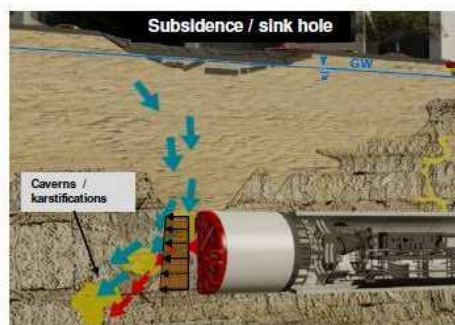


Blowouts & Sinkholes

Case A: Suspension emerging at the surface

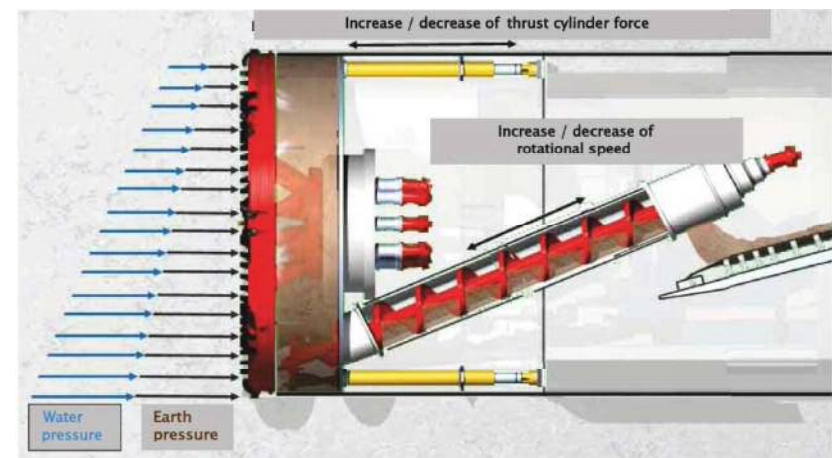


Case B: Suspension losses due to karst (channels, caverns, etc.)



EPB TBM

- Earth Pressure Balance (EPB) Tunnel Boring



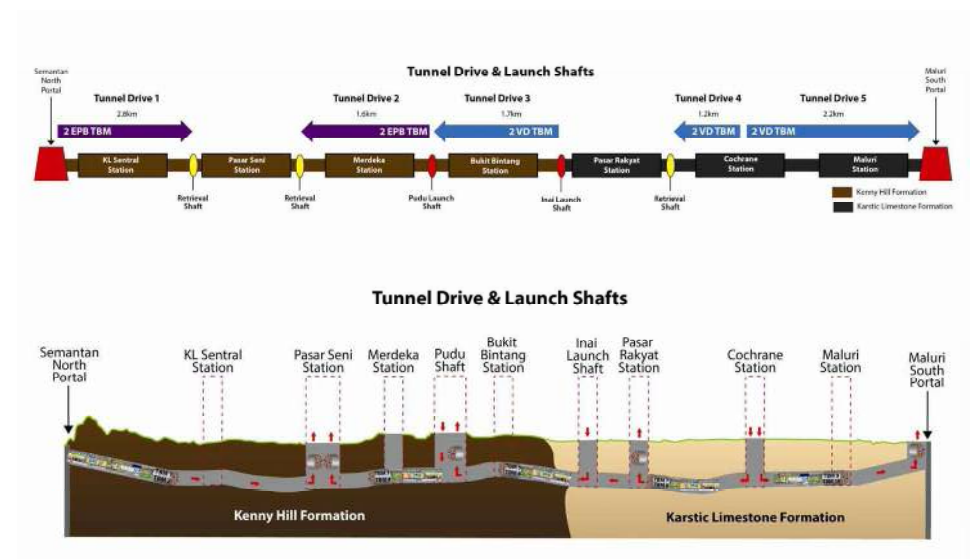
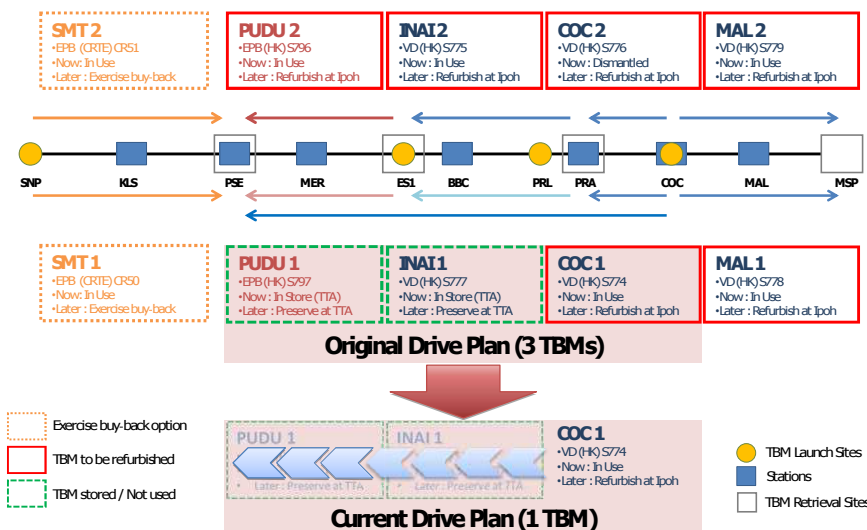
EARTH PRESSURE BALANCE

- For Kenny hill formation
- The excavated soil or muck itself is used to provide continuous support to the tunnel face by balancing the earth pressure against the forward pressure of the machine

NUMBER & TYPES OF TBMS

TBM Type	Drive	Length (m)
2 nos EPB	North Portal (Semantan) to Pasar Seni Station	2600
2 nos EPB	Pudu to Pasar Seni Station	1200
2 nos VD Slurry	Pasar Rakyat to Pudu	1900
2 nos VD Slurry	Cochrane to Pasar Rakyat	1200
2 nos VD Slurry	Cochrane to Maluri	1300

TBM Drives



行事名	CAFE032(内部開催 YEAFO Meeting21)
日時	2014 年 11 月 10 日～11 月 13 日
場所	セドナホテル(ミャンマー、ヤンゴン)
参加者	公費：豊田充洋技術士(機械)、竹入祐美子修習技術者(環境)、細野雄治修習技術者(機械) 私費：安力川幸司技術士(電気電子、情報工学)、園家研一郎技術士補(航空・宇宙)、 川崎大輔(機械)
担当者： (○印：リーダー)	○安力川、竹入、細野、豊田(記)
参加者数	約200名

1.背景-目的

青年委員会の CAFE0/YEAFEO Meeting への参加は、ASEAN 諸国との交流による青年層の委員会活動の情報交換、青年層の国際意識向上および参加国エンジニア協会との2国間交流の実現を目的として、2003 年度より継続されている。日本からは公費派遣者3名、私費参加者3名が、ミャンマー、ヤンゴンで開催された CAFE032(YEAFEO Meeting 21)に参加した。なお、YEAFEO Meeting には10カ国が参加した。(欠席:ラオス、ベトナム、ASEAN 以外の参加国:香港)

2. 派遣内容

2.1 準備

派遣準備として、以下 6 項目の準備を行った。

- ・ 目標設定(結団式)
 - ・ 名刺作成
 - ・ ビザ取得、渡航準備、YEAFFO 参加登録
プレゼント選定・調達(各国代表)
 - ・ カントリーレポートプレゼンテーション作成
 - ・ 演舞検討・練習
- … 青年委員会としての国際派遣目的を設定
 - … 国際派遣用の顔写真付き名刺を作成
 - … 観光ビザ取得、航空券及びホテル等の諸手続き
 - … ASEAN 各国の代表とのプレゼント交換用
 - … YEAFFO ミーティングでのプレゼンテーション用
 - … クロージングパーティでの演舞用

2.2 参加

①日程は以下の通り。(添付資料①)

- | | |
|---------------|--|
| 2014/11/ 9(日) | 各自ヤンゴンへ移動 |
| 2014/11/10(月) | Arrival and Registration、Bowling、Welcoming Reception |
| 2014/11/11(火) | Opening、CAFEO Meeting、YEAFO Meeting、Dinner |
| 2014/11/12(水) | Bago tour、Closing Ceremony |
| 2014/11/13(木) | 移動(各自帰国) |

②YEA FEO での達成事項は以下の通り。

- YEAFEO Meeting に参加した。
- Bowling および Bago tour に参加し、各国参加者と交流を深めた。
- YEAFEO Meeting において、日本国代表として Country Report を発表した。
- Meeting 中および休憩中など、参加各国との意見交換を積極的に行った。
- CAFEO Closing Ceremony において、日本文化紹介として空手および AKB48 の恋するフォーチュンクッキーを披露した。
- 各国代表とのプレゼント交換において、日本から持参したプレゼントを手渡した。

3. 考察

3.1 成果

- ・各国参加者とは、各種イベントを通じ親密な関係となった。また、Facebookなどで連絡を取れる状況にあるため、今後も積極的な情報交換が可能である。
- ・YEAFFO Meeting や Closing Ceremony では、日本の紹介を行い日本に関心をもってもらう機会を提供できた。

- ・参加者の国際感覚の向上および英語力向上において、自己啓発の良い機会となった。
- ・CAFEO 直前にマレーシアと2国間交流を実施したこともあり、マレーシアとは特に親密な交流を行うことができた。
- ・CAFEO 主催国は、学生のボランティアが多数参加しており、今回、日本から学生を派遣したことで学生同士の活発な交流ができ、将来に渡って有望な人脈を形成できた。
- ・昨年度の提案である「複数年参加」は、非常に良い成果をあげることができた。昨年知り合った開催国の参加者を通じて CAFEO 参加登録などの諸手続きや事前の情報収集が容易にできた。また、現地での顔の見える交流が可能になり、より親密な関係を築くことができた。
- ・同様に昨年度提案の「女性の参加」は、ASEAN 各国に対し女性技術者の存在をアピールする良い機会となった。
(ブルネイ、シンガポール以外の国は女性参加者有)

3.2 提案

今回の派遣から以下の3つの提案を行う。

①今後の派遣の在り方

優先度	項目	備考
最高	複数年参加	円滑な交流に大きく影響。
高	若手の参加	参加国は20歳代の若手が大多数。
高	女性の参加	参加国は女性技術者が多数参加。
高	人数増	5名程度に増員し、若手を広く募集。
中	英語上級者	最低1名はいたほうがよい。
中	委員長の参加	各国は委員長、副委員長がほとんど参加。
中	公費制度見直し	3名の公費派遣制度を撤廃し、公費の人数割り補填等。

②CAFEO33 マレーシア

来年の CAFEO は、マレーシアが開催国である。現在、マレーシア IEM と日本 YEC は親密な関係にある。したがって、開催国との事前調整や人脈を形成するには絶好の機会であることは間違いない。また、ペナン島はアジア屈指の観光地であることに加えて渡航し易い場所であることから、国際経験の少ない方を積極的に勧誘し、派遣者数を増やしてはどうか。

③英語版 Facebook の運営

CAFEO 関係者のコミュニケーションツールは Facebook が主体である。英語版 Facebook を運営してはどうか。

3.3 引き継ぎ

- ・開催国に関しての事前調査は必須である。(特に通信などのインフラ事情)
- ・宿泊先のホテルは、交通渋滞などを考慮してなるべく会場に近いところにすべきである。
- ・お土産は、国産のものに加えて、個人宛のものも用意すべきである。
- ・Closing Ceremony では、他国の小旗(国旗)と交換できるものを用意すべきである。

以 上

【添付資料①】CAFE032/YEAFEO Meeting21 参加状況



Fig.1 CAFE032 Welcoming Reception



Fig.2 Bowling event



Fig.3 YEAFEO Meeting



Fig.4 Country report



Fig.5 Exchange Souvenirs



Fig.6 Bago tour



Fig.7 Karate



Fig.8 Koi Suru Fortune Cookie



Fig.9 Closing Ceremony



Fig.10 JYEC Delegates



Fig.11 Dinner (11th Nov)



Fig.12 Bar (11th Nov)

マレーシア技術者来日対応報告書

報告日：2015 年 4 月 25 日

背景・目的

2014 年 9 月に実施した「マレーシア-日本技術士交流会」を契機に、主に FB 上で 2 国間交流を継続している。この度、先方の技術者 Puvanesan Mariappan 氏（以下、Puven）が来日する運びとなり、国際 G を中心に日本の技術、文化を紹介する機会を得た。

結論

- ・英語 Mtg、花見、テクノなどのイベントを通して、マレーシア技術者との交友関係を深めることができた。
- ・来日技術者の継続的な受け入れに向けた課題が明確になった。

来日日程

2015 年 3 月 26 日（木）～4 月 4 日（土）

詳細（○：良かった点（次回も取り入れる）、×：悪かった点（次回は改善する））

3 月 26 日（木）

- ＜見学先／イベント＞ 羽田空港（お出迎え）
- ＜アテンド＞ 安力川、豊田、竹入、松田
 - 4 人で出迎えることができた。宿までの移動の不安が軽減されたと思う。
 - 迎えに行ったことで宿まで移動の不安が軽減された。
 - × ウェルカムボードがあればなお良かった。

3 月 27 日（金）

- ＜見学先／イベント＞ 泉岳寺、八芳園、渋谷駅周辺、竹下通り、英語 Mtg
- ＜アテンド＞ 川崎（＋友人 6 人）
 - 多すぎると心配していたが、アテンドの人数はこれくらいの方が盛り上がりを感じた。
 - 竹下通りで「東京」と「忍者」とかかれた T シャツを買い、気に入っていた。
 - × Puven がグーグルカレンダーであげてくれたリストの箇所をまわったが、Puven もなんとなく選んでいたようで観光としては盛り上がりがないところがあった。こちらで事前に調べて助言をする必要があった。
 - × 歩く時間が長くなってしまい、Puven を疲れさせてしまった。
 - × 大人数で昼の時間だと入れる店が少なく、探すのに時間がかかってしまった。
 - × 昼食はお寿司で満足はしていましたが、マレーシアでは同じクオリティのものがより安く食べられるとのこと。



英語 Mtg 1



英語 Mtg 2

3月28日(土)

<見学先／イベント> 浅草、川越、花見（芝公園）

<アテンド> 松井、川崎（+友人6人）

- 場所がすばらしかった。夜中の2時に場所確保してくれた松田さんに感謝。
- 場所とり+荷物受け取り+惣菜調達で人数は4名でちょうどよかった。
- 昼食は浅草で天ぷらそば。マレーシアで食べる機会にはなかったようで気に入っていた。
- 大人数でワイワイ花見は観光ではできない体験だったと思います。青年ならではですね。
- × 惣菜のカットが時間がかかったで、もう少し早めに準備できると良いですね。



浅草



花見

3月29日(日)

<見学先／イベント> 伏見稲荷、二年、三年坂、清水寺、円山公園、先斗町、他

<アテンド> 高橋、古川、松田（+友人2人）

- 外国人に人気の観光スポットをふんだんに取り入れた。
- 日本らしい風景を案内することができた。
- ホテルをとっても気に入ってくれた（新大阪：ホテルメルパルク）。
- × マレーシア人はあまり歩くことが少ないらしく、疲れているようだった。
- × 休憩を多くはさむ必要があったと反省。

× 京都はロッカーの確保に苦勞する。

3月30日(月)

＜見学先／イベント＞ 嵐山周辺、金閣寺

＜アテンド＞ 高橋、坂東、松田（＋友人1人）

○ 京都を案内した中で、渡月橋からの風景が一番エキサイティングしているようだった。

× 3/29と同じく疲れているようだった。

× 移動が少々慌ただしかったかもしれません。その結果、疲労の蓄積も早まったかもしれない。



伏見稲荷



金閣寺

3月31日(火)

＜見学先／イベント＞ アサヒビール工場、JAXA、温泉（みのり湯、in 柏）

＜アテンド＞ 川崎

○ 温泉とその後のマッサージを大変気に入ってくれた。露天風呂、漢方湯、ジャグジーつき、電気風呂、サウナ、水風呂等。

※ マレーシアの温泉ではオイルマッサージをしてから体をキレイにするために入る。水着を着て入るのが当たり前。

× 以前ペプシの工場で働いていたらしくビール工場にあまり目新しさを感じなかったみたい。

× JAXA の予約をするのが遅かったので英語ガイドがつけられなかった。思ったより見て回るところが少なく、退屈させてしまった。

4月1日(水)

＜見学先／イベント＞ 東京スカイツリー、パチンコ、築地、銀座、上野

＜アテンド＞ 安力川

○ パチンコは初めて見たので興味深い（しかし一度でいい）とのこと。

○ Erwan（インドネシア技術者）が参加したため盛り上がった。

× Puvén の疲労のため 11 時出発に。

× 閑散期の午前中に訪問したが、東京スカイツリーの待ち時間が長く、見学に 3 時間ぐらいかかった。時間指定チケットを高くても買うべきか。

- × 築地着が 15 時過ぎだったので、築地市場は閑散していた。築地は早い時間に訪問すべき。(スカイツリーも午前中がベスト)

4月2日(木)

＜見学先／イベント＞ 磯子火力発電所

＜アテンド＞ 太田

- 工場見学は技術的な話題が出るので本人もアテンドもそれなりの感じが出てよかった。
- 太田さんが事前に予習されて名所を案内してくださったこと。
- × 直前で参の者が二転三転したこと。
- × 見学地が宿泊地から遠く、移動に時間を費やしたこと。
- × 見学に技術説明員がおらず、Puven が多少飽きていた。
- × 宿泊地を知っている者の合流が送れ、Puven が帰りがたっているのに対応できなかった。
- × Puven がお疲れで帰りたかったけど帰れなかったこと。
- × 日曜日の調整を Puven 同行でしたため飲み屋に行けなかった。
- × 日本語の Mtg となってしまったので Puven が暇そうだった。



JAXA



磯子火力発電所

4月3日(金)

＜見学先／イベント＞ 横浜温泉（万葉の湯）、六本木ヒルズ

＜アテンド＞ 安力川、竹入、松田

- 疲れと荷物パッキングのため 11 時出発。
- 温泉はとても気に入っていた。温泉で浴衣を着られるのでそれも喜んでいた。
- お酒を思い残すことなく夜遅くまで飲めたこと、確にお別れ会はフライト前日が望ましい。
- × 六本木ヒルズはただの丘だと思っていた。
- × 六本木ヒルズは不評、ショッピングも値段高すぎ。

4月4日(土)

＜見学先／イベント＞ 浦和レッズサッカー観戦、蒲田

＜アテンド＞ 安力川、竹入、高橋、古川、川崎（+友人 2 人）

- 疲れていたので 11 時スタート。

- ラーメンに喜んでいた。
- 今回使用した蒲田のお店は結構融通が効く。
- サッカーは寒かったがそれなりに楽しかったとのこと。
- × 最終日の予定は決めない方が良い。
- × 予定が決まってもとりあえずアナウンスする。
- × 餃子（中華）は代わり映えがしないから別に行かなくていいとのこと。



サッカー観戦



送別会

所感

Puven 来日では、マレーシアとの友好関係を再確認できたと同時に、日本側の「受け入れ態勢」の課題も見えた。端的に言う「リソース不足」である。今回は「マレーシアでの恩返し」の気持ちも込めてマレーシア訪問者（≡国際 G）を中心におもてなしした。しかし、個人の負荷が大きく、同レベルのおもてなしの継続は困難と感じた。

そこで、次の通り対策を講じたく、国際 G で推敲した後、改めて委員会で討議させて頂きたい。

- ① YEC 全体のリソース（ヒト、モノ、カネ）の活用。
- ② 上記①の適用範囲の明確化。

各種イベントへの参加者の様子から察するに、Puven 来日は青年委員会にとって良い刺激になった様に見受けられる。持続可能な来日技術者の受け入れ態勢を構築し、次回 CAFEO では積極的な来日勧誘を行いたい。

文責 松井

サッカー&テクノ 活動報告書

行事名	サッカー練習会
日時	【練習会】平成 26 年 5 月 10 日(土) 14 時 00 分～16 時 00 分 【交流会】平成 26 年 5 月 10 日(土) 17 時 30 分～
場所	【練習会】浜町公園グラウンド 【交流会】
担当者: (○印:リーダー)	○高橋 義也(記)
参加者数	【練習会】24名(日本技術士会:20名(青年委員:2名)、その他:4名(1次試験受験予定者:2名)) 【交流会】14名(日本技術士会:13名、その他:1名)

1. 背景・目的

日韓技術士国際会議の親善の一環として開催されている日韓親善サッカーでの勝利を目指して立ち上げられた「フットサル愛好会(2007 年 12 月)」では、参加メンバーを増やしながらサッカーを通じた交流の輪を広げ、現在まで継続した活動を行っている。今回は、その一環として統括本部のメンバーを中心にサッカーの練習会を開催した。

2. 内容

参加メンバーは日本技術士会のメンバーが中心であるが、技術士一次試験受験予定者の参加もあった。

練習内容は参加メンバーを3チームに分けて試合形式での練習を中心に行った。昨年度の日韓親善サッカーメンバーの参加は少なかったが、参加したメンバーの力量や連携を確認することができた。当日は非常に暑い中での練習であったが、大きな怪我もなく無事に終了することができた。

練習会後の交流会でも、日韓親善サッカーに向けての戦略やサッカー談義で盛り上がり、日韓親善試合へのモチベーションに向上につながった。

また、最後になるが、日本技術士会の松原好直監事が練習会を見学し激励の言葉をいただいた。

3. 成果と所感

松原好直監事の激励からも感じられたが日韓親善サッカーでの勝利を望める方々も沢山いることを再確認でき、日韓親善サッカーへの期待の大きさを実感し、モチベーションの向上につながった。この様な多くの激励と定期的な練習会を開催することで、日韓親善サッカーでの勝利が近づくものと考えている。

4. 今後の展開

今回のサッカー練習会は 24 名の参加者があり、青年委員 1 名で賄うのはかなり厳しい状況である。今回は経験者である山中さん、田村さんが細かい部分をサポートしていただいたので、運営的には問題なくなすことができた。この点はかなり以前から課題であると考えているが、真剣に取り組んでいく必要があると考えている。

5. 写真

今回は写真はありません。

以上

行事名	フットサル練習会
日時	平成 26 年 7 月 12 日(土) 9 時 00 分～12 時 00 分
場所	すこやかプラザ
担当者: (○印:リーダー)	○高橋 義也(記)
参加者数	18名(日本技術士会:7名(青年委員:1名)、その他:11名)

1. 背景・目的

日韓技術士国際会議の親善の一環として開催されている日韓親善サッカーでの勝利を目指して立ち上げられた「フットサル愛好会(2007 年 12 月)」では、参加メンバーを増やしながらサッカーを通じた交流の輪を広げ、現在まで継続した活動を行っている。今回は、その一環として統括本部のメンバーを中心にフットサルの練習会を開催した。

2. 内容

今回は担当者の会社(株式会社 日本科学技術研修所)の練習会と合同でフットサル練習会として開催した。参加者全員を 3～4 チームに分けて総当たりによる試合形式で練習を、数回チームを変えて行った。練習会後半は日本技術士会チームと他の 2 チームに分けて総当たりで試合を行った。

3. 成果と所感

今回は体育館でのフットサルの練習であったため、直接的に日韓親善サッカーへ繋がる練習にはならなかったかも知れないが、通常のメンバーと異なり、今まで一緒にプレーをしていないメンバーとのプレーすることで、コミュニケーションやスペースのを見つけ方の重要性を再認識できた。その点については、役に立ったと考えている。

今回の練習会の開催の周知時期が遅くなり、フットサルメンバーのメーリングリストのみでの告知となったことと、二次試験直前の 7 月であったため日本技術士会からの参加者が少なかったが、日本技術士会以外のメンバーを集めることで 18 名の参加者を募ることができ、練習会の名目をたてることができた。

周知及び告知の早目の対応が必要であることと開催時期をしっかりと考慮しておくことが重要であると感じた。

4. 今後の展開

次回は北陸本部との合同練習会であるため事前の周知及び告知活動を充実させ多くの参加者を募る努力を行いたい。また、年間計画に沿った練習会を開催できるように、準備の手順等を明確にして準備期間の負担を極力減らすようにしていきたいと考えている。

5. 写真



行事名	日韓技術士国際会議(日韓親善サッカー大会)
日時	【日韓親善サッカー】平成 26 年 10 月 19 日(日) 19 時 00 分 【日韓技術士国際会議】平成 26 年 10 月 20 日(月)
場所	【日韓親善サッカー】愛フィールド梅津寺 【日韓技術士国際会議】ひめぎんホール
担当者: (○印:リーダー)	古川 星矢、○高橋 義也(記)
参加者数	19名

1. 背景・目的

日韓の技術交流として開催されている日韓技術士国際会議において、日韓の若手技術士の親睦の一環としてサッカーの親善試合を開催しています。若手技術士の交流と言うこともあり日韓親善サッカーは青年技術士交流実行委員会がサポートしています。この日韓親善サッカーを通して、日韓との交流はもとより国内の若手技術士同士の交流を深めることを目的としています。

2. 内容

今年の日韓親善サッカーは初のナイト開催となり従来とは異なる雰囲気で開催されました。試合は前半 25 分、後半 25 分ハーフで行われました。

前半開始から日本ペースで試合が進み開始直後、日本が幸先よく先取点をあげました。その後も日本チームがボールを支配しながら試合を進め日本チームのサイドからのボールが韓国ディフェンダに当たりオウンゴールで 2 点目をあげ、2 点先取して前半を折り返しました。

後半は韓国チームも調子をあげ、後半早々、韓国チームが攻勢を仕掛け、ついに日本チームのゴールを割られてしまいました。この得点で韓国チームが更に攻勢を強めて日本ゴールに襲いかかりますが、日本は固い守備でゴールを割らせませんでした。その後、一進一退の攻防を繰り広げ、日本チーム、韓国チームともに 1 点ずつ追加し、最終的には 3 対 2 という結果で、日本チームが勝利して試合が終了しました。

試合後は松山市内で韓国チームの方々と交流会で様々な交流を行い、次回の春川での再会を約束して交流会を終了しました。

また、日韓技術士国際会議では基調講演、分科会が行われ、日本と韓国の技術交流も行われました。

3. 成果と所感

今回は青年技術士交流実行委員会で開催していたスポーツ交流の成果が存分に発揮することができました。その結果を出す過程において日本国内の技術士との交流できたは非常に重要だったと思います。また、ひとつの目的のためにお互いに意見を出し、信頼し結果を出せたことの達成感、充実感は、とてもよかったと思います。

また、日韓技術士交流会議では、日本チームの選手による発表があり聴講しました。様々な情報や技術を伝えるための重要性を再確認することができました。

日韓技術士国際会議は韓国の技術士との交流に限らず、日本国内の技術士との交流を持てることが非常に有意義なものだと思います。

4. 今後の展開

次回は韓国の春川で開催予定です。それまで、定期的なスポーツ交流の活動で、北陸本部、中部本部との交流を行いたいと考えています。

5. 写真



以上

行事名	フットサル練習会
日時	平成 27 年 3 月 22 日 (日) 14 時 00 分～16 時 00 分
場所	大宮健保グラウンド
担当者: (○印:リーダー)	○高橋 義也 中村 聡 古川 星矢(記)
参加者数	10 名 (青年委員:3 名)

1. 背景・目的

日韓技術士国際会議の親善の一環として開催されている日韓親善サッカーでの勝利を目指して立ち上げられた「フットサル愛好会(2007 年 12 月)」では、参加メンバーを増やしながらサッカーを通じた交流の輪を広げ、現在まで継続した活動を行っている。まだ今年の日韓親善試合までは半年以上期間があるが、定期的に集まる場を設け、ボールに触れる回数を増やす為にも、今回練習会を開催。

2. 内容

気温も徐々に上昇し、大きなケガの心配も少ないと考えられることから、外のグラウンドを確保。今年に入り初めての練習の為、十分なストレッチとアップの後に練習を開始。本格的な激しい試合形式ではなく、コートを小さくしフットサル形式での練習を行った。

3. 成果と所感

日韓親善試合まで期間があること、年度末の土日という条件が重なったため、参加者は10名弱と比較的少なかった。普段、体を動かす機会が少ない参加者も、フットサル形式で軽めに進行したことで個々のレベルに合わせて汗を流す事ができたのは良かったと考える。

サッカーが、ほとんど初めての参加者も活躍し、練習会は大いに盛り上がった。技術部門や年齢を超え、サッカーをすることでコミュニケーションを図ることが出来たことは一つの成果である。

サッカーの中で技術士の方と交流を持てたことにより、諦めかけていた技術士をもう一度目指そうという参加者もいた。継続することにより技術士会への繋ぎの役割も果たしていると感じることが出来た。

4. 今後の展開

今後は参加頻度が高い人を増やすことを心掛けたい。参加者数のベースが増える事で、より新しい人も参加しやすくなると考える。サッカーというきっかけを使って、様々な人とコミュニケーションを図ることができ、技術的な交流の場が持てることは非常に素晴らしい事である。このような交流の場を定期的に提供し情報宣伝を行うことで、継続・新規の人が参加しやすい空気作りに努めたい。そのことが結果として参加頻度が高い人が増えることに繋がると考える。

以上

地域本部 活動報告書

活動の骨格



H25活動宣言 ～全国大会(北海道)にて～

技術士の知名度向上に向けて

～ なりたい職業No. 1を目指して ～

北海道本部青年技術士交流委員会 活動宣言

1. 積極的な情報発信を行います。

個人：論文等で「技術士」を名乗る、SNSでの情報発信 etc.
 本部：Facebookを活用した情報発信、マスコミへの情報提供
 グッズ製作（Tシャツ、軍手等） etc.

2. コミュニケーション力を向上します。

プレゼン力向上のための内部勉強会など、まじめで・楽しく・
 おいしい懇親等により人脈・ネットワークを拡大 etc.

3. 外への発信を重視した活動に取り組みます。

一般公開のイベント、大学生とのコラボ企画、より若い世代への
 アプローチ（小中高生） etc.

H26活動計画 ～活動計画&振り返り～

<活動を振り返って>

- ◇ できたこと
- ◆ できなかったこと

積極的な情報発信

Facebookの内容充実、積極的な情報発信

- ◇ 若手技術士 & 技術者に向けて：活動紹介、技術情報、試験情報を発信
- ◆ 一般市民に向けて：技術士の存在、活躍をもっと伝えたい

マスコミへの情報発信

- ◇ 研修会等のイベント情報の投げ込み
- ◆ 実際に記事に取り上げてもらうこと

技術士グッズの製作

- ◇ 数回のワークショップをへてグッズ案を練り上げ、製作に着手
- ◆ グッズの完成、活用

コミュニケーション力の向上

全国大会、拡大委員会、日韓大会への参加

- ◇ 全国大会(8名)、拡大委員会(2名)、日韓大会(2名)に参加
- ◆ もっともっと参加者を増やしたい
- ◇ ほかにも、幹事勉強会で交流、合宿で次期の活動計画を立案

研修会後の意見交換会、懇親会の開催

- ◇ イベント後に意見交換会、懇親会で交流
- ◇ 一次、二次試験合格者祝賀会で青年主催の二次会を開催

外への発信を重視した活動

公開型講演会、研修会の開催

- ◇ 公開型講演会 & ワークショップの開催
- ◇ 教育機関への出前講座「学校へ行こう」を開催
- ◇ 小中学生を対象にした環境科学展に出展
- ◆ 大学生とのコラボ企画、小中高生を対象としたイベントの開催

公開型講演会 & ワークショップ



- ◇ オープンスペースでの講演会&ワークショップ
- ◇ スケッチ手法を用いたアイデアブレインストーミング
- ◇ 技術士の知名度向上に役立つグッズ製作にチャレンジ

出前講座「学校へ行こう」



- ◇ 大学工学部への出前講座
- ◇ 「技術士とは」、「技術士の仕事紹介」と題して5名が講演

小中学生を対象にした環境科学展



- ◇ 土木研究所との連携協定の一環で環境科学展に出展
- ◇ 主に小学生を対象に「流れる水のはたらき」の大実験

全国との交流 ～全国大会(九州)～



- ◇ 全国の皆さん、九州の皆さん、ありがとうございました！
- ◇ 活動を振り返り、青年間の技術連携をはかる良い機会
- ◇ 全国での取り組みを知り、自分たちの活動のヒントを得る

これからの2年間の活動方針

多様な交流の場の創出、求められる資質の向上

- ◇ 若手技術者、大学生を対象としたイベントの企画
- ◇ 全国大会への積極的な参加
- ◇ 幹事勉強会の継続
- ◇ テクニカルツアーの開催

社会とのつながりを重視した活動、情報発信

- ◇ facebookによる情報発信の継続、内容充実
- ◇ 技術士グッズの完成、活用
- ◇ 公開型講演会の継続
- ◇ 小中学生を対象としたイベントの企画
- ◇ 「学校へ行こう」を高専、その他の教育機関でも開催
- ◇ プレスリリースの継続、実際に取り上げてもらうための工夫

活動体制の強化

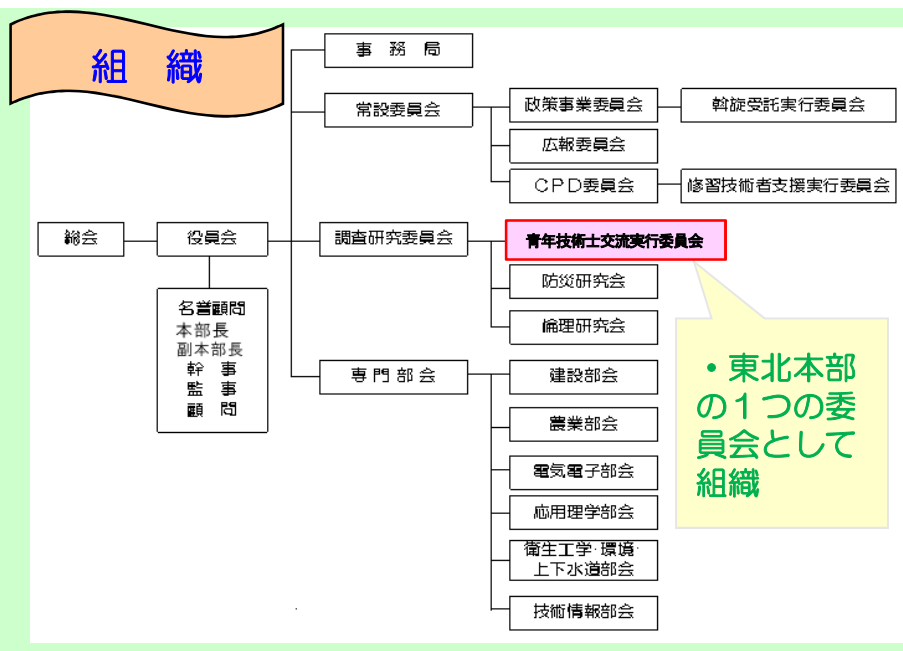
- ◇ 活動グループの体制強化、サブリーダーを配置
- ◇ 若い幹事メンバーを増強

新体制 始動！

これからの2年間、よろしくお願いいたします！
未来を担う新幹事も、ぞくぞくと増えています！

写真左側より、千葉幹事長、小澤副委員長(研修担当)、
平岡副委員長(講演担当)、神保副委員長(会計担当)、
木本副委員長(広報担当)、仁田委員長、そして、
永井前委員長、これまでの2年間、お疲れさまでした！





メンバー 全19名：コンサル12、ゼネコ3、その他4

平成27年度 青年技術士交流実行委員会 委員					
NO.	役職	氏名	部門	勤務先	摘要
1	委員長	堀内 深	建設	コンサル	
2	副委員長	久保 善央	上下水道	メーカー	
3	〃	飯島 正顕	建設	コンサル	
4	委員	五十嵐 栄吉	電気電子	設備	
5	〃	大木 高志	建設	コンサル	
6	〃	小原 洋	建設	コンサル	
7	〃	関米 浩久	建設・農業	コンサル	
8	〃	河田 洋志	建設	メーカー	
9	〃	木村 幸由	生物工学	公官庁	
10	〃	小島 淳	建設・環境	コンサル	
11	〃	齋藤 大介	農業	コンサル	
12	〃	佐々木 俊彦	建設	コンサル	
13	〃	柴崎 進	建設	コンサル	
14	〃	辻 孝広	建設	ゼネコン	
15	〃	武地 真一	建設	ゼネコン	(女川勤務)
16	〃	渡邊 弘毅	建設・総合	コンサル	
17	〃	飯島 正人	建設	ゼネコン	
18	〃	佐藤 勝幸	建設	コンサル	(沿岸部勤務)
19	〃	水出 佳奈	建設	コンサル	(盛岡勤務)

・建設以外、女性の幹事を増やしたい
・出席率が向上する企画立案が課題

・震災復興事業に従事

定例幹事会

毎月2回 水曜日18:30～ 開催

H26年度 青年技術士交流実行委員会 活動報告 定期委員会実績

回数	日時	出席	内容	懇親会
第1回	14.07.23	5名	1. 平成26年度の体制、2. 平成26年度の活動計画、3. 7/5役員会の報告、4. 拡大委員会参加報告、5. 全国大会について、6. 日韓会議について、7. その他	5名
第2回	14.09.10	7名	1. 平成26年度の活動計画(経過)、2. 全国大会について、3. 技術士制度紹介活動について、4. 話題提供、5. その他	7名
第3回	14.10.08	6名	1. 平成26年度の活動計画(経過)、2. 全国大会について、3. 技術士制度紹介活動について、4. 見学会について、5. 話題提供、6. その他	6名
第4回	14.11.12	7名	1. 平成26年度の活動計画(経過)、2. 見学会報告(10/24-25)、3. 役員会報告(10/31)、4. 全国大会参加報告(11/7-9)、5. 宮城大学技術士制度紹介(11/14確認)、6. 東北学院大学技術士制度紹介(10/29事前打合せ結果)、7. 忘年会について、8. 話題提供、9. その他	4名
第5回	15.04.15	8名	1. H27年度の活動予定、2. 総会について、3. H27年度委員について、4. その他	8名
第6回	15.05.13	8名	1. H27年度の活動予定、2. 総会について、3. その他	6名

・議題討議
・話題提供

見学会

・'14.10.24釜房ダム

懇親会

・毎定例委員会後

・試験の後、ビアガーデンで打上げ

・ITキャンプみちのくフェーズで懇親会

技術研鑽

- 普段の業務から
話題提供
- 幹事のもち回り
- 他分野の話題は
新鮮で興味深い
- 時には、斬新な
意見も出る



毎幹事会で、話題提供

回数	日時	出席	話題提供
第2回	14.09.10	7名	①飯島正顕委員:「韓国のインフラについて」 ②河田洋志委員:「はじめまして～エスイーです～」
第3回	14.10.08	6名	①久保委員:「下水熱利用について」 ②堀内委員:「プレキャストアーチカルバートの施工について」
第4回	14.11.12	7名	①柴崎委員:「NETIS新工法適用上の留意点」
第5回	15.04.15	8名	①堀内委員:「鉄道高架橋支承対策」
第6回	15.05.13	8名	①五十嵐委員:「再生可能エネルギー発電の固定買取制度の現状について」

講習会

各種講習会を企画・開催

吹雪からクルマと道路をどう守るのか？



- 北海道での吹雪
対策を紹介

技術士制度紹介

大学で社会で活躍する技術士を紹介

’14.11.14宮城大学 食産業学部

’15.01.14東北学院大学 工学部

- 圃場整備業
務紹介

- 授業の1
コマに出張

- 女性技術
士として

- ワークショップ 10
年後の自分

今後の活動

より活発な活動を目指します

- 技術研鑽の充実
- セミナ、勉強会、
見学会企画
- JABEE広報活動
- 東北他県との交流
etc



地域本部活動報告（中部本部）

中部青年技術士交流委員会
委員長 石川

2014年度活動結果

地域本部活動報告(中部本部)

2014年度活動方針

技術士ネットワークを最大限活用し、自らの行動力と継続力にて夢を実現！日本の元気につなげよう！

1) 定例会



恒例の自己紹介・WG計画



企業内技術士懇談会と合同



各WGの活動報告



私と●●。得意分野をアピール



トヨタ自動車工場を見学



金曜の夜に酒を語る… これぞ中部

2) WG活動

建設WG

- ・黒部ダム見学
- ・瑞浪超深地層研究所
- ・大井ダム見学

環境WG

- ・キシノウエトタテグモ調査
- ・木曽川ワンド生態調査
- ・荒子川公園はやにえ・探鳥会
- ・安濃川調査生態調査

製造WG

- ・中部電力碧南火力発電所見学
- ・中電武豊火力発電所見学
- ・メガソーラたけとよ見学

* 2014年度主な活動



昨年も中部は懇親会中心の楽しい会でした

2015年度活動方針

新しい発想、正しい技術、そして楽しむ心。

技術士の英知を集結し、世代を跨过楽しく豊かな社会に繋げよう！

■ 自分自身の技術を研鑽、活動を通じて自分の楽しさへ

- ・ 普段から気になっていること、やってみたいと思っているが実行に移せないこと等を、会員のつながりを使って実行する。 …WG活用
- ・ 形式的なものより、会員自身が楽しいと思う“30周年記念大会”企画を

■ 更に広い範囲の技術者と活動！

- ・ 中部は案外、多くの技術部門を有する
- ・ 例会、技術同好会（WG）は適宜コラボしながら、多くの人に参加して頂けるフレキシブルな形態へ
- ・ 家族も参加できる企画を考える ：次々世代の技術者の育成
- ・ 大学生とコラボするパイプを作る ：次世代の技術者の育成



タイ支部



大人も子供も一緒に
技術を楽しむ

■ 技術的議論を充実し、成長を実感する！

- ・ 技術士らしくしっかり議論できる場を提供 …WG後は見学会後の例会

より技術を楽しめる企画、大学・一般(子供含む)を巻き込んだ活動へ
楽しい交流が楽しめる30周年記念大会を実施します(16年度)

2015中部青年技術士交流委員会メンバー

地域本部活動報告(中部本部)

委員長



石川

副委員長



小島
※代表代行



嘉田



高瀬

委員長 石川智康 情報工学

副委員長 小島茂樹 建設
嘉田善仁 機械工学
高瀬春之 経営工学

委員 本多 仁 建設
秋山幸之朗 機械
藤田 政利 機械
河原 弘明 建設・総監
奥村 康 機械
小塚 俊吾 機械
三島 孝朗 機械

委員補佐 中島 丈晴 建設
木村 琢磨 電気
平野健二郎 化学
後藤 彰弘 機械
松田深雪 建設

委員



本多



秋山



藤田



河原



奥村

NEW

委員



小塚



三島

委員補佐



中島



木村



平野



後藤



松田

NEW

今年も個性派メンバーで活動します！

やります！
中部青年技術士会
設立30周年記念大会！



開催日：平成28年5月21日(土)
場所：名古屋市内(近日決定予定)
アジェンダ：記念式典
記念パーティー 他

たくさんのご参加お待ちしております！

2014年度の近畿地区 青年技術士の活動

近畿青年技術士懇談会



- ・各月一回の例会を実施
- ・毎回20～35名の参加で安定
- ・技術講演、ファミリーストーリー

・例会後の懇親会も盛況



- ・京都技術士会と合同で
自転車同好会やテニス
同好会も結成！



自分たちが充実した時間を過ごせる活動は
軌道に乗っている。

アウトプットを指向した
活動母体(委員会)を
近畿本部内に作りたい！

近畿本部

青年委員 (近畿本部)
宮西 健次

一人では何もできない。

近畿本部青年技術士交流委員会の 立ち上げ

2015年1月の近畿本部役員会で、2015年度より近畿本部内の
委員会組織として、「近畿本部青年技術士交流委員会」の
設立が承認された。

2015年7月の近畿本部役員会で、今年度の活動予定、就任委員
が承認される見込み。

就任予定委員

委員長	宮西	健次	委員	田中	慎
委員	大塚	正樹	委員	藤内	洋
委員	加島	清	委員	藤本	喜敏
委員	小宮	洋行	委員	榎一	憲生
委員	千田	琢	委員	松山	賢吾

近畿本部青年技術士交流委員会 の活動予定内容

- ①全国の青年組織の一員としての活動
全国大会や拡大青年委員会への積極参加。
他の地域本部青年組織との交流。
(例)
地域社会貢献
地域NPO法人主催の子供向けキャンプでの自然体験、工作、実験支援として
講師を派遣する。
- ②次世代への働きかけ
(例)
JABEEコース学生との交流活動。
- ③ワークショップを通して、アウトプットをまとめて発信
(例)
技術士の価値向上のためのマーケティングプラン立案

近畿本部青年技術士交流委員会 の活動予定内容

- ④ワークショップを通して、アウトプットをまとめて発信
(例)
技術士の価値向上のためのマーケティングプラン立案

テーマ 「技術士の社会的『価値』向上のための マーケティングプラン作成」

内容 製品や技術、サービスの顧客価値を明確にし、顧客にそれを理解して
もらうためのプランを立案するマーケティングの手法を用い、技術士
の社会的価値のために必要なこと、やるべきことを立案する。

進め方 「ものづくり系技術士」班と「インフラ、サービス系技術士」班の
2班に分かれて約9か月で、それぞれの立場から技術士の社会的価
値向上のためのプランを立案し、報告書を作成する。

青年技術士交流会 中国本部の活動紹介

公益社団法人 日本技術士会 中国本部
青年技術士交流委員長 赤木 真也

2015年6月27日(土)

1. 青年技術士交流会の活動内容

○活動内容

	活動内容	時期・頻度
基本綱領	1. 例会・勉強会	毎月第3水曜日
	2. 見学会	概ね毎年1回
	3. 小学生の自由研究支援	毎年1回／8月
	4. 国際交流フェスティバルへの参加	毎年1回／10月
	5. 全国の青年技術士との交流	毎年2回程度
	6. その他(番外編)	都度

2. 青年技術士交流会の活動紹介

(1) 例会・勉強会

○平成26年度の勉強会テーマ

開催月	内 容	講師	参加人数
H26.4月	話し合い「年間スケジュールを決めよう」	—	26名
5月	「国内外の橋梁工事紹介」	外部	35名
6月	「知ってるようで知らない？信頼性工学の基礎講座」	内部	23名
7月	「海外業務を通じて考えた、リスクマネジメント」	内部	23名
8月	「ものづくり教室による社会貢献活動」	内部	27名
9月	「弁護士の業務と士業連携」	外部	20名
10月	「業務内容発表」	内部	15名
11月	「日本はサマータイム制を導入すべし。是か非か」(ディスカッション)	—	18名
12月	「青年技術士・熟年技術士交流会」	—	33名
H27.1月	「～スマホアプリ『ためまっぷ』とは～」	外部	19名
2月	「歌とお話によるウィーンの調べ」	外部	25名
3月	「Neuro Linguistic Programming(神経言語プログラミング)」	内部	18名

2. 青年技術士交流会の活動紹介

(1) 例会・勉強会

○例会の様子



2. 青年技術士交流会の活動紹介

(2) 小学生の自由研究支援

○第4回 たべものの不思議な力 (2014)



2. 青年技術士交流会の活動紹介

(3) 全国の青年技術士との交流

○青年の集い・見学会



2. 青年技術士交流会の活動紹介

(4) 青年技術士交流会 10周年記念例会

〇スケジュール

時 間	内 容
7/5(土) 14:00～	世界遺産航路ツアー
7/5(土) 18:00～	交流会(居酒屋)
7/6(日) 10:00～	10周年記念例会
7/6(日) 14:00～	打ち上げ(ライブハウス)

2. 青年技術士交流会の活動紹介

(4) 青年技術士交流会 10周年記念例会

〇10周年記念例会



来賓+歴代委員長の皆様



本部長の挨拶



おにぎりまん(司会)



統括・山本さん参上!

2. 青年技術士交流会の活動紹介

(4) 青年技術士交流会 10周年記念例会

〇打ち上げ



青年技術士交流委員会 中国本部メンバー

〇副委員長 田中

〇副委員長 三角

〇委員長 赤木

〇副委員長 金高

〇副委員長 新淵



(1)活動目的と方針

四国地域における若手技術士を中心とする技術者ネットワークを構築し、会員相互の能力向上を果たすとともに、技術士としての職能を地域社会に幅広く浸透させ、技術士の地位向上を果たすことを目的とした活動を行う。

活動方針

- 【方針1】 青年技術士として幅広い能力向上を図る
- 【方針2】 四国地域の青年技術士相互の交流を図る
- 【方針3】 青年技術士として地域との交流を通じ社会貢献を図る

(2)主な活動内容

① 青年技術士交流会の開催

【方針1】 青年技術士として幅広い能力向上を図る活動

第5回青年技術士交流会(徳島)

(開催日:平成26年6月14日,参加者数:18名)

- NPO法人 新町川を守る会
- 特別講演, 新町川クルージング



「できる人が・できる時に・できることを
一人の百歩より百人の一步」

第6回青年技術士交流会(高知)

(開催日:平成26年7月12日,参加者数:14名)

- 視覚障害者と社会資本整備
- 特別講演, 視覚障害体験



第7回青年技術士交流会(愛媛)

(開催日:平成26年11月1日,参加者数:29名)

- 『重金属汚染と対処方法』
愛媛大学大学院 榊原教授
- 愛媛大学ミュージアム見学



第8回青年技術士交流会(香川)

(開催日:平成27年1月31日,参加者数:28名)

- 『若手技術者に伝えたいこと』 元国土交通省 鈴木氏
- ワークショップ
「四国の青年技術士(技術者)だからできる交流会に向けて」



② 青年技術士交流会 懇親会

【方針2】 四国地域の青年技術士相互の交流を図る活動

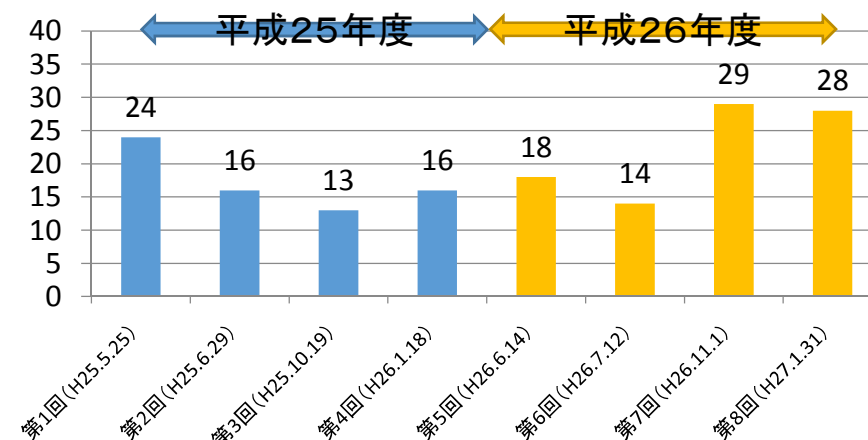


③ 第44回日韓技術士国際会議への参加

第44回日韓技術士国際会議
 (平成26年10月19日(日)～21日(火)、松山市)



(3) 参加者の推移



(4) 平成27年度活動計画

■ これまでの活動に加え、**社会貢献活動を実施**
 香川大学主催の小学生向けイベント「科学体験フェスティバル」に四国本部青年技術士交流委員会として参加予定

九州本部 活動の3本柱

①合格者祝賀会（4月）・見学会（6月）・公開講演会（12月）・定例会（随時）

～合格者祝賀会（4月）～

講演



合格祝賀会



青年技術士会活動報告



2次会（勧誘）



～見学会（6月）～

九州各地の技術遺産や施設、文化や風土など興味深い場所へ見学に行きます。

平成25年見学会



～公開講演会（12月）～

「今」話題性のある技術をテーマに、専門家と一般受講者との距離の近い講演を心がけてます。

2014年12月13日講演（福岡工業大学）
演題1：クルーズトレイン『ななつ星in九州』の設計・制作
演題2：日本の再生エネルギーの現状と地域の取り組みについて



交代！決定！！



②JABEE支援活動（大学・高専での講演）

将来の技術士に向け、業務の現状や大変さ、責務、面白みなどをグループディスカッションを交えて講演しています。



→各県支部の若手と合同開催を検討中！！！！

③夏休み自由研究教室（8月）：大学や企業等と協同し科学や技術に触れ合う機会を子供たちへ！

STOP理科離れ！ 子供たちの科学や技術に対する**興味関心を育てる**ことを目的に毎年開催しています。
身近な技術から先端技術まで子供の興味を引くテーマを熟考して企画しますが、基本的に**大人が熱く**なりがちです。

第5回：生きた**化石**！
カブトガニを探せ！
（2012年：九州大学）



第6回：**宇宙**と交信しよう！
人工衛星との**通信**！
（2013年：九州工業大学）



第7回：**便器**って、どう
やって作られるの？
（2014年：TOTO小倉工場）



第8回：**飛行場の仕組み**
みて知ってる？
（2015年：福岡空港）

教室のねらい！

- ①子供たちが知らないことを体験させてあげたい
- ②悩ましい夏休み自由研究のお手伝い
- ③親子のふれあい UP!
- ④STOP理科離れ・技術への興味!
- ⑤技術士の知名度 UP!

真の狙い！



TV放映
されました！

カブトガニを探せ！



人工衛星と通信中



平成26年

11月7日（金）～11月9日（日）

技術士全国大会（福岡）
青年技術士交流委員会の報告



平成26年全国大会（福岡）！

第41回技術士全国大会（福岡）

1.開催概要

1/2

□全体スケジュール

11/7 (金) 18:30～ 青年前夜祭1次会
21:00～ 青年前夜祭2次会
(23:00解散予定)

11/8 (土) 8:30～ テクノツーリズム
＜フルスペックコース＞
(JR博多駅筑紫口出発)
テクノツーリズム
＜午後合流コース＞
(太宰府合流ポイント集合)
19:00～ 青年大懇親会
(二日市温泉大観荘)

11/9 (日) 12:30～ 青年技術士交流会議
(福岡国際会議場4F409,410)
14:00～ 青年技術士の集い
(福岡国際会議場4F409,410)
18:35～ ウェルカムパーティ
(博多湾ナイトクルーズ
レストランシップ「マリエラ」)
21:00～ 青年有志の集い

11/10 (月) 9:30～ 技術士活動体験発表大会(福岡国際会議場3F)
14:00～ 大会式典(福岡国際会議場3F)
15:20～ 記念講演(福岡国際会議場3F)
16:40～ 大会宣言(福岡国際会議場3F)
17:30～ 交流パーティ(福岡サンパレス パレスルーム)





11/7「前夜祭1次会」(中洲)



11/7「前夜祭2次会」(中洲)



11/8「デクノツアーリズム」(福岡城址)



11/8「デクノツアーリズム：散策ミッション優勝！J組」



11/8「デクノツアーリズム」(水城跡)



11/8「デクノツアーリズム」(福岡跡)



11/8「大懇親会」(二日市温泉大観荘)



↑：？？？



11/8「大懇親会」(二日市温泉大観荘)



11/8「大懇親会：特別ゲスト」



11/9「青年技術士の集い」(福岡国際会議場)



11/9「青年技術士の集い」(福岡国際会議場)



11/9「青年技術士の集い」(福岡国際会議場)



11/9「ウェルカムパーティー」(マリエ)



11/9「有志の集い」(ワインバー)

全国の、みんなの笑顔があふれた3日間でした！サンキュー！

※「青年の集い」で作成した動画：<http://youtu.be/5GIM0yL4bo0> です。

青年委員会活動報告

北陸の活動

3大イベント

見たい

聞いてみたい



山の下閘門排水機場



天然ガス採取プラント
((株)東邦アーステック)



技術士センタービル I にて

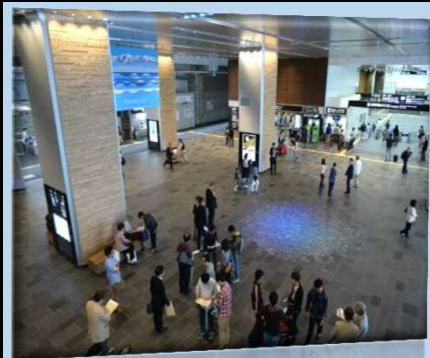


小浦 准教授(新潟大)



長尾 准教授(新潟大)

集う



新しくなった富山駅構内



「青年の集い」緊急対策会議



呉羽ハイツ(温泉)にて



テクノ(岩瀬の廻船問屋)



テクノ(富岩運河)



???

いいものを**探求**する... 阻めた未知の**ロマン**

2015年春、新たな活動

春の行事

spring celebration

平成27年度 青年技術士ウェルカムパーティー
技術士(補)有資格者懇談会 & 合格祝賀会の
2次会として本年度から実施 (H27.4.19. 19名)

そして...

H27年度新体制

a new hokuriku order

構成	人数	備考
委員長	1	大高(新)
副委員長	3	岡野(再) 多田(再) 小酒(新)
委員	12	
計	16	



いま勧誘しないとね

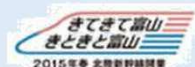


- ◆H27年度は、昨年度から4増6減でゴッソリと入れ替わり、ちょっと若返りました。詳細は委員紹介名簿を御覧下さい。
- ◆坂東前委員長のアカデミック路線を継承することができるのか？
- ◆未就学児～小学生くらいの子供を持つメンバーが多い構成になった(と思う)。これからはファミリー向けの企画も考えた...かな？

いろんな仲間にいろんな刺激をもらう。
それでハイブリッドな何かが産まれるかもしれない。



H27年度 北陸本部拡大青年技術士委員会会議 in 富山にて



北陸新幹線開業に合わせて富山県初開催

第42回 技術士全国大会 (北陸・富山)

青年イベントのご案内

1. 全体スケジュール

テーマ(仮): 北陸の技術～酒・雪・街・海～

月日	時間	行事	場所
10/1(木)	午後 午後 18:00～19:30	専門会議 学術見学会A・B ウェルカムパーティー	富山国際会議場 富山県内 グランドプラザ
10/2(金)	午前 午後 17:30～19:30 20:00～	分科会 大会式典 記念講演 交流パーティー 青年二次会 ※全体パーティー後	富山国際会議場 // // ANAクラウンプラザホテル富山 未定(現在検討中です)
10/3(土)	9:00～10:00 10:00～12:00 13:30～17:30 18:00～	全国青年技術士交流会議 (統括本部主催) 青年技術士の集いin富山 テクノツーリズム 大懇親会(宿泊あり)	富山国際会議場 富山国際会議場 富山市内 呉羽ハイツ
10/4(日)	AM	解散	

2. 青年技術士の集い (グループリーダー: 小酒)

全国の青年技術士の皆様へ！

今年の全国大会は **“富山”** です。

さて、**“富山”** と言えば、皆さん何を思い浮かべますか？
例えば、こんなもの？



※とやま観光ナビHPより抜粋

思い浮かぶものがある人、ない人、色々いらっしゃると思います。

2. 青年技術士の集い

全国大会@福岡(中洲)では、**技術士の知名度向上**という大きなテーマが完結(と思っている)しました。
昨年の集いの最後には、富山大会における青年の集いテーマ(予定)のPRとして、下記の内容を紹介をさせていただきました。

“仮テーマ：北陸の技術” ～酒・雪・街・海～

また、富山(県)では、こんなポスター(あくまで一例ですが)を作っています。

“富山で休もう”

こんなことを踏まえながら、北陸の青年技術士で集まり、全国の青年技術士の集いの企画を考えました。



※とやま観光ナビHPより

2. 青年技術士の集い

熟慮に熟慮を重ねた結果、、、

(富山を例として)地域の**キャッチコピー**を
全国で活躍中の気鋭の青年技術士達で考えよう！

にしました(これも仮題です。すみませんm__m)。

今回のテーマ選定理由は・・・

➤ 今回は、久々の**大都市以外**での全国大会

(昨年まで福岡、札幌、大阪、東京)

➤ 大都市と違い、**地域(地方)**は**人口減少など様々な課題**を抱えている。同じ課題を抱える地域(地方)は多いはず。

➤ これを解決するため、**地域の「宝」**をヒントに、**異業種のエキスパートの集まりである技術士が地域の課題を解決できそうなキャッチコピーを提案**し、役立ててもらおう！

※技術士が集まるとすごいなー、と感じてもらえる提案で、

知名度も、技術士会の会員数も、仕事も



3. テクノツーリズム

(グループリーダー: 大門)

1. ツアー概要

- ・日時: 平成27年10月3日(土) 13:30~17:00
- ・趣旨: 「技術的視点」をもちながら、富山の定番観光スポットを知ってもらう

2. 見学地概要

【見学地①: 富山駅】

- ・新幹線とLRT(市内路面電車)が直結した駅です。
- ・LRTを軸としたまちづくりの現場について知っていただきます。

【見学地②: 中島閘門】

- ・富山駅北側と富山湾を結ぶ運河の途中にある国指定重要文化財の閘門です。
- ・上流と下流の水位差を調節するもので水位差は日本最大級です。

【見学地③: 岩瀬のまちなみ見学】

- ・北前船で栄えた港町「岩瀬」の回船問屋群のある町並みです。



4. 大懇親会

(グループリーダー: 大門)

1. 大懇親会概要

- ・日時: 平成27年10月3日(土) 18:30～
- ・趣旨: 富山の食を味わってください。
- ・場所: 呉羽ハイツ

新鮮な魚、北陸の地酒と
秘密のワイン(?)が
お待ちしております！



富山の夜景も一望できます



5. 大会記念Tシャツ作成 (グループリーダー: 下鳥)

- 中国の「**技**」、九州の「**術**」につづき、北陸で3文字目「**士**」のTシャツ作成中。



- 作業は快調に進行中。
- 題字は富山県・氷見市出身の「藤子不二雄A先生」に書いて頂きました。

※みなさまのお申込みお待ちしております。



大会記念Tシャツイメージ図

6. facebook(広報) (グループリーダー:岡野)

- facebookで準備状況をお知らせする予定です。

**全国のみなさま、10.3は北陸・富山で
お会いしましょう。**

10:3
TYM



2013 - 2015 青年技術士交流実行委員会 委員

2015年6月27日現在

	氏名	推薦元部会 /地域本部	役職
委員(統括本部)	杉山 耕治	機械	
	品田 義政	機械	会計
	松井 聡大	機械	
	吉田 清一	電気電子	
	田中 雅人	電気電子	副委員長、例会Gリーダー
	佐藤 理英	化学	
	山本 憲志	金属	委員長
	中村 聡	建設	
	金丸 阿紗美	建設	
	道家 健太郎	建設	
	鳶田 泰彦	上下水道	
	瀧川 裕美	上下水道	
	越智 尚一	衛生工学	
	田角 由香	水産	
	赤木 宏匡	経営工学	
	石井 利教	情報工学	
	安力川 幸司	情報工学	国際Gリーダー
	太田 道宏	情報工学	
	小野寺 純	生物工学	ITGリーダー
	野口 宏	環境	
	丸山 奈緒子	環境	
	伊藤 友加里	原子力・放射線	
委員(地域本部)	永井 登茂美	北海道	
	堀内 深	東北	
	坂東 和郎	北陸	
	高瀬 春之	中部	
	宮西 健次	近畿	
	金高 智之	中国	
	小笠原 誠	四国	
	持田 拓児	九州	
委員補佐	小池 竜	機械	
	河邊 洋介	化学	
	渡邊 弘毅	建設	
	昆野 哲也	上下水道	
	藤井 佳直	情報工学	
	村崎 諒	情報工学	
	高橋 義也	情報工学	
	松田 みゆき	繊維	
	細野 雄治	機械	
	竹入 祐美子	環境	
	古川 星矢	衛生工学	